

■ ■ 卒後臨床研修評価機構
■ ■ 認定病院

Japan Council for Evaluation of Postgraduate
Clinical Training

JCEP



最前線で磨く

医の心と技

初期臨床研修のご案内



地方独立行政法人奈良県立病院機構

奈良県西和医療センター

Nara Prefecture Seiwa Medical Center

index

総長あいさつ.....	p5
院長あいさつ.....	p6
病院概要.....	p7
奈良県西和臨床研修病院群.....	p8
理念と基本方針.....	p9
研修理念とプログラムの特徴.....	p10
奈良県西和医療センター臨床研修の実際.....	p11
卒後臨床研修評価機構(JCEP)認定.....	p15
臨床研修プログラム.....	p16
科目について.....	p17
各診療科の特色.....	p18
総合内科、感染症内科、腫瘍内科.....	p19
腎臓内科.....	p20
循環器内科.....	p21
消化器・糖尿病内科.....	p22
中央内視鏡部、呼吸器内科.....	p23
脳神経内科、小児科.....	p24
外科・消化器外科.....	p25
整形外科・人工関節センター.....	p29
脳神経外科.....	p30
集中治療科.....	p33
皮膚科、形成外科.....	p34
泌尿器科.....	p35
乳腺外科.....	p36
産婦人科.....	p38
耳鼻咽喉科、リハビリテーション科.....	p39
放射線科.....	p40
麻酔科.....	p41
集学的循環器病治療センター.....	p43
連携病院での研修.....	p44
学会施設認定および厚生労働省による特殊治療施設認定.....	p53
学術教育活動.....	p54
大和川メディカルアカデミー、奈良県西和医療センター医学雑誌	
医学生と研修医のための日本内科学会ことはじめ.....	p55
教育体制.....	p56
研修医のためのモーニングカンファレンス.....	p57
内科統合カンファレンス.....	p58
臨床病理検討会(CPC).....	p59
研修医セミナー.....	p60
院外講師による特別講座.....	p63
シミュレーショントレーニング.....	p82

院外研修	p104
院内取り組みについて	p105
DMAT活動	p106
令和6年(2024 年)	p107
能登半島地震被災地域への支援活動	
院内災害訓練.....	p109
COVID-19 診療(研修医の関わり)	p110
研修医の日常	p111
住みやすさ全国 No.1 の立地で豊かな研修生活を！	P112
日勤・夜勤当番、奈良県立病院機構忘年会	p113
臨床研修修了祝賀会	p114
研修医の集い in 奈良、医師臨床研修修了証授与式、.....	p115
過去の修了生の進路	
先輩の声	p116
私が奈良県西和医療センターを選んだ理由.....	p147
研修設備、待遇.....	p150
募集要項.....	p151
病院見学のご案内、Web 説明会のご案内.....	p152

総長あいさつ

奈良県西和医療センター総長の齋藤能彦です。奈良県西和医療センターは研修指定病院ですが、その良さは、毎年春になれば、2年間研修した先生が巣立って行く、そして若い研修医の先生が入って来られる、ということです。若い先生が毎年来られることが、どれほど病院を活性化していることでしょうか！皆様、奈良県西和医療センターでの研修に興味を持ってくださいます、心より御礼申し上げます。

さて、奈良県立病院機構の理念は、「“医の心と技”を最高レベルに磨き、県民の健康を生涯にわたって支え続けます」です。“医の心と技”は、両方とも同等に重要です。皆様が医師を志した時、そして、医師として働き始めた時にも、患者さんのために働きたい、

病める人に寄り添いたい、患者さんを断るなんてあり得ない、と自然に思っていたはずです。それこそまさに“医の心”です。ところが、医師になり時間が経過するとともに、また、ぞんざいな医師の中で働いていると、その医の心を忘れてしまうことがあるのです。奈良県西和医療センターの理念は、「患者さんを家族のように愛する」ですが、このような環境に身をおくことによって、知らず知らずのうちに“医の心”が体に染み付き、患者さんから信頼される医師に育って行くのです。三つ子の魂百までです。

もう一つの“医の技”を最高レベルに磨くことも極めて重要です。“医の技”を最高レベルに到達させることは一朝一夕には不可能です。しかし、奈良県西和医療センターでは、最高レベルの“医の技”を持っている先輩医師がたくさん在籍しております。彼らの“医の技”を間近に見て、体得してください。

人が人間として成長していく上で、読書は大変重要なものです。読書に多読と精読があるように、医師として成長する為にも、多くの症例に接することと、症例を深く科学することの両方が必須です。若い時に触れたことなかった疾病は、上手に対処することが困難なものです。若い時は、貪欲に多くの症例に触れることが重要です。しかし、ただ多くの症例に触れるだけでは、医師としての科学的な素養を醸成することは困難です。時には、症例を深く掘り下げる必要があります。その分野の最新知識を勉強し、目の前の症例に還元すること、そしてそれを、学会で発表し文字として残すことが重要です。このような精読を、全ての症例で実践することは時間的に不可能ですが、時には大事なことです。

もう一点、2024年から実施される「医師の働き方改革」が実施されますが、この新しい制度の中でも有意義で実りある研修期間を過ごして欲しいと思います。英語で研修医のことをレジデントと言いますが、レジデントとは、住民の意味です。昔は、病院に住んでいる人ということで、研修医がレジデントと呼ばれていたのです。現代では、このような考えは成り立ちませんが、逆に先生方自身の、心構えがより重要になります。1日はどのような人にも24時間です。この24時間をどの様に使うかで将来が決まります。勤務時間を上手に有効に使い、さらに、残りの時間の使い方をご自身でよく考え、2度と戻らない研修期間を有意義に過ごして下さい。最後に私の師である井村裕夫先生から教えていただいた、エマーソンの詩の一節「目標ある人生に幸いあれ！」を贈ります。



奈良県西和医療センター
総長 齋藤 能彦

医学生の君へ(教育は奈良県西和医療センターの礎)

奈良県西和医療センターでは、最高レベルの医師臨床研修を目指して、プログラムを進化させてきました。そのレベルは、ここで研修し大学病院などの様々な専門医プログラムに羽ばたいて行った卒業生たちの実力をみていただければ、理解していただけると思います。

奈良県西和医療センターは、基幹型臨床研修病院ですが、同時に地域に密着した、高度急性期・重症急性期医療を担う地域医療支援病院でもあります。奈良県西部に暮らす県民 30 万人の命と健康を守っています。最後の砦といわれる大学病院とは異なる、最前線の医療機関ですので、まだ診断がついていない、しかも重篤な患者さんの最初の診療を担うことが使命です。そのためプライマリ・ケア、救急医療、総合診療を2年間の重要な研修テーマとした上で、専門的な診療科での研修を展開するようにしています。ローテートは、1年目で必修診療科をまわりますが、まずは内科での研修から開始します。内科での研修を通じて、プライマリ・ケアでの実践を行い、医師としてのプロフェッショナルリズムを学び、自らの医師としての姿勢を確立していただきます。そして救急科、麻酔科、小児科、外科などの必修診療科での研修を通じて、あらゆるジャンルに精通する知識と技術を培ってゆきます。2年目の研修では将来を見つめて、内科の消化器内視鏡手術や循環器のカテーテル手術のチームに入って学ぶだけでなく、より専門的な外科系診療科のがんの手術や様々な鏡視下手術、脳神経外科手術、心臓血管外科手術を学ぶことができます。救急医療においては、研修医1人あたりのファーストタッチ件数は2年間で 500 ～ 600 例にもなるため、実践での豊富な経験に裏打ちされた知識と技術が身に付きます。このような最前線での医療を担うために、研修医には様々な教育の場を提供しています。最新の正しい知識と、最前線での実践経験とを統合して、医師としての技術「医の技」を学んでもらえたらと思います。研修医として過ごす 2 年間は、後の医師人生における「医の心」を形成する最も重要な時期です。先輩の真摯な診療態度や患者さんに対する思いやりのあるコミュニケーションを間近でみることによって、医師としてのプロフェッショナルリズムを醸成してもらえると信じています。現在、奈良県西和医療センターは、移転・新築に向けて 2 次医療圏の中心的な基幹病院としての役割、すなわち救急医療を含む高度・重症急性期医療、災害医療や新興感染症パンデミックに対する医療などに焦点をしばって、病院機能を充実させるとともに、職員が一丸となって、地域住民の命と健康を守るために努力を重ねているところです。

このような最前線に立つ市中の一般病院での医療活動を若い研修医時代に経験しておくことは、どのような専門医コースに進むにせよ、必ず医師としてのしっかりした土台になります。

研修医の皆さんの成長があってこそ病院も成長し、地域になくてはならない愛される医療機関になってゆけると考えて、教育に取り組んでいます。皆さんと共に学べる日を待ち望んでいます。



奈良県西和医療センター
院長 土肥 直文

病院概要

1 診療実績(2024 年度)

入院患者数

延入院患者数	79,277 名
新規入院患者数	6,930 名(19.0 名/日)
平均在院日数	10.5 日
病床稼働率	84.1%
緊急入院患者数	3,759 名
延外来患者数	143,163 名(589.1 名/日)
延救急車搬入件数	4,209 件(11.5 件/日)
時間外患者数	5,415 名(14.8 人/日)
心肺停止状態搬送患者数	83 人/年
病理解剖	1 例
臨床病理検討会(CPC)	3 件

集学的循環器病治療センター

心臓カテーテル検査	588 件(診断は 174 件)
冠動脈カテーテル治療	288 件
カテーテルアブレーション	137 件
末梢血管の血管内治療	86 件
ペースメーカー、植込み型除細動器手術	73 件
心臓血管外科手術件数	97 件
脳卒中手術件数	163 件

総手術件数

外科手術件数	437 件
腹腔鏡下手術	366 件
単孔式	24 件
脳神経外科	273 件

2 診療体制

標榜診療科

総合内科、腎臓内科、循環器内科、消化器内科、消化器・糖尿病内科、呼吸器内科、脳神経内科、感染症内科、腫瘍内科、心療内科、糖尿病・内分泌内科、小児科、外科・消化器外科、整形外科、脳神経外科、心臓血管外科、乳腺外科、皮膚科、形成外科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、リハビリテーション科、放射線科、麻酔科、救急科、呼吸器外科、病理診断科、集中治療科

病床数 300 床 (ICU/CCU 6床・HCU 4 床)

診療科別医師数()内は非常勤

令和 7 年 4 月 1 日現在

診療科	員数	診療科	員数
総合内科	4 (2)	心臓血管外科	(1)
消化器内科	2	呼吸器外科	(1)
消化器・糖尿病内科	5	口腔外科	(2)
糖尿病・内分泌内科	(3)	形成外科	2 (1)
腎臓内科	7	皮膚科	2 (4)
循環器内科	14 (2)	泌尿器科	4 (2)
呼吸器内科	4 (2)	産婦人科	2
心療内科	(2)	眼科	(7)
脳神経内科	(4)	耳鼻咽喉科	2
小児科	5 (1)	リハビリテーション科	1 (2)
乳腺外科	2	放射線科	4 (7)
外科・消化器外科	6	麻酔科	4 (1)
整形外科	5 (6)	集中治療科	2 (2)
脳神経外科	2 (4)	病理診断科	1 (2)



2024 年度採用研修医

奈良県西和臨床研修病院群



奈良県西和医療センター



奈良県総合医療センター



奈良県立医科大学附属病院



ハートランドしぎさん
(信貴山病院)



国保中央病院



南奈良総合医療センター



郡山保健所



奈良県総合リハビリテーションセンター



神奈川県三浦市立病院



上野病院



やわらぎクリニック



大阪曙明館病院



2025 年度採用研修医

奈良県立病院機構理念

“医の心と技”を最高レベルに磨き、
県民の健康を生涯にわたって支え続けます

奈良県西和医療センター理念

- ・患者さんを家族のように愛する
- ・いい医療をより多くの患者さんへ

奈良県西和医療センター基本方針

1. 西和地域における重症急性期を担う基幹病院を目指し、公立病院としての役割を果たします。
2. 患者さんおよび地域社会に満足いただける病院を目指します。
3. 将来の医療を担う「心と技」を兼ね備えた医療人を育成します。
4. 職員が働きがいを感じ、満足できる病院を目指します。

奈良県西和医療センター臨床研修基本方針

1. 人としての心を持つ医師の人格を涵養し、医療人として正しい倫理観を有し、常に適切な思考と判断ができる医師を育成する。
2. 知識、技能、態度、情報収集能力、総合判断力などの基本的な臨床能力を有し、生涯にわたり自己研鑽する医師を育成する。
3. 患者および家族とのコミュニケーションを円滑に行い、全人的医療を実践する医師を育成する。
4. 医療チームの一員として自覚を持ち、協調性をもってチーム医療を実践する医師を育成する。
5. 医療安全を重要視し、その実践に積極的に関わる医師を育成する。
6. 医師臨床研修には、基幹型および協力型臨床研修病院を含むすべての病院職員が参画する。
7. 研修医の医療行為は、基本的に指導医が指示・監督するものであり、その責任を指導医が負う。
8. 臨床研修プログラム責任者および指導医は、行動目標、経験目標の達成状況を常に把握し、臨床研修目標を完遂させるべく指導する。最終的評価は、臨床研修カリキュラム委員会で討議した後、臨床研修管理委員会が管理責任者に対して答申する。
9. 研修医の身分を保証し、労働条件の改善に努め、臨床研修が安全かつ効率的に行えるよう環境を整える。
10. 第三者による評価を受け、検証を行うことにより、臨床研修病院としての質の向上に努める。

研修理念

1. 救急医療と総合診療を中心に幅広い疾患に対応でき、生涯にわたり自己研鑽する医師の養成(総合診療能力と自らを高める姿勢)
2. 患者や家族の社会的背景に配慮し、高い倫理観を持って患者に尽くすことができる医師の養成(利他的な態度と人間性の尊重)
3. 医療チームの一員として他の診療科や他職種のスタッフと適切な協力関係を築くことができる医師の養成(チーム医療と人間性の尊重)
4. 公的医療機関の一員として、いかなる時も地域社会に貢献する責任感を有する医師の養成(社会的使命と公衆衛生への寄与)

プログラムの特徴

1. 医師だけではなく、院内のすべてのスタッフがみんなで臨床研修医を育てる環境を整えている。
2. 内科系・外科系を問わず圧倒的な救急診療を経験する。
3. 少数精鋭主義(各学年10名のため、同じ診療科に1～3名までのローテート)のため、研修医ひとりあたりの経験が豊富である。
4. 集学的循環器病治療センターを有しており、循環器系疾患や脳神経疾患などの高度医療(手術や血管内治療)が充実している。
5. 中央内視鏡部門が強化されており、内視鏡を用いた高度な治療を含む消化器疾患の症例数が多い。整形外科、脳神経外科、外科・消化器外科、心臓血管外科では、高度で多彩な研修が可能である。
6. 指導医だけでなく、院内・院外のエキスパートによるレクチャーやケースカンファレンスなど2年間を通した全体学習に力を入れている。
7. 地域医療研修として、奈良県内のへき地医療、緩和医療、保健所での行政などを経験できるほか、神奈川県地域医療研修も選択できる。
8. 2年目のプログラムは3年目に選択する専門医コース等の進路に合わせた様々なプランの作成が可能で、奈良医大附属病院や奈良県総合医療センターから選択できる。



奈良県西和医療センター臨床研修の実際

奈良県西和医療センター臨床研修プログラム責任者の森本勝彦です。当院臨床研修のパンフレットをご覧ください、誠にありがとうございます。

奈良県西和医療センターの臨床研修では、日進月歩で変化する臨床現場の最前線で適切な医療技術と知識を身につけるのみならず、患者さんに提供する医療への責任感と思いやりの心を育てることを大切に、医療者としてのプロフェッショナルリズムを生涯にわたり研鑽する医師を育てることを目標としています。

1) 研修医ひとりひとりの希望に合わせたプログラム作成

当センターでは、common diseases や救急診療などの地域に密着した基本診療から先端医療まで幅広い研修を用意しています。初期研修 1 年次では 24 週間以上の内科研修に加え、外来診療研修、麻酔科を含めた救急医療研修、さらに一般外科や小児科、産婦人科などの必修診療科を研修します。これら必修診療科の研修ローテーションは予め決められたプログラムを履修するのではなく、研修医全員で相談しローテーションを決定します。この時期は、医療現場で患者さんの支えになるための『医療技術と医師としての心構え』を形成する期間であると同時に、ひとりの社会人として大きく成長する期間でもあります。上級医・指導医だけでなく、看護師や技師、薬剤師、医療事務の方々などすべてのスタッフから、医療業務・医療技術の指導と社会人としての教育を受けていただきます。

2 年次の研修プログラムでは、精神科や地域医療研修など残りの必修診療科を修了するとともに、各研修医の自主性を尊重し、将来を見据えた研修プログラムを自由に計画していただきます。当院の様々な診療科だけでなく、「奈良県総合医療センター」「奈良県立医科大学附属病院」「国保中央病院」「大阪暁明館病院」のすべての診療科および「信貴山病院精神科」「上野病院精神科」「奈良県郡山保健所」から、一定の期間自由に選択することが可能です。また、地域医療研修では、へき地医療を学ぶことができる「南奈良総合医療センター」、地域医療と総合診療教育で有名な北和也先生の「やわらぎクリニック」、回復期医療を学ぶことができる「奈良県総合リハビリテーションセンター」、および神奈川県で地域医療プログラムに定評のある、地域巡回診療を行う「三浦立病院」(三浦半島の最南端にある漁業の町)から選択することができます。2 年次のプログラムは、1 年次終了時点で調整し、適宜希望に合わせて追加調整しますので、臨床研修医支援室でプログラム責任者や指導医と話し合っ、各人の将来に合わせた研修を行うことができます。

そのほか、2 年間の研修において、様々な資格の取得や、各種医学会への参加・発表、論文作成発表も積極的に行っていただきます。こうした研修活動はすべてポートフォリオとして記録に残し、研修医がいつでも閲覧できるよう保管しています。

2) 豊富な症例数の経験と様々な日常臨床基本手技の習得が可能

当センターでは、幅広い経験を積むことができるように救急・総合診療能力を身につける研修を行っており、症候から診断に至るまでの論理的な思考過程をたどる臨床推論能力をつけることを重要視しています。初診外来での診療や walk-in の救急症例の診療だけでなく、年間約 4000 台の救急車搬送(二次救急)への初期対応を行い(研修医ひとりあたり年間 500 ~ 600 症例、2020 ~ 2022 年度実績に基づくデータ)、そのすべてに上級医の指導を受けます。当直では、内科系、外科系、小児科当直の指導医のもと、救急外来に来院されるすべての患者さんの診療に当たります。圧倒的な数の救急疾患を経験することで、重症例の初療や、病棟での急変時にも適切に対応できる技量を身につけることができます。また、上級医の丁寧な指導とフィードバックのもと、様々な診療基本手技を施行することができます。麻酔科での研修においては、研修医 1 人あたり 50 ~ 100 例の気管挿管を含めた麻酔導入症例を指導医立会いのもとに経験します。診

療手技の経験数は研修病院としては圧倒的に多く、どのような患者さんにも対応できる技術を身につけることができます。

3) 日々の学習を深めるための教育体制

研修医は2年間を通して、ほぼ毎日、勤務時間内に全体学習の時間をとっています。どの診療科で研修を受けていても、夕方には研修医室に戻って勉強します。研修医の一週間は、月曜日朝の、研修医による『研修医のためのモーニングカンファレンス』からスタートします。救急やプライマリケア診療にとっても重要なTIPSを、上級医の監修のもと、研修医が同僚研修医に向けてプレゼンテーションします。カンファレンスには、研修医だけでなく専攻医や指導医、診療部長も加わることがあります。発表する研修医にとっては、担当するテーマについて勉強して、さらに同僚や先輩医師に向けて発表するため、知識の習得だけでなくプレゼンテーション能力や司会進行といったファシリテーション能力を身につけ、成人教育法を体験し、インプット・アウトプット力の向上にもつながっています。

各診療科が研修医に対して行う勉強会には、消化器内科の『消化器疾患スキルアップセミナー』、放射線科の『画像の読影トレーニング講座』、循環器内科の『心電図判読トレーニング講座』を全研修医向けに定期開催しています。腎臓内科ではACP(米国内科学会)が発刊する問題集MKSAPを用い、臨床英語学習を兼ねた勉強会を行っています。感染症内科が主催する『感染症ケースカンファレンス』では感染症疾患の基本的な考え方、抗菌薬の使用法の考え方を学びます。一週間の締めは、中村孝人副院長が主催する『総合診療カンファレンス』です。豊富な総合診療の経験や多数の論文によるエビデンスを用い、症例を丁寧に省察することで臨床推論能力を高めます。

また、臨床研修で著名な医師を外部講師として定期的に招聘し、研修医向けの教育講座(多くはカンファレンス方式)を開いています。例えば、年4回当院と奈良県総合医療センターで共催する洛和会京都医学教育センターの酒見英太先生(NHK総合診療医ドクターGの元祖)による総合診療ケースカンファレンスでは、症状や身体所見から診断に至る臨床推論の考え方を磨きます。そのほか、NSTやICTラウンドといった多職種連携プログラムや、小児虐待対応プログラムBEAMS、生理機能検査技師によるエコーハンズオン実習、病院全体のイベントである死亡症例検討会や、病理医とともにカンファレンスを行う病理解剖検討会(CPC)も定期的に開催し、診療能力の向上と明日の医療の発展につなげています。これらの全体学習を通して、2年間、どのような診療科を選択しても、しっかりした臨床的思考が身につくように研修プログラムを作成しています。

こうしたプログラムは、年に1-2回ほど研修医にアンケートを取り、研修医のニーズに合わせてよりよい教育体制になるように改訂を行います。不評なプログラムに対して改善の見込みがない場合は中止したり、目的に合ったプログラムを研修医とともに創造することで、日々新しい研修に進化するよう取り組んでいます。そして指導医も教育能力を高め、最適な教育を研修医に提供できるように、病院全体として Faculty Development 活動にも力を入れています。

4) 充実した基本手技のシミュレーショントレーニング

日常診療基本手技の習得は、診療現場だけで身につけるわけではありません。繊細な手技を確実に習得し患者さんに安心して施行するためには、指導医の手技を繰り返して観察することと、事前のシミュレーション訓練が重要です。当院では臨床研修トレーニング室でシミュレータを使用した気管挿管、中心静脈カテーテルの挿入、腰椎穿刺などの訓練を行い、指導医の手技を繰り返し見学したのちに、指導医の補助のもとで手技を行います。研修医数に対して日常基本手技の経験回数が圧倒的に多い現場ですので、2年間で

ほとんどの手技を自信持って習得することができます。さらに、毎年7月に行う、神奈川県で行われるクリニカルシミュレーション夏合宿では、様々な場面での診断・処置・治療の進め方やチーム医療を体験学習し、基本手技のシミュレーション学習に加え、日本救急医学会認定ICLSコースによる心肺蘇生法の習得や、普段は経験困難な外科的気道確保(輪状甲状靭帯切開)など特殊手技の実習も行います。3日間の合宿では技術習得だけでなく参加者同士が大変仲良くなりますので、病院内で互いの顔の見える、風通しの良い関係性をつくることができます。

5) 医のプロフェッショナリズムを生涯にわたり研鑽し続ける医師を育てる

当センター臨床研修の最大の目標は、医師としてのプロフェッショナリズムを生涯にわたり研鑽し続ける志を研修医に宿していただくことです。昨今の医療現場は、高齢化社会による医療受給の不一致、高度な情報化社会における医療トラブル、新型コロナウイルス感染症流行時に経験した献身的姿勢と人材不足、医師の働き方改革とそれに伴うジレンマ、医師の燃え尽き症候群など、研修医にとっても生涯を通して深く考察しなければならない問題がたくさんあります。そしてこの激動の時代においても、医師は高い倫理性と利他の心を保ち続ける必要があります。

当センターでは、研修現場において発生しうる様々なトラブルケースや倫理問題について研修医とディスカッションすることで、少しでも医のプロフェッショナリズムについて考える機会を持ち、コミュニケーション能力やレジリエンスの向上、職業倫理性の理解を深めるように取り組んでおります。これらは一朝一夕に身につけることはできないため、研修医のみならずとともに、生涯をかけて探求していきたいと考えています(研修修了後も一緒に勉強し続けましょう！よろしく願いいたします)。

6) 専門医を目指す3年目以降の進路について

進路希望が決まっていれば、その希望に沿うように全力でサポートします。進路が決まらない場合や迷っている場合には、どこでどのような専門研修を行うことができるか、日本全国を視野に入れて相談に応じます。各大学の医局に所属する従来の方法以外に、奈良県立病院機構に残って専攻医(専門医コース)としての採用も可能です。また初期研修に関与した各種事務手続き(専門医申請書類など)が必要となった場合も、研修終了後何年経過していても全面的に協力します。研修を修了した先輩医師には、行政機関での勤務や海外の大学院に入学された方もおられます。医師としてどのような将来を志すとしても初期臨床研修からスムーズに移行できるように、様々なキャリアプランの相談に応じます。

7) まとめ

奈良県西和医療センターは、地域密着型の基幹病院(地域医療支援病院)であり、プライマリケアから重症救急医療まで様々な症例を経験できる診療体制をとっています。当センターでの研修の特徴は以下の通りです。

- ▲多彩な全体学習での Input と豊富な症例経験による Output を繰り返し行い、医療技術や医学知識を適切に身につけることができる。
- ▲医療技術や知識の習得だけでなく、コミュニケーション能力や臨床倫理、不測の事態にも対応できるレジリエンス・コンセプチュアルスキルを日々学び続け、医師としてのプロフェッショナリズムを生涯にわたり研鑽する医師を育てる。

▲プログラムを研修医と共に日々アップデートし、様々なニーズに合わせて最適かつ安心、信頼できる研修を創り続ける。

これを読んでいただいているみなさまが、奈良県西和医療センターでの研修を希望され、私たちと一緒に仕事をし、臨床現場で共に切磋琢磨する日々を心から待ち望んでいます。そして新研修医となったみなさまが、しっかりした臨床的思考のもと、思いやりの心と、人の命に対する責任感を持って目の前の患者さんのために全力をつくすことができる、魅力ある医師に成長するように、私たちが全力でサポートします。

奈良県西和医療センター 臨床研修プログラム責任者

森本 勝彦

卒後臨床研修評価機構（JCEP） 認定を受けました

卒後臨床研修評価機構（JCEP）による臨床研修内容の審査を受けました。

基幹型臨床研修病院は、第三者機関による臨床研修の内容、実態についての評価を受けることが推奨されています。当院では、臨床研修プログラムおよびその実態について 2017 年にNPO法人卒後臨床研修評価機構（JCEP）の審査を受け、認定を受けています。

2021 年 12 月の訪問調査では、事前の書類審査及び調査当日に臨床研修に関わる記録の詳細について審査していただき、病院内での実際の研修を病棟や救急外来で実際に電子カルテの前で受け持ち患者さんに対する関わり方をプレゼンテーションしながら調査していただきました。

まる一日の調査を終えた最後の講評では、全国的に有名な医療機関の指導医であるサーベイヤーから「自分が研修医ならこの病院で研修したいと思う研修内容になっていて、実際の研修医も活発で生き生きしていました」という感想をいただきました。

準備は大変でしたが、審査を受けて初めて分かることもあり、今後も研修内容がもっともっと良くなるように、改善する努力を続けて行きます。

当日のサーベイヤーの審査の結果を踏まえて、JCEP事務局でさらに審査していただき、4年認定を頂くことができました。

2023 年 12 月に更新のための書面調査を受け、当センターの臨床研修プログラムはより良く改善するための課題をもらいつつも高く評価していただき、再認定されました。



2027 年度募集 奈良県西和医療センター臨床研修プログラム

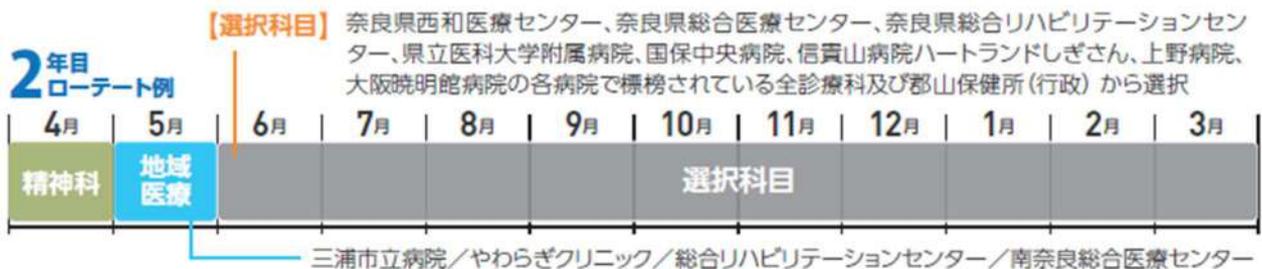
自由自在なローテ選択 ※ローテは各研修医の希望に合わせて変更可能 募集予定人数 10名

奈良県西和医療センターでは、研修医一人ひとりに合わせた週単位の最適なローテートを提供しています。厚生労働省が定める必修科目(内科、外科、小児科、産婦人科、精神科、救急、地域医療)は当然ローテートに組み込む必要がありますが、その他の選択科目と合わせて、いつどのタイミングでどの科をまわるのかについては研修医自身が自分で自由に決めることができます。

1つ制約があるとすれば、1年目の4月・5月の2ヶ月間は入職したばかりで医師業務について右も左も分からない状況ですので、その最初の2ヶ月間だけは内科をまわっていただきます。この最初の2ヶ月間の内科でカルテの書き方や診察の仕方など、医師業務の基礎を学びます。自分がまわるローテートは4月の入職時のオリエンテーションでプログラム責任者の森本先生と相談しながら決定します。

最初にローテートを決めたものの、色んな診療科を経験していく中で新たに興味を持った診療科がでてくることもあると思います。そんなときは該当するローテート開始の2ヶ月前までに申し出ていただければ一度決めたローテートを後から組み替えて変更することも可能です(直前での急な変更は、変更先の診療科に負担がかかるので2ヶ月前には申し出てください)。

1年目 ローテート例 プログラム番号 : 0303584304 / プログラム責任者 : 森本勝彦 / 統括責任者 : 土肥直文



※2年目は進路を見据えて診療科をまわったり、医局の見学等で忙しくなるので、1年目に必修科目をまわる人が多い。

ローテート実例1: 内科系志望



ローテート実例2: 外科系志望



ローテート実例3: マイナー科志望



科目について

●必修科目

内 科:総合内科、循環器内科、呼吸器内科、消化器内科、腎臓内科から最低24週
(※救急外来における基礎研修を含む。)

麻 酔:救急救命に必要な基礎技術の習得

外 科: 初年度の4週間において外科的疾患の初期治療を習得する。

消化器外科、脳神経外科、心臓血管外科、泌尿器科、整形外科の中から選択。

小児科:小児科に必要な基礎技術の習得

産婦人科:産婦人科に必要な基礎技術の習得

精神科:精神科に必要な基礎技術の習得

救 急:救急科における重症患者を中心とした救命医療の修練

奈良県総合医療センターまたは県立医科大学附属病院の救命救急センターでの研修も選択可能

地域医療:へき地医療、中小病院又は在宅医療実施診療所での外来診療を中心とした研修。

三浦市立病院(神奈川県三浦市)、やわらぎクリニック(在宅医療実施診療所)

奈良県総合リハビリテーションセンター、南奈良総合医療センター

※地域医療研修は2年目の選択期間中に行う

全診療科: 奈良県西和医療センター

奈良県総合医療センター

奈良県立医科大学附属病院

南奈良総合医療センター

大阪暁明館病院

精神科: ハートランドしぎさん(信貴山病院)

奈良県立医科大学附属病院

上野病院

地域医療: 三浦市立病院

やわらぎクリニック

奈良県総合リハビリテーションセンター

南奈良総合医療センター

行 政: 郡山保健所

●選択科目

奈良県西和医療センター、奈良県総合医療センター、奈良県総合リハビリテーションセンター、奈良県立医科大学附属病院、国保中央病院、南奈良総合医療センター、やわらぎクリニック、大阪暁明館病院の各病院、および郡山保健所に設置されている診療科すべて





各診療科の特色

総合内科

外来、入院、紹介患者様の診療を主に従事しています。相談の内容は、不明熱、倦怠感、しびれ、体重減少、呼吸困難感などが多いです。開設から、悪性腫瘍、リンパ腫、リンパ増殖性疾患、菊池病、SLE、ループス脂肪織炎、関節リウマチ、シェーグレン症候群、二次性肺高血圧症、膠原病肺、肺結核、結核性心膜炎、感染性心内膜炎など様々な疾患を診療する機会がありました。教育に関しては、ベッドサイドでの研修を心掛けています。実際の診療を通じて姿勢、プレゼンテーション、問題解決、危機管理、チーム医療などの教育を心掛けています。背景、病歴、身体所見から初期診断仮説形成し、検査や治療のリスクベネフィットを考慮し、各患者様に応じた適切な医療を大切にしています。どの専門に進んでも大切になる基本的な診療の型、姿勢を学んで頂きたいと思っています。一緒に診療・勉強できることを楽しみにしています。



副院長
総合内科部長
感染症内科部長
腫瘍内科部長
中村孝人

感染症内科

外来、入院患者様の感染症診療に関して、主担当科の診療を支援しております。また ICT(infection control team) として血液培養陽性症例の診療支援、抗菌剤適正使用の推進も行っています。教育に関しては、感染症内科は、先ず基盤としてジェネラリストとしての臨床力が必要と考えています。より良い感染症診療を実践するために、非感染症を鑑別することが必要です。総合内科と研修を兼ねることで、自己免疫疾患、悪性腫瘍、内分泌疾患、神経疾患等を診療する機会も多くなります。実際の診療を通じて姿勢、プレゼンテーション、問題解決、危機管理、チーム医療などの教育を心掛けています。一緒に診療・勉強できることを楽しみにしています。

腫瘍内科

胸部悪性腫瘍および原発不明がんなどの診療をしております。また外来、入院がん患者様の相談支援を随時行っております。近年、腫瘍診療は目覚ましい進歩を遂げ、従来の殺細胞性抗がん剤だけでなく、多数の分子標的剤や免疫チェックポイント阻害剤など使用可能となりました。腫瘍内科は、抗がん剤治療だけでなく、緩和治療、終末期医療に対峙する機会が多い科でもあります。基本的な腫瘍診療の型を習得するだけでなく、病いに対する配慮を忘れず、各患者様に応じた適切なチーム医療の実践を目指しています。一緒に診療・勉強できることを楽しみにしています。

腎臓内科

腎臓内科の領域は、腎炎、慢性腎臓病、急性腎障害、水・電解質異常、高血圧症、腎代替療法（血液透析・腹膜透析・アフェレーシス・腎移植）など多岐にわたります。奈良県西和医療センター腎臓内科では、これら様々な腎疾患に対して研修医の皆様が自信をもって診療できるように、指導医・上級医が全員で研修教育に力を入れ、熱く丁寧な指導を心がけています。また当科では、腎疾患のみならず膠原病などの自己免疫疾患や脳血管疾患、内分泌疾患、血液疾患なども積極的に受け入れ、総合内科としての役割も担っていますので、多彩な内科疾患を数多く経験し、内科全般で役立つ基本手技のほぼすべてを身につけることができます。

学習面においても、上級医は研修医の苦手とする病態生理などに対して文献や UpToDate® を用いたカンファレンスを適宜開催しています。また、日進月歩する世界標準の医学知識を修得するために、ACP（米国内科学会）の問題集である MKSAP による勉強会を毎日開催しており、研修医のほぼ全員が医学知識の修得のみならず医学英語への苦手意識も克服しております。さらに、臨床現場以外での研修も推奨しており、研修医の皆様には内科関連の学会に積極的に参加することで医師としての視野を広げるとともに、重要な経験は上級医の熱い指導のもと、積極的に学会発表や論文作成をしていただいています（研修医が国際学会での発表をすることもあります）。

当腎臓内科はスタッフの年齢が若く、研修医の皆様と近い立場で同じ視野にいますので、研修医個々の望むフレキシブルな研修ができるとともに、食事会やレクリエーションなどを通じて精神面でも安全・安心な研修を心がけています。ぜひ、私たちと一緒に、長い医師人生の第一歩を楽しく踏み出してみませんか？心よりお待ちしております！

研修医の感想

- 毎週 1 回総回診があることで症例の整理と検討ができるため、1 症例について深く学ぶことが出来ました。腎生検や骨髄生検、髄液検査、中心静脈カテーテル留置など侵襲的な手技に関しても指導医の下で研修医が施行できるため、様々な手技を経験することが出来た点が良かったです。
- 日中の救急外来で診た患者をそのまま担当患者として診ることができるため、治療をどうするかなどを一緒に決めることができ勉強になりました。



腎臓内科部長
森本勝彦



循環器内科

奈良県西和医療センターの循環器内科は 12 名の医師スタッフと研修医が一体となり、様々な診療活動をしています。その内容は、救急医療をはじめとして、心不全などの集中治療（ECMO の管理もここで学びます）、心血管インターベンション治療（PCI や血管内治療の技術を助手として学ぶ）、カテーテルアブレーション治療（不整脈の読み方考え方をしっかり学ぶ）、心臓超音波検査や心臓 CT/ 心臓 MRI/ アイソトープ検査などの循環器画像診断、さらに循環器・呼吸器リハビリなど広範囲に渡ります。そのため、奈良県内では、最も人気のある循環器専門医の修練施設となっています。毎朝 8 時からの CCU カンファレンス&新入院カンファレンスでは、日々の新入院患者のチェックと前日の救急外来で診療した症例のチェック、火曜日と木曜日の心カテ後に開催されるカテ後カンファレンス&研修医カンファレンスでは、研修医が関与する症例プレゼンテーションと診療内容のチェックがあります。研修は、外来診療、病棟での入院患者に対する診療に加えて、心カテ、アブレーション、ペースメーカーや植込み型除細動器（ICD）の手術、CT や MRI などの画像検査があります。循環器の 2 ヶ月間は、忙しいですが、指導医や上級医から多くのことを学べる期間になっていると思います。1 年目の研修でローテートした研修医が 2 年目でもう一度回りたいと思ってもらえる研修内容を目指しています。将来、どのような専門医を目指そうとも、循環器領域で身につけるスピリットやスキルは臨床医としての基盤になるものですので、頑張ってください。研修医の成長のため、できるだけサポートをします。

研修医の感想

- 循環器内科疾患のみならず、初診外来や救急外来を含めて内科的疾患を全体的に診られ、ファーストタッチの機会が多く用意されていた点が良かったです。オーブン制度で担当の専攻医が決まっており、質問しやすい環境でした。
- 心エコーを一对一で教えてもらえて勉強になりました。



循環器内科部長
渡邊真言



消化器・糖尿病内科

奈良県西和医療センター消化器・糖尿病内科は、スタッフ7名にて消化器領域全般および糖尿病の診療を行っております。

消化器領域では、上下部消化管疾患(食道、胃、十二指腸、大腸)、胆・膵臓疾患、肝臓疾患の初期治療、救急治療(吐血、下血、黄疸など)から最先端の高度医療に至るまで幅広く診療を行っております。4名の日本消化器病学会・日本消化器内視鏡学会・日本肝臓病学会の指導医・専門医が研修医の皆さんの指導にあたります。

消化器疾患に対する診療はもちろん、上部・下部内視鏡検査や腹部超音波検査などの検査手技のみならず、内視鏡的止血術、内視鏡的ポリープ切除術、内視鏡的粘膜下層剥離術、ラジオ波焼灼術などの治療手技も研修可能です。さらに、胆膵領域の内視鏡検査・治療(ERCP、EUS — FNA)も研修を行う事ができます。

糖尿病領域では、教育指導および治療を積極的に行っております。特に24時間血糖測定を用いて、より厳格な糖尿病の個別治療を行っております。糖尿病診療の基本的な診療の研修が可能です。

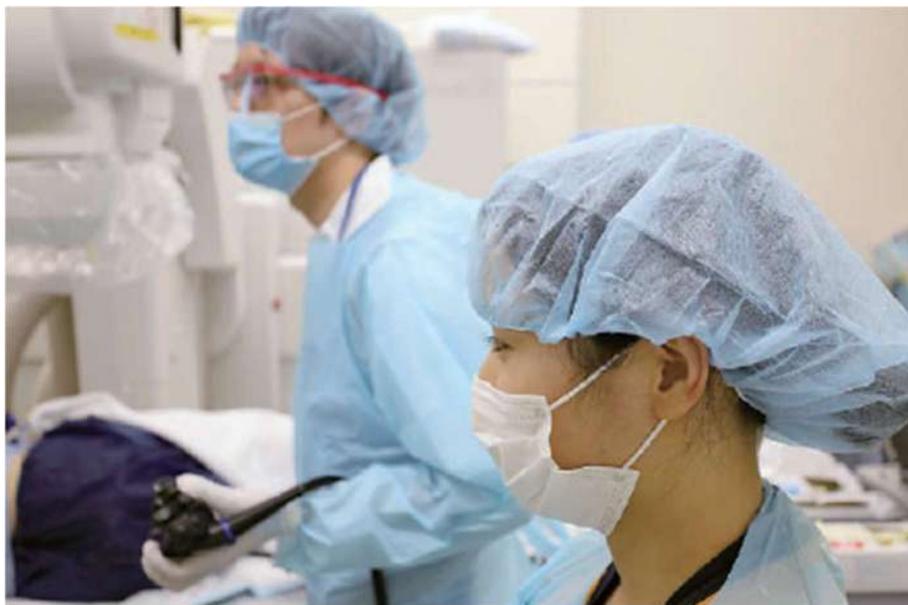
将来の進路に係わらず、今後日常診療で一番多く接する消化器疾患および糖尿病を数多く経験することはとても大切なことです。笑いには厳しいですが、優しく丁寧な指導が好評な消化器・糖尿内科医が、皆さんの奈良県西和医療センターでの研修を心待ちにいたしております。

研修医の感想

- 内視鏡検査の件数が豊富であり、介助にも積極的に参加させていただけた点が良かったです。また、実際に模型を使って内視鏡検査の練習を自由にできる環境が用意されていたところも良かったです。
- 研修医1人に1人のオーベンが充てられており、基本オーベンとセットで動くため、分からないことが訊きやすく良かったです。患者説明は知識の浅い研修医にもとても分かりやすいため、同席する機会がたくさんあって良かったです。



副院長
消化器・糖尿病内科部長
吉田太之



中央内視鏡部

研修医の先生の指導にあたるのは、内視鏡指導医3名・内視鏡専門医2名の計5名です。上部下部のスクリーニング検査から内視鏡粘膜剥離術(ESD)・内視鏡的載石術・痔腫瘍などに対する超音波内視鏡下吸引組織細胞診など幅広い内視鏡処置を毎日行っています。また、緊急内視鏡も積極的に受け入れており、内視鏡的止血術も随時行っております。昨年度は上部消化管内視鏡約 2,000 件・下部消化管内視鏡約 1,500 件・ERCP 約 200 件(それぞれ処置も含む)でしたが、平成 28 年度から検査施行医・検査室も倍増され、年々件数増加をしています。研修医のみなさんには、内視鏡診断・内視鏡処置などそれぞれのレベルにあわせて手技の習得に励んでいただいています。若いみなさんの力も借りて一緒に内視鏡診療にあたりましょう。心よりお待ちしております。



中央内視鏡部部长・
消化器内科部長
森岡 千恵

呼吸器内科

現在は、呼吸器学会専門医2名、専攻医2名の体制で、日々の診療・研修医指導にあたっています。

呼吸器内科で対応することが多いのは何といても肺炎です。その中でも入院適応になるのは誤嚥性肺炎が多いですが、呼吸器内科としての専門性が必要となるのは間質性肺炎で、器質化肺炎、薬剤性肺炎、膠原病関連の間質性肺炎が増えています。COPDは診断、評価から始まり、患者教育、吸入指導、呼吸リハビリ、最終的には在宅酸素やNPPVの導入を行います。気管支喘息の評価のために呼気NO検査を導入、睡眠時無呼吸症候群の精密睡眠ポリグラフィーやCPCP導入も積極的に行っています。悪性腫瘍に関しては、診断をつけ当院腫瘍内科と検討し、今後の方針を決定します。研修医の先生方には、数名の入院患者さんを担当してもらい、毎日上級医とカンファレンスを行いつつ、自主性をもって検査のオーダーと解釈、治療方針の決定、効果判定、退院の判断、退院後の地域連携への移行をおこない、一人一人の患者さんに対し一貫して責任を持った医療を大切にもらっています。呼吸器内科を目指しているわけではないという研修医の方々にも、基本的な呼吸機能検査の判定、市中肺炎の対応などとともに、医師と患者さん家族さんとのかわりに関して学んで頂きたいと思います。

皆さんと共に発展していきたいと思います。お待ちしております。



呼吸器内科部長
田村 緑

研修医の感想

- 病棟管理や外来対応など、研修医が中心になって対応する場面が多く用意されているため、コメディカルスタッフとの関係性を築ける環境が良かったです。また、複数の受持ち患者の状態を把握する必要があり、マルチタスクの進行を経験できました。

各診療科の特色

脳神経内科

脳神経内科は週3回外来が開かれており、治療困難な症例や悩んでいる症例のコンサルトが可能です。各々の領域の専門医による指導を受けることによってこのような領域の患者さんの治療方針を学びます。

小児科

当院小児科は奈良県の基幹病院であり、質の良い医療をこどもに提供し、こどもと家族が安心して生活ができるように手助けをしていくことを基本としています。小児科はこどもの総合診療科であり、小児科医はこどもの病気の全体を診ることが基本です。小児一般診療から専門分野まで幅広く知っておく必要があります。地域の医療機関からの多数の紹介があり、様々な分野の症例を経験することができ、さらに小児救急2次輪番に参加しており、小児の救急初期対応を研修することが可能です。

症例検討会を小児科医・看護師と一緒に定期的に行っています。多種職とのカンファレンスは様々な角度から症例を検討するので、連携を深め、スタッフのスキルアップの向上につながることを学べます。小児は主訴を上手く言うことができないことが多く、「なんかおかしい」という臨床的直観が大事になってきます。教科書では学ぶことが難しいですが、マンツーマンで指導することで、そのスキルを身に付けてもらいます。

研修医の感想

- 小児科特有の手技や病棟管理を積極的にさせていただきました。また、小児科当直に参加できるため、けいれんなど夜間に多く起こる疾患も経験することができました。
- 心身症の外来を多く見せて頂けて良かったです。1ヵ月で担当した患者数は少なかったですが、川崎病や喘息など、様々な症例を診ることができました。



小児科部長
吉澤弘行



外科・消化器外科（がん治療センター）



副院長・がん治療センター長
石川博文



外科・呼吸器外科部長
上野正闘



消化器肝臓・胆のう・膵臓
外科担当部長
山戸一郎



消化器大腸外科担当部長
檜塚久記

奈良県西和医療センター外科は週4回手術できる環境にあり、年間 400 例を超える消化器・一般外科領域の手術を行っています。手術の内訳としては胃癌、大腸癌、直腸癌、肝胆膵癌、乳癌などの悪性疾患、胆石、鼠径ヘルニア、内痔核、炎症性腸疾患などの良性疾患に加え、虫垂炎、腹膜炎、腸閉塞などの緊急手術があり、バラエティに富んだ手術と周術期管理を学んでいただけます。

手術には開腹手術と鏡視下手術の2種類がありますが、最近の画像処理と器具の改良はめざましく、大腸ESDや腹腔鏡下手術などの鏡視下の治療には大きな可能性があります。当科のモットーとして、消化器内科、放射線科と密に連携を取り、いかに消化器がんを低侵襲に治療できるかを日々検討し、精進を重ねています。当科では 50% 以上の手術症例は鏡視下手術によりますので、最新のモニター画面上あるいはビデオ編集により、手術手技を繰り返し学ぶことができます。またトレーニングルームも完備されています。外科系の諸科と連携して、地域の基幹病院としてより高度な治療を要する手術も行われています。

当科では経験豊富な4人の指導医・専門医と2人の若手専攻医により指導させていただきます。自由闊達な手術をみると外科の醍醐味とは何かがわかると信じています。（当科のHPもご参照下さい）

（石川博文）

当科研修期間中は、悪性疾患患者（待機手術）、良性疾患患者（待機手術）、良性疾患患者（緊急手術）における術前後の患者管理について学ぶことができます。また、数多くの手術への参加と術後創部処置を経験することで、外科研修の基本である縫合結紮から外科的基本手技の習得を目指していただきます。習熟度によっては、虫垂炎や鼠径ヘルニアの手術を術者として達成していただくことも可能となりますので、是非挑戦してください。

（上野正闘）

研修医の感想

- 助手として手術に参加できる環境が良かったです。専攻医の先生が、丁寧に糸結びや縫合の種々を教えてください、また術後管理についても講義していただき、手術中だけではなく、座学としてもフォローしてい

各診療科の特色

ただけるのは貴重だと思いました。

- カメラ持ちや縫合などさせてもらえることが多く、チームの一員として診療に参加しているという感じがあったのが良かったです。



各診療科の特色



各診療科の特色



整形外科・人工関節センター

整形外科は骨・軟骨・筋・靭帯・神経などから構成される運動器の疾患や外傷を対象とし、治療を行う専門分野です。当院整形外科でも慢性疾患から外傷まで幅広く診察を行っています。平成 29 年 4 月より人工関節センターを開設しており、当院の研修では人工関節のスペシャリストが診断、手術適応の判断、術前計画や手術のピットフォール等を実際の手術症例に沿って丁寧に指導いたします。また手の外科や足の外科、関節リウマチについても専門的治療を経験することが出来ます。指導医指導のもと多数の症例で執刀してもらうことが可能です。教科書では学べない経験を積みに是非奈良県西和医療センターにいらしてください。



整形外科部長
寺西朋裕



ナビゲーションシステムを使用した人工膝関節置換術（当院）



肩腱板断裂鏡視下修復術（当院）

脳神経外科

脳神経外科では、超急性期の脳卒中、頭部外傷、脳腫瘍、脊椎・脊髄疾患、機能外科（顔面けいれん、三叉神経痛）に対する外科治療や検査（脳血管撮影、脊髄造影）、並びに中枢神経領域の局在診断、神経放射線診断といった専門医養成プログラムに参加するのみならず、プライマリケアに必要な脳神経外科的知識と対処法（気管切開、中枢ルート確保、気管内挿管等）を習得する研修ができます。2名の指導医のもと脳神経外科手術（緊急手術を含む）や病棟処置に積極的に取り組み、常に患者さんの目線に立った周術期管理を徹底的に習得してもらいます。また、研究会や学会にも積極的に参加して最先端の脳神経外科治療に接してもらい、中枢神経領域疾患の診方、治療を身につけることを目標とします。下記に到達目標の経験手術例を挙げておきます。ぜひ脳神経外科で研修しましょう！

1 年目 神経局在診断、神経放射線診断の習得

病棟処置（手術創部消毒、抜糸、各種ルート確保、脊髄ドレナージ）

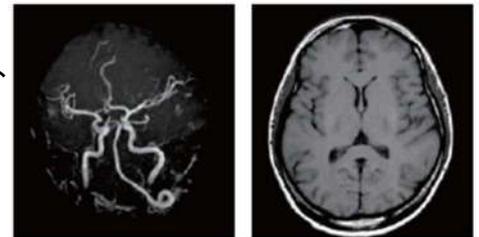
穿頭術（慢性硬膜下血腫、脳室ドレナージ術）の執刀医、助手、開頭術の助手、救急外来での初期対応、各種検査の助手

2 年目 開頭術（頭部外傷疾患）の執刀医、脳内出血血腫吸引術の執刀医

各種顕微鏡手術の助手、脳血管撮影の検査担当



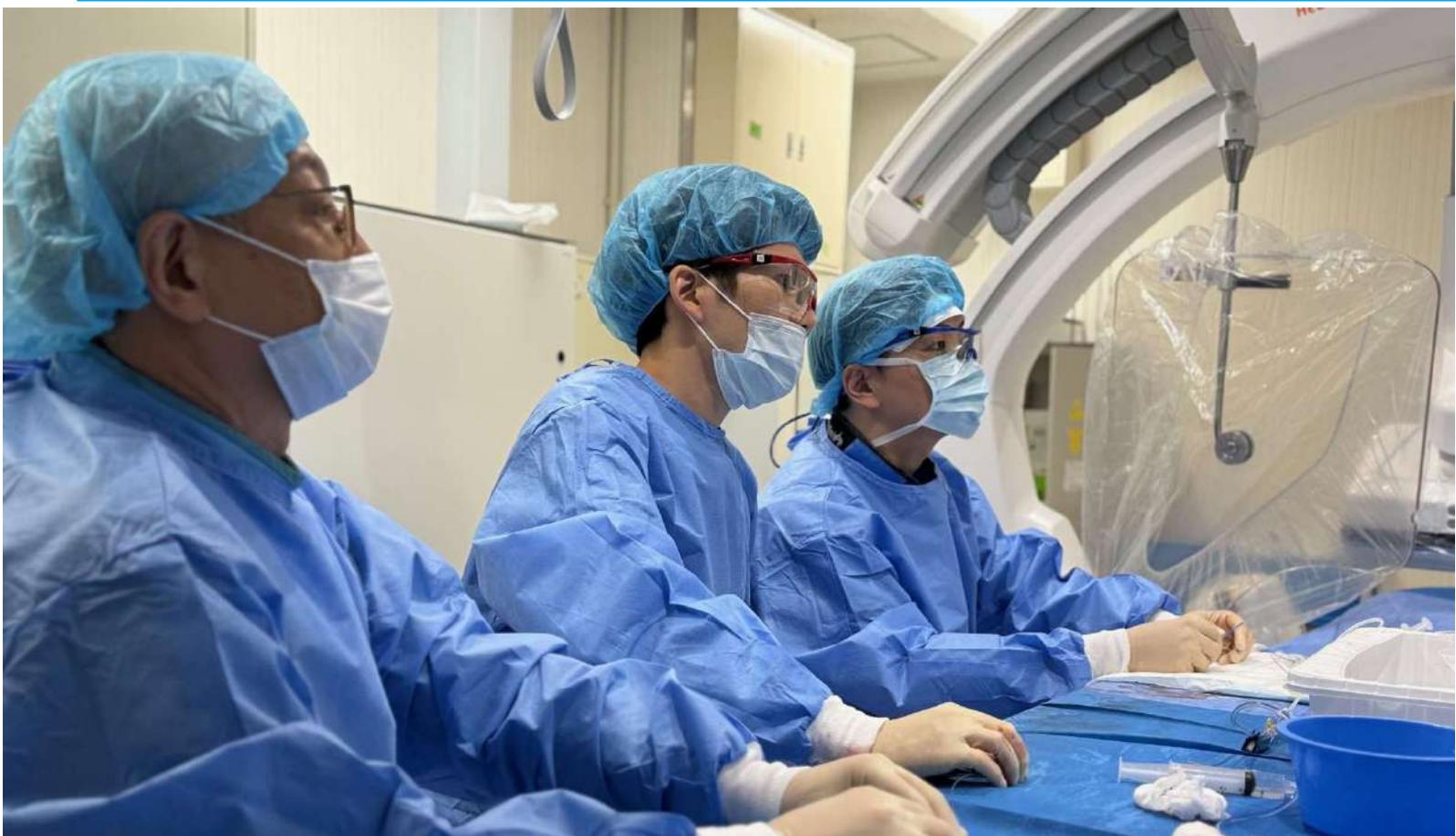
脳神経外科部長
弘中康雄



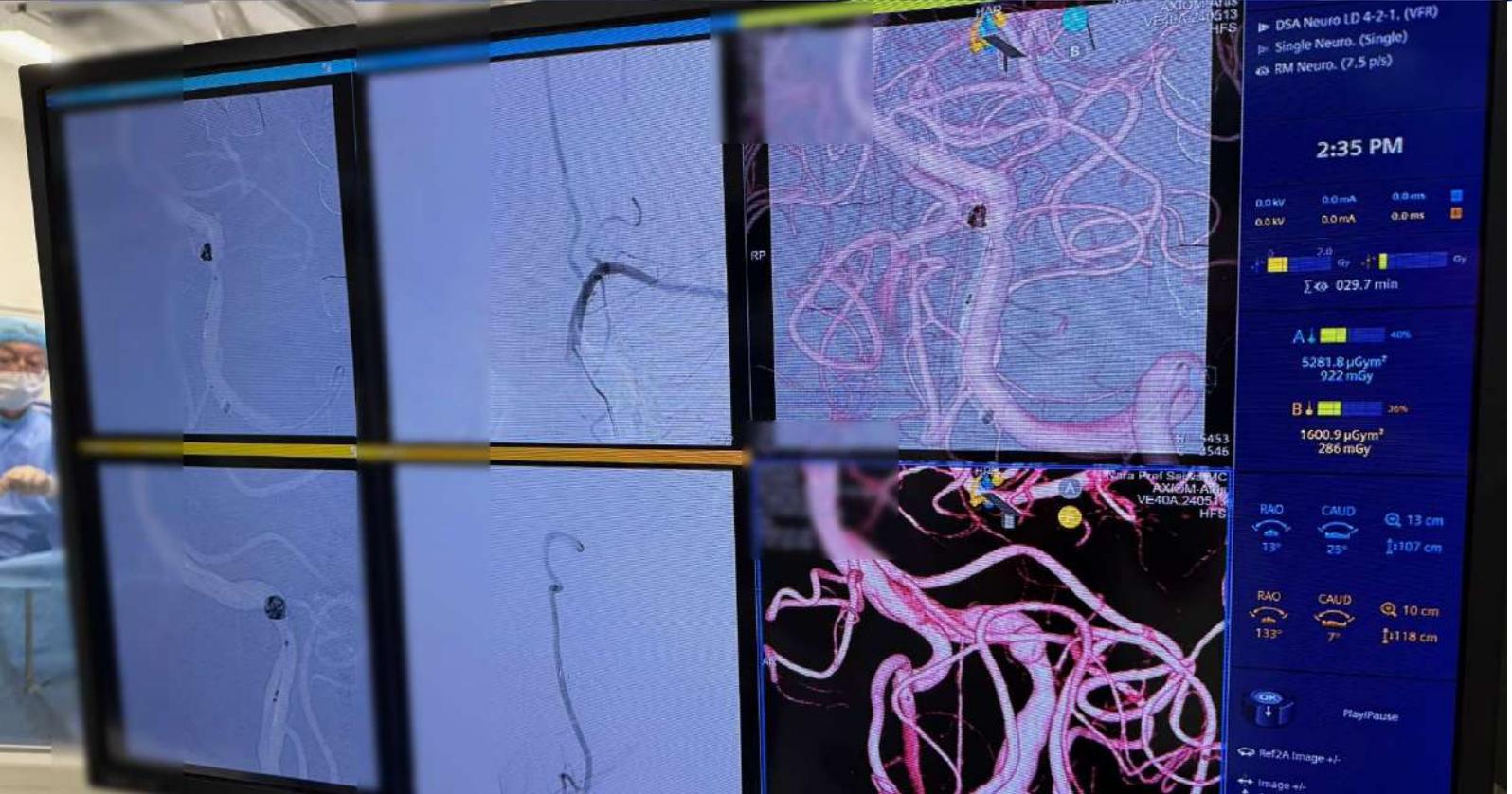
研修医の感想

- 症例も豊富で、経験した手技も本当に多かったです。出血や梗塞の初期対応も多く経験させていただき、勉強になりました。個人的には一番大変でしたが、ぜひローテートしてもらいたい科の1つです。





各診療科の特色



集中治療科

2023年7月から開設となり、2024年4月からは専門医研修施設の認定を取得しています。

集中治療科は、常時集中治療室(ICU/CCU)に専従し重症患者さんの治療に専念する専門の診療科です。対象としては、集中治療室に入室となった、全ての診療科(内科や外科などの領域・専門科を問わず、また乳児から成人まで、院内全ての重症患者さん)になり、当院では、high intensity model である、Mandatory critical care consultation type(主治医は各診療科主治医のまま、すべての重症患者さんが集中治療医の診察を受けられる)の体制で診療しています。

当科の研修では、入室している重症患者さんの全身管理の仕方について、指導医とマンツーマン体制で学んでいただくことができます。

具体的には、バイシステムと呼ばれる診察手法、また生理学、酸素需給バランスを意識した論理的な病態把握、またエビデンスに基づく治療について、常に質疑応答をしながら学べます。また、救命のための蘇生法、臓器保護に対する対応と知識、医療機器や治療薬の使い分け、超音波検査や気管支鏡などの処置も、レクチャーし技術として身に着けられるようにします。そして、退院した後の患者さんの生活を守るために、認知機能や心理的ストレス、筋力低下などの合併症を最小限に抑え、QOLの改善やより早期の回復、また社会復帰へと貢献できるよう、各専門科の医師、歯科医師、看護師、薬剤師、理学療法士・作業療法士・言語聴覚士、臨床工学技士、管理栄養士などの院内全ての医療スタッフと協働し、適切な時期にかつ、可能な限り早期の治療が行われるように尽力する方法を身に着けていただきたいと思います。その他、RRS(Rapid Response System(院内迅速対応システム))の先駆けとして、様々な各科の先生の相談や病棟の相談にも対応できるように出動することもあります。

重症な患者さんという怖いや大変そうというイメージが強いと思いますが、初めから全てできる人はいませんので、1から丁寧に一緒に学んでいけたらと思います。



集中治療科副部長
中村通孝



各診療科の特色

皮膚科

すべての皮膚疾患に対応し、地域に根ざした診療をしています。少人数ならではのマンツーマン指導のもと、common disease から稀な疾患まで幅広く経験できます。外傷の処置や縫合・小外科のほか、形成外科との連携で全身麻酔下の外科的手術も学ぶことができます。フットケア外来などの専門外来での診療も経験していただきます。

研修医の感想

- 予診や外来手術など研修医の参加できる場面が多く、皮膚科疾患について経験しながら学ぶことができました。頻度の高い疾患も多く経験できるため、普段の病棟管理での処方など、応用できる場面が多い研修となりました。
- 初診の担当をさせて頂き、多くの症例を経験できました。形成外科も含め、手技が多く、面白い経験ができました。



皮膚科
笥祐未

形成外科

形成外科では体表面の良性、悪性腫瘍、熱傷や顔面骨骨折などの外傷、体表の先天奇形など小児から高齢者までの幅広い疾患を扱います。

外来での小手術から他科との合同で行う再建手術など様々な外科手術を経験できます。

また外傷や褥瘡などの様々な傷に対する創傷治療も行っていますので、他科診療においても役立つ知識を身につけることが可能です。



形成外科部長
真柴久実



泌尿器科

排尿障害は地域医療、専門医療を問わずすべてに共通した問題です。初期研修で排尿障害を理解することは、どのような専門領域に進む場合でも必ず役立ちます。泌尿器科は、小児から高齢者までの疾患を扱う上、保存的治療、手術治療、抗癌剤による化学療法、緩和医療などその治療の範囲も広いのです。

外科的治療としては、開腹手術、体腔鏡下手術、経尿道的手術、インターベンション手術などあらゆる方法での治療が経験できます。



泌尿器科部長
大山信雄

研修医の感想

●内科・外科と多彩であり、大変興味を持つことができました。5月の段階でオペレーターをさせていただき、また、長時間の大手術にも参加できて良かったです。



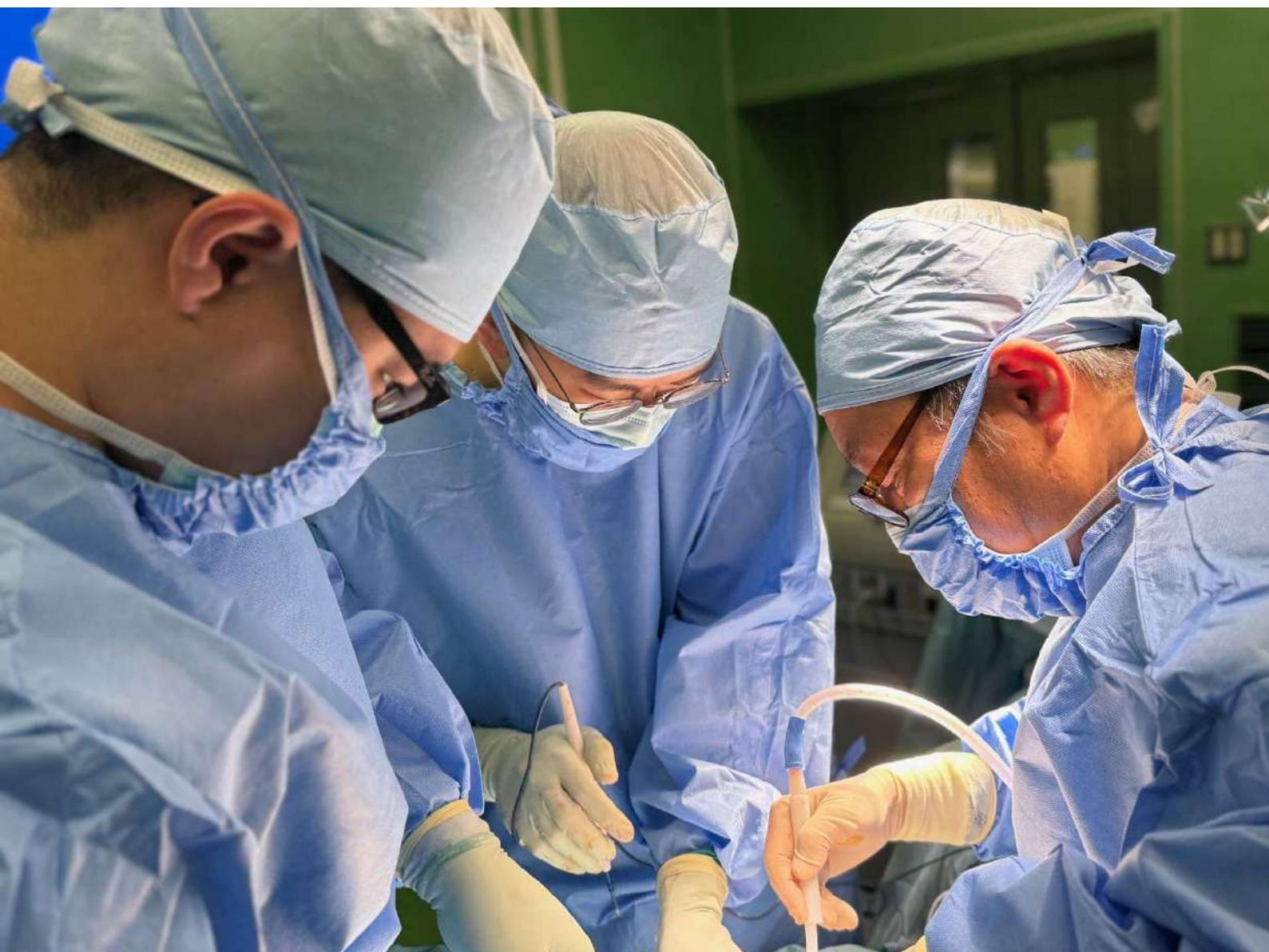
乳腺外科

奈良県西和医療センターの乳腺外科は 2022 年 10 月に開設された診療科です。乳癌をはじめとした乳腺疾患全般を扱っており、乳房の症状で受診した患者に対し、マンモグラフィーや超音波検査を用いた診断、針生検などによる病理診断を行い、悪性と診断された場合には手術、薬物療法などの初期治療を行います。再発患者の薬物療法や緩和ケアも行いますので、乳腺疾患の最初から最後までを全て扱うこととなります。

また、化学療法を行う患者の中心静脈ポート造設や、他科からのリンパ節生検の依頼なども受けています。乳癌は日本人女性で最も多い癌であり、集学的治療で治癒する率の非常に大きな疾患です。検診や診断、手術、薬物療法、緩和ケアに至る全てを行うこともできるし、その中の一つの分野に特化して仕事することも可能な領域ですので、興味のある方はぜひ一度経験してみてください。



乳腺外科部長
高島 勉





産婦人科

産婦人科は、女性のライフサイクル全般を扱う診療科です。産科と婦人科は対象患者が異なるために、別個の分野と思われがちです。しかし実際の臨床においては、双方は密接に関連しており、いずれの分野についても学ばなければなりません。産科実習では、Low risk 妊婦の妊婦健診、産後健診を通して、正常妊娠の管理だけでなく、内科合併症の管理、妊娠・授乳と薬など、他科診療においても重要な知識を身につけることを目標としています。経膈分娩、帝王切開術、および High risk 妊婦の研修は、当科が医療連携を行っている奈良県総合医療センターをはじめとした高次施設で行います。

婦人科実習では、腫瘍、内分泌異常、更年期障害などの common disease について、外来診療や手術を通して専門的知識の修得をめざします。

先生方にとって有意義な産婦人科研修を実現いたします。



産婦人科部長
春田祥治



耳鼻咽喉科

毎日の外来診療で耳鼻咽喉科領域全般のあらゆる症例の経験ができます。多種類の精密検査機器が設置されているため難聴やめまい疾患の原因精査に関しても学ぶことができます。

手術治療では、耳疾患、鼻疾患、咽喉頭疾患、頸部腫瘍疾患など幅広い経験ができ、指導医のもと、術者としての経験も積んでもらいます。

研修医の感想

●外来見学の際、耳鏡やファイバーなどの所見も一緒に診させて頂けたところが良かったです。また、甲状腺腫瘍のフォローも行っている為、穿刺手技やエコーの見学ができました。各症例に関して詳しく説明いただけるため、耳鼻科疾患について深く学ぶことができました。



耳鼻咽喉科舞踏
金田宏和

リハビリテーション科

リハビリテーション医学とはさまざまな病態、疾患、外傷などにより生じた機能障害を回復し、残存した障害を克服しながら、人々の「活動を育む」医学分野です。リハビリテーションには、大きく、急性期リハビリテーション、回復期リハビリテーション、生活期リハビリテーションがあり、当科は急性期リハビリテーションを担います。急性期医療を行う様々な診療科をサポートする診療科ですので独自の病床を持ちませんが、早期からのリハビリテーションにより廃用症候群を予防し、機能回復の促進により入院期間を短縮し、患者さんがより早期により高い機能で社会復帰できるよう医療を行います。

リハビリテーション科自体は一般社団法人日本専門医機構が定める19の基本領域の1つであり、2018年度から新専門医制度に移行しています。リハビリテーション科専門医は「活動」に視点をおいて治療する専門家として重要な役割を果たしています。当院では2020年8月1日にリハビリテーション科が新設され、日本リハビリテーション医学会の専門医教育施設として未だ認定されていませんが、リハビリテーション科専門医の研修を希望する先生がいらっしゃいましたら、奈良県立医科大学リハビリテーション科と協力し専門医研修を全面的にサポートさせていただきます。



リハビリテーション科部長
岡本悟志

放射線科

放射線科医の仕事の三本柱は、画像診断、IVR(画像下治療)、放射線治療ですが、当科では、これらのうちの画像診断(核医学を含む)とIVRを学ぶことができます。経験豊富な放射線診断専門医3名が指導にあたります。放射線関連機器は、一般撮影装置3台、マンモグラフィー1台、X線TV装置2台、CT2台(80列、320列)、MRI1台(3T)、血管造影装置4台、RI装置1台と充実しています。これらの装置を駆使して、幅広い年齢層における急性疾患から慢性疾患まで豊富な症例を日常的に診断しています。当科で研修することにより、当院のほぼすべての診療科領域に関する広範な画像診断についての知識を習得することが可能です。また、経験豊富なIVR専門医の指導により、様々なIVR治療を経験することができます。外科・内科・泌尿器科との定期的な合同カンファレンスのほかに、読影室には、毎日気軽に各診療科の先生方が症例の相談にこられており、ひとりひとりの患者さんについて臨床所見と画像所見とを総合的に検討する機会が日常的に得られています。さらに、放射線科研修期間中には、オンラインでの奈良医大放射線科・関連施設合同の勉強会や、画像診断関連のセミナーなどへの参加を推奨し、画像診断・治療についての幅広い知識に触れるよう促しています。



放射線科部長
武輪 恵

研修医の感想

- 事前のヒアリングから、各々の要望に合わせて読影内容をコーディネートしていただけるため、自分の必要な読影を中心に周辺の関連疾患まで理解を深めることができました。また、放射線技師の下で、実際に画像を撮影したり、MRIの磁場を体験したりと、画像が出来上がるまでに関しても研修できたところが良かったです。
- 同じ疾患の画像をたくさん見ることができて、いろんなパターンを学ぶことができました。また、常に質問できる状況なので、分からないことをその場で解決できる点も良かったです。



麻酔科

手術麻酔を中心に全身管理を広く学ぶことができ、一般外科から脳神経外科、心臓血管外科、産婦人科をふくめた多様な麻酔管理を経験することができます。気道確保、気管挿管、人工呼吸管理、静脈ルート確保、観血的動脈ライン確保、中心静脈ルート確保、脊髄くも膜下麻酔穿刺などの手技を学ぶことができます。麻酔薬・循環作動薬の使用法、輸液・体液バランスの維持、酸塩基平衡などについて学び、ペインクリニックや緩和医療についても学識を広げてもらいます。



麻酔科部長
加藤晴登

研修医の感想

- 1 回目のローテートでは挿管、2 回目のローテートでは術中管理と、研修内容で重点を置く手技を分けて頂けるため、短期間で集中的に手技の精度を磨くことができる環境でした。また、マンツーマンで丁寧な指導も受けられるため、手技の上達速度も速かったように思います。
- 手技に重点を置いたプログラムであり、経験できる件数も多く、手技が身につけやすかったと思います。良くないところは良くないとはっきり指摘してもらえる点も良かったです。



各診療科の特色



集学的循環器病治療センター

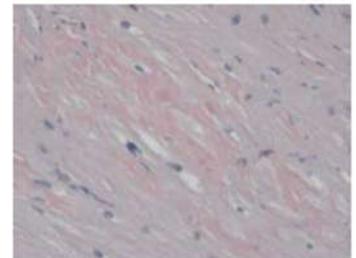
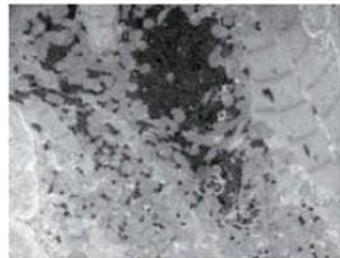
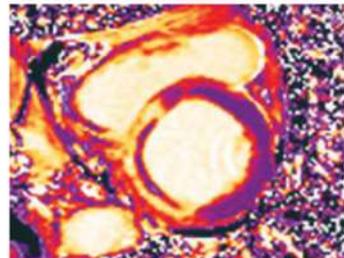
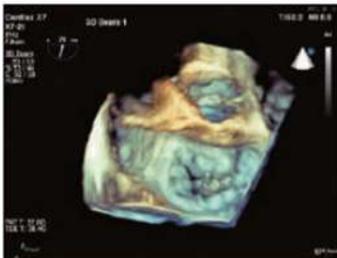


当センターでは全身の循環器疾患を各診療科の枠を超えて治療、研究することが目的です。

中心となるのは循環器内科、心臓血管外科、脳神経外科、放射線科、麻酔科ですが、循環器疾患の周辺病変や関連疾患も治療しますので、実際には病院全体での活動となります。

また、患者さんの治療に際し、医師のみでなく、看護師、薬剤師、臨床工学技士、診療放射線技師、臨床検査技師、理学療法士、言語聴覚士、作業療法士、管理栄養士・メディカルソーシャルワーカーをはじめとする関係する医療スタッフが、患者さんの情報を共有し、緻密な連携のもと、高度な集学的治療を組織横断的に行い、よりよい医療を提供いたします。

研究面では基礎的、臨床的なものに一体的に取り組み、その成果を、国内、世界へ向け発信してまいります。奈良県西和医療センター集学的循環器病治療センターは、世界のトップレベルの質の高い、いい治療を、地域の皆様、更に奈良県内、県外などの多くの皆様方へ提供に努めています。



連携病院での研修



上野病院での研修を終えて

臨床研修医 高橋広太(2021 年度採用)

上野病院精神科で4週間研修をさせていただきました。指導医の先生方、医療スタッフの方々、患者さん、それぞれからたくさんのことを学び、研修は非常に実りの多いものになりました。日々の研修は外来診療やマンツーマンでのレクチャーを中心に精神医学を学ばせていただきました。どの先生方も知識豊富かつ勉強熱心で私はただただ感心するばかりでした。うつや認知症に見えても器質的疾患を見逃してはいけないこと、統合失調症での妄想で患者さん自身が本当に怖い思いをしていること、私が知らなかったことは山ほどありました。そんな私に温かく丁寧に一から教えてくださいました。レクチャーはたくさんの方の先生から各回一つのテーマについて知識を得ることができます。質問も自由にでき、知識をつけるだけでなく、精神科という分野の広さや深さを感じることができました。また、精神科ならではの活動から学んだこともあります。精神科では単に病気をよくするだけでなく社会復帰も非常に重要な課題になります。職場や家庭での環境調整、周りの人とのコミュニケーションを大切にしているグループ活動、病気とよりよく付き合っていくための認知行動療法、心身ともに元気にしていく日々の運動、これらは主治医1人だけではできません。ソーシャルワーカーさんや作業療法士さんなどたくさんの方が関わって患者さんの社会復帰をサポートしています。実際にリワーク活動やMCI(軽度認知障害)デイケアなどに参加させていただき、利用者さんとの関わり方やプログラムの作り方などを学びました。MCIデイケアでは頭や体を使いますが、私も利用者さんと一緒に課題に取り組ませてもらい、とても楽しい経験となりました。研修期間、担当患者さんを持たせていただきましたが、それぞれの疾患背景だけでなく社会背景も考えながら接し方を学ぶことができました。実際にじっくりと話すことでその人の楽しいと思えること、困っていることなどが見えてきました。また一緒に趣味の話をしたり、最近のニュースの話をしたり他愛ない話もしました。これらは特に治療には関係ありませんが、笑顔で話をする患者さんをみて医師と患者という関係以前に人と人という関係も大切にしたいという最初に医師を志したときのような思いを改めて抱きました。最後に伊賀の魅力についてお話したいと思います。伊賀は三重県のなかで奈良寄りにあります。ここでは田舎の落ち着いた雰囲気を感じることができます。伊賀の名物は伊賀牛と忍者です。伊賀牛は格別に美味しいです。忍者が描かれた電車やバスは見つけるだけで楽しい気分になれます。たまに街中に忍者が隠れているので、伊賀に来られた際は是非忍者を探してみたいと思います。最後になりましたが、短い研修の中で多くの方の温かい思いに触れることができました。先生方、スタッフの方々、患者さん、関わりを持ったみなさんに感謝しています。この思いを大切にこれからも頑張っていきたいと思います。これをもって研修の振り返りとさせていただきます。最後まで読んでいただきありがとうございました。



国保中央病院での研修を終えて

臨床研修医 辻本虹歩(2021 年度採用)

私は、1年目の11月に国保中央病院で研修をさせていただきました。国保中央病院は、奈良県西和医療センターよりも小児科専門医の人数が多く、午前的一般外来では初診の患者さんの診察枠が設けられています。そのため、発熱、腹痛、下痢、皮疹など小児でよく見られる症候への対応を数多く見学することができました。さらに、外来患者の採血やルートキープは主に研修医が行うため、毎日多くの手技を経験することができました。当直では指導医の監修下で患者さんへのファーストタッチや病状説明なども多く経験させていただきました。

また、アレルギーを専門としている先生が2人いらっしゃるため、食物アレルギーに対する入院での負荷試験、気管支喘息やアトピー性皮膚炎に対する慢性管理などもしっかりと学ぶことができました。神経や内分泌の専門外来も行われており、てんかんや低身長、思春期早発症などの内分泌分野の外来見学も行うことができました。

奈良県西和医療センターと異なる点として、院内でできる検査の項目が少なく、病院内の診療科も少ないことが特徴だと感じました。手術適応のある患児や侵襲の大きい処置が必要な患児は他院にすぐに転院となったり、そもそも救急要請を受け入れられないということが何度かありました。そのような場合に、どこまでの処置を院内で行うか、どのタイミングで専門的な治療介入ができる機関に送るのかという判断が重要となります。診療科が充実していない病院での対応について学ぶことも非常に重要であると感じました。私は将来の選択肢として小児科を考えているため、将来につながる貴重な経験をたくさんさせてもらえたと感じています。研修を受け入れてくださった先生方、事務の方々、本当にありがとうございました。



三浦市立病院での研修を終えて

臨床研修医 辻本虹歩(2021 年度採用)

私は、1年目の12月に三浦市立病院で研修をさせていただきました。

三浦市立病院は漁港から歩いて20分程度の場所に存在し、奈良県とは全く違った環境にある病院です。研修医は主に消化器外科で研修をします。研修医は虫垂炎切除術や鼠径ヘルニアの根治術の執刀、CVポートの挿入などの手技をさせてもらえますが、私は運悪くそれらを行うタイミングがなかったため、手術の介助や術後管理を主に行っていました。手術がない日には救急外来で患者さんの対応をしたり、訪問診療に同行したり、癌患者さんへのICに同席したりと、様々な経験をすることができました。また、慢性期の患者さんの入院が多いため、退院調整のために何度もご家族と話し合



いをしたり、訪問診療、訪問看護の制度利用について他職種でのカンファレンスで相談したりと、地域医療ならではの医師の役割も学ぶことができました。

全く知らない土地で研修することに対する不安は強かったのですが、先生方も事務の方々も街の方々もとても親切で安心して研修することができました。ご飯が美味しいお店のことや、おすすめの観光場所などを教えていただき、休日は色々なお店に行って美味しい海鮮を食べたり、横浜や江ノ島に観光に行ったり、公私共に非常に充実した1ヶ月を送ることができました。三浦市立病院での1ヶ月間は私の医師人生にとって非常に重要な1ヶ月間になったと感じています。このような貴重な経験をする機会を与えてくださって、本当にありがとうございました。

横浜から京急電車で横須賀を越えて南に走ると、車窓から太平洋が見えてきます。神奈川県三浦市立病院は、三浦半島の先端にあるマグロ漁業が盛んな港町にある病院です。三浦市立病院と奈良県西和医療センターは姉妹病院の関係にあり、研修医だけでなく、看護師も相互に短期研修を行っています。三浦市は神奈川県のなかでは、周囲が海に囲まれたいわゆるへき地に相当する場所にあるため、三浦市立病院が唯一の市民が頼りにする総合医療機関になっています。高齢化が進む漁業の町ですので、地域医療が特に重要になっています。三浦市立病院の地域医療科は、地域の巡回診療や、その巡回診療のなかで急性期医療が必要になった患者さんの入院診療まで広く仕事をされています。研修医は、この病院の地域医療研修で一步先の地域医療を経験することで、奈良県での地域医療にその経験を必ず活かすことができると思います。また、三浦市立病院は、外科医でとても親しみやすい小澤幸弘院長がいらっしゃいます。小澤先生のおかげで、研修医も楽しく充実した研修生活を送れています。



三浦市立病院での研修について

臨床研修医 山口隆也(2023 年度採用)

三浦市立病院は神奈川県三浦半島の突端に位置する漁業が盛んな港町に位置する病院であり、そこで唯一の総合病院として地域医療を行っています。私は奈良県西和医療センターの地域医療研修では三浦市立病院を選択できることを知っていたので、自ら希望して1年目の9月に研修に伺いました。

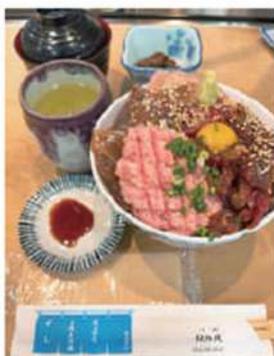


三浦市立病院では基本的には消化器外科で研修を行います。そこで上級医の先生方とチームで回診や手術を行

います。手術では執刀医の介助や縫合の手技はもちろん、虫垂炎切除や鼠径ヘルニアの根治術、CVポート挿入などの手術があれば実際に執刀させていただくこともできるそうで、私は最終週にCVポート挿入術を経験させていただきました。また、外科の研修だけでなく、志望科に合わせて初診外来や整形外科の手術をさせていただいたり、リハビリや心エコー検査を見学したり、訪問診療に同行したりと地域医療研修ならではの経験をたくさん得ることができました。当直では奈良県西和医療センターでは経験することが少ない外科症例や海にまつわる症例などを経験する機会が多くあり、知識を補完する意味でも多様な症例を学ぶことができました。

比較的早い時期の地域医療研修であり、いつもの同期がいない慣れない環境での研修は正直不安でいっぱいでした。しかし病院の先生方は診療科問わず喜んで迎えてくださり、看護師さんや薬剤師さん、事務の方などの他職種の方も親切に話しかけてくださったおかげですぐに環境に馴染むことができ、楽しく研修を行うことができました。普段は病院の寮で過ごし、週末や当直明けの日は三浦の美味しい海鮮のお店に行ったり、横浜や東京の方で観光したりと充実した生活を送ることができました。

まだまだ知識も乏しく未熟な自分の研修をころよく受け入れていただき、貴重な経験をさせてくださった三浦市立病院の職員の皆様には感謝しかありません。この経験は私の医師人生にとって重要なものであり、三浦市立病院での研修を通して大きく成長することができました。地域医療研修の1ヶ月間で学んだことを今後の診療にも活かしていきたいと思えます。本当にありがとうございました。



ハートランド（信貴山）での研修を終えて

臨床研修医 山下真稔(2020 年度採用)

私は、約1ヶ月間ハートランドしぎさんで精神科研修させていただきました。患者さんに対しての接し方や精神疾患に対しての考え方等、多くの事を学ぶことができ、大変有意義な時間を過ごすことができました。私が今回の研修で学んだことを何点か記したいと思います。



まずは1人で予診をとることから始まりました。時間をかけて自分なりに予診をとり、その後に実際の診察を見学させていただきました。見学後は指導医からのフィードバックがあり、疑問点についても丁寧にお答えいただきました。それらのやり取りの中で「患者さんに対してどのような言葉遣いがいいのか」「精神疾患患者に対して何を心掛けて対応しているのか」「どのような情報が重要であるのか」等、色々な発見がありました。私にとっては、精神疾患患者のみならず全ての患者への接し方を学ぶ良い機会となりました。

受け持ち担当した入院患者さんは外来見学した人も多く、入院前後での変化を観察することができました。また、任意入院のみならず、医療保護入院や措置入院等、様々な入院形態に立ち会いました。精神保健福祉法に基づいた入院を初めて目の当たりにしたことは強く印象に残っています。

また、様々なレクチャーを受けたり、リハビリの様子を観察したり、研修会にも参加するなど、多くの事を学ばせていただきました。何よりも私がどのような質問をしても全職種の方々がいつも優しく接していただきました事を、この場をお借りして御礼申し上げます。精神科研修で学んだ事を糧にこれからも精一杯頑張ります。短い間でありましたが、本当にありがとうございました。



やわらぎクリニックでの地域医療研修

臨床研修医 渡邊正士(2020 年度採用)

初期研修4年目の渡邊と申します。初期臨床研修では1ヵ月間の地域医療研修が必修で、奈良県西和医療センターでは、三浦市立病院(神奈川県)や国保中央病院(奈良県)ややわらぎクリニック(奈良県)で研修できます。また、奈良県西和医療センターの研修プログラムは研修医の要望に添ってくださり融通が利くので、地域医療や総合診療科に興味のある方は1か所に加えて2か所以上で地域医療研修ができます。私は2020年8月の4週間、奈良県三郷町のやわらぎクリニックに行きましたのでその話をさせていただこうと思います。



やわらぎクリニックは、特定の臓器・症状・年齢・性別などにとらわれることなく、あらゆる患者さんの健康問題に総合診療科として対応されています。また、必要に応じて後方医療・介護医療と連携し、安全で良質な医療・福祉を提供されています。単に患者さんの病いを診るだけでなく患者さんとお話を重ねながら、多職種でアイデアを出しながら患者さんの価値観にあった医療・福祉を追及されています。

研修内容としては、通院されている方の外来を担当したり、指導医の先生と一緒に往診に行ったり居宅介護支援事業所の方々と介護老人保健施設や特別養護老人ホームに行きあまり普段みない実際の現場を見学し話を伺うことができます。外来研修では、見学だけでなく主に自分で問診や身体診察をして病態を推測して薬を処方したり、時には他の地域の中核病院に紹介することもありました。その際、困ったことや悩ましいことがあれば指導医の北和也先生と一緒に考えてくださり優しくフィードバックしてくださいます。また普段奈良県西和医療センターでは入院から退院までのアセスメントやプランを考えることはありますが、退院後のことや介護のことはあまり考えたことはありませんでした。しかし、居宅介護支援事業所の方々に実際に現場に連れていっていただき患者さんやご家族のニーズに合わせた施設やリハビリのプランなどを考える際の注意点や介護認定に必要な主治医意見書の書き方のポイントをケアマネさんから教えていただきました。ここで書ききれないほどのことを学びました。普段考えない観点が非常に多く1ヵ月間あっという間に過ぎ充実した日々を過ごすことができました。



上野病院（精神科）での研修

臨床研修医 畠 健吾（2020 年度採用）

1年目の夏に1ヵ月間上野病院の精神科で研修させていただきました。研修医としてスタートを切ったばかりで外病院へ行くことに最初は多少の戸惑いでしたが、指導医や看護師さんをはじめ職員の皆様はとてもやさしく、雰囲気良かったためすぐに馴染むことができました。外来陪席や病棟の患者の診察、指導医の先生方によるレクチャー、うつ病患者のリワークプログラムなどの各種精神療法の体験を通して、精神科医師の仕事や精神科疾患について理解を深めることができました。また、消化器内科志望の私に合わせて、せん妄・アルコール離脱せん妄の講義をしてくださり、アルコール依存症患者の初診の陪席などを経験させていただきました。研修中に疑問に思ったことはもちろん、内科で研修していた時の睡眠薬や不穏時の処方などの疑問なども快く指導してくださり今後の研修にも生かしていきたいと考えています。高齢化及びストレス社会が加速しつつある昨今において、精神科とそれ以外の科のボーダーラインは希薄になりつつあります。認知症患者のがん治療など、精神科に入局しなくとも精神病患者を診る機会は少なからず訪れると思います。患者を適切に精神科に紹介するために、あるいは精神科と共観で患者を診察・治療していくために非常に有意義な1ヵ月になったと思います。



奈良県総合リハビリテーションセンターでの 地域医療研修

臨床研修医 中川龍太郎(2019 年度採用)

私は2年目の秋に1ヶ月間、地域研修の枠として奈良県総合リハビリテーションセンターで研修させていただきました。元々、奈良県西和医療センターで研修している際に、脳卒中や神経変性疾患を患った患者様が急性期の治療を終えた後、“回復期リハビリテーション病院に転院”という転帰をとっていたのを見て、その後どのように回復していくのかを見たいと言うのが動機でした。

そのような希望に対して、指導医の先生方は柔軟に対応してくださり、主に脳神経内科や循環器内科の先生にご指導いただきました。研修内容としては、患者様の診察、リハビリテーション(PT、OT、ST)の見学が主でした。新規入院の患者様に対しては指導医の先生について、一通りの神経診察をさせていただきます。脳神経内科の先生にご指導いただけるので、2年目で何となくで固まりがちな神経診察を見直すことができ、非常に勉強になりました。リハビリテーションに関しては、そもそもこれまで長時間しっかりと見学させてもらうことは無かったため、新鮮なものでした。急性期病院と違い、患者様の一日辺りのリハビリ量は約4倍確保されているので、例えば歩行時に膝折れを起こしていた方が2-3週間でかなり安定して歩けるようになる等、効果が如実に表れているところを目の当たりにしました。

他には外来検査(心エコー、下肢静脈、頸動脈のエコーなど)もご指導いただきました。奈良県西和医療センターでは、これらをマンツーマンで御指導いただくことは無いので非常にありがたい経験でした。さらに、何となくでしか認識できていなかった高次脳機能障害について、脳神経内科、精神科の先生方から詳しくご説明いただくことで、また外来・病棟で患者様を診察させていただくことで、明らかに理解が深まったと感じています。

総括ですが、脳卒中患者の転帰を実際に見ておくことは、脳神経系に進むなら絶対必要でしょうし、内科系に進むにしても重要ではないかと感じました。そのうえで同病院機構にある奈良県総合リハビリテーションセンターでの研修は非常に有意義な期間になると考えます。

(補足ですが、同院では整形外科の手術、術後のリハビリテーションも行っておられます。私は上記の理由から脳神経疾患の患者様ばかりを診させていただきましたが、希望に応じて柔軟に対応いただけると思います。)

以上、研修内容報告とさせていただきます。最後に、ご指導賜りました、脳神経内科の森下先生、杉江先生、内科の山野先生、佐々木先生、精神科の松浦先生、石岡先生、院長の川手先生、その他、温かくご指導いただきましたリハビリテーションの先生方、スタッフの方々に御礼申し上げます。誠にありがとうございました。



学会施設認定および 厚生労働省による特殊治療施設認定

植込み型除細動器移植認定施設	日本心臓血管麻酔学会心臓血管麻酔専門医認定施設
エキシマレーザ冠動脈治療認定施設	日本腎臓学会研修施設
冠動脈バイパス術認定施設	日本整形外科学会認定専門医制度研修施設
経皮的冠動脈形成術認定施設	日本超音波医学会超音波専門医研修施設
経皮的冠動脈ステント留置術認定施設	日本透析医学会認定専門医制度認定施設
経皮的カテーテル心筋焼灼術(カテーテルアブレーション) 認定施設	日本動脈硬化学会専門医制度教育病院
三学会心臓血管外科専門医指定関連施設	日本内科学会認定医制度教育病院
脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術認定施設	日本内科学会認定制度教育関連施設
日本 IVR 学会専門医修練施設	日本脳神経外科学会専門医研修プログラム施設
日本医学放射線学会放射線科専門医修練機関	日本脳卒中学会認定研修教育施設
日本大腸肛門病学会認定施設	日本泌尿器科学会泌尿器科専門医基幹教育施設
日本眼科学会研修指定施設	日本皮膚科学会認定専門医研修施設
日本がん治療認定医機構認定医研修施設	日本不整脈心電学会認定不整脈専門医研修施設
日本救急医学会救急科専門医指定施設	日本ペインクリニック学会指定研修施設
日本胸部外科学会認定医制度指定施設	日本麻酔科学会麻酔科認定指導病院
日本外科学会外科専門医制度修練施設	日本脈管学会認定訓練施設
日本耳鼻咽喉科学会認定耳鼻咽喉科専門医制度研修施設	日本病理学会研修登録施設
日本消化器外科学会専門医制度指定修練施設	日本臨床腫瘍学会認定研修施設
日本消化器病学会専門医制度関連施設	腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術認定施設
日本循環器学会認定循環器専門研修施設	腹部大動脈瘤ステントグラフト実施認定施設
日本小児科学会認定小児科専門医制度研修施設	経皮的中隔心筋焼灼術認定施設
日本小児神経科専門医研修関連施設	ペースメーカー移植術認定施設
日本心血管インターベンション治療学会認定研修施設	両心室同期ペースメーカー移植認定施設
	ローターブレード認定施設

学術教育活動

大和川メディカルアカデミー

1年に1回、地域の医療機関の先生方と一緒に学術集会です。研修医はここでの発表は必須です。症例報告の準備では、まとめ方や発表の仕方、質疑応答での姿勢など指導医から丁寧に指導してもらい、実際の発表を行います。一般の学会発表も多く経験してもらいますが、まずは、このアカデミーでの発表を経験してください。



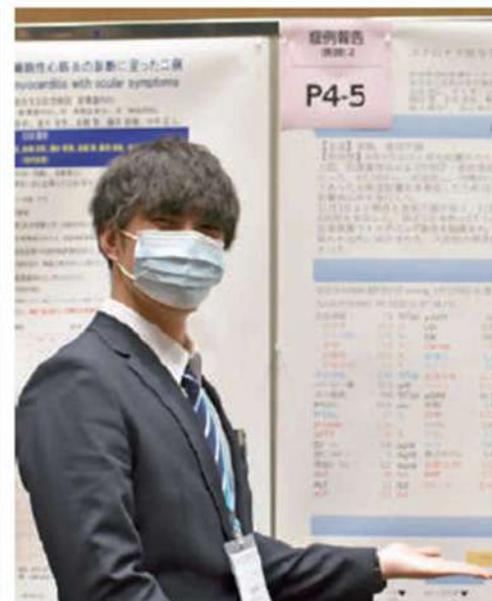
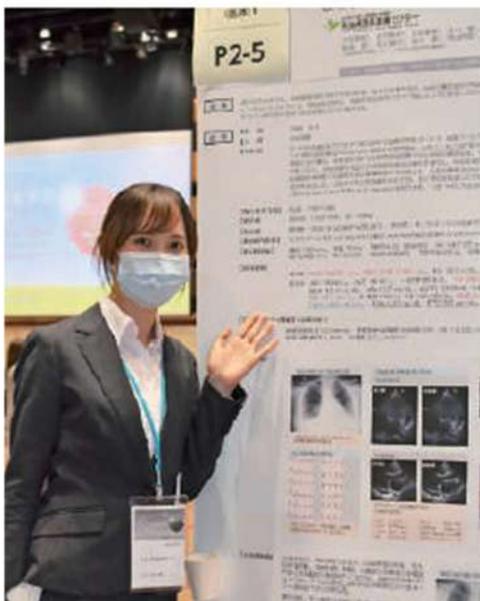
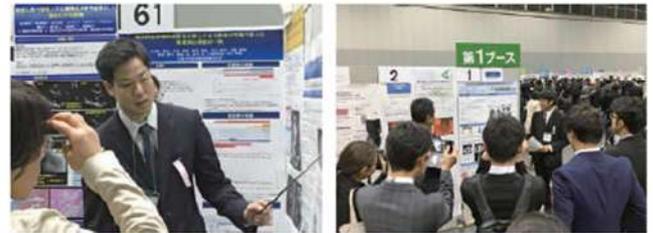
奈良県西和医療センター 医学雑誌

奈良県西和医療センター医学雑誌は年1回発行する学術雑誌です。研修医は毎年1編以上の論文投稿が義務付けられています。初期研修の2年間で必ず2編の論文を仕上げるのです。主に学会の地方会や大和川メディカルアカデミーで発表した症例報告ですが、論文の書き方のイロハから指導医や上級医から指導を受けることができ、大変勉強になります。医師になっておそらく初めての論文になりますので、貴重な経験です。初期研修中に一般の雑誌にもどんどん投稿できるような論文作成能力を育てます。



医学生と研修医のための日本内科学会ことはじめ (令和2年度、令和3年度、令和4年度はWeb)

毎年4月に開催される日本内科学会総会。そのなかに研修医のためのセッションがあります。この研修医セッションには、奈良県西和医療センターの研修医は必ず発表者として参加しています。全国学会ですので、1年間の経験のなかで、よく考え抜いた症例報告あるいは研究報告を発表します。この学会を一つの目標として1年間で磨いたプレゼンテーション力を、発表当日には発揮します。





教育体制



研修医のためのモーニングカンファレンス

臨床で初期診療をしてゆくうえで大切なことを、毎週月曜日の朝、研修医による研修医のためのカンファレンスの中で学んでいます。研修医が症例提示し、指導医と議論し、その症例から学ぶべきポイントを研修医がスライドにまとめて、みんなで勉強する会です。毎週、とても勉強になる内容であるため、月曜日は早起きしてでも全員が集まっています。



今年度テーマ

	テーマ
第 1 回	カルテの書き方
第 2 回	バイタルサイン
第 3 回	ショック
第 4 回	Professionalism 1
第 5 回	発熱
第 6 回	腹痛
第 7 回	消化管出血
第 8 回	泌尿器科救急
第 9 回	頭痛
第 10 回	胸痛
第 11 回	腎機能障害
第 12 回	脱水症・熱中症

	テーマ
第 13 回	動悸・不整脈
第 14 回	外科救急
第 15 回	肝胆脾の救急
第 16 回	呼吸不全
第 17 回	失神・痙攣
第 18 回	意識障害
第 19 回	Professionalism 2
第 20 回	糖尿病救急
第 21 回	アレルギー
第 22 回	電解質異常
第 23 回	脳神経外科救急
第 24 回	妊婦の診察での注意点

	テーマ
第 25 回	呼吸機能検査
第 26 回	関節痛、腰痛
第 27 回	Professionalism 3
第 28 回	耳鼻科救急
第 29 回	膠原病を疑ったら
第 30 回	透析患者の救急
第 31 回	下痢・便秘
第 32 回	気管支喘息
第 33 回	眼科救急
第 34 回	痺れ・麻痺
第 35 回	婦人科救急

内科統合カンファレンス (J-OSLER カンファレンス)

毎月2回、水曜日の朝7時30分に院内の内科医(循環器、消化器、腎臓、呼吸器などすべての内科医)が全員一堂に会して行っているカンファレンス。内科専門医を目指す研修医も全員参加しています。奈良県西和医療センターでは、救急疾患や総合診療領域の疾患も内科医全員で協力して診療しています。そのために、たとえば腎臓内科の専攻医が循環器疾患を受け持ったり、消化器内科のスタッフ医師がリウマチ・膠原病領域の症例を受け持つようなこと、すなわち専門に縛られない診療が当たりまえになっています。これは、内科専門医プログラムのなかで、幅広い領域の症例を主たる主治医として受け持つことが要求されていることとマッチしており、そういう意味で奈良県西和医療センターは内科専門医プログラムでの専門医研修がしやすい環境になっています。しかし、専門分野でない症例では、各専門診療科の指導医・上級医からの指導だけでは解決しないことや気がつきにくいことがあることも事実です。このように、悩んだ症例や診断がつかない症例などをこのカンファレンスに持ち寄って、たくさんの領域の先生の前で症例提示し、不明なことを解決する絶好の機会になっています。また、内科専門医プログラムで提出(J-OSLER システム)しなければならない受け持ち症例のなかでも考察の多い症例を、このカンファレンスで提示することで、広くアドバイスを受けられるというメリットもあり、重要な内科の集まりになっています。このカンファレンスの司会をしているのが、臨床研修医支援室長の森本勝彦部長です。研修医の受け持つ症例も、広範囲の領域になるため、このカンファレンスは研修医にとっても重要です。研修医はこの議論を聞いて、内科医の思考過程を学んでいってほしいと考えています。



臨床病理検討会（CPC）

奈良県西和医療センターでは、臨床で救命困難であった症例で、ご遺族の同意をいただけた場合に病理解剖を行うことがあります。多い年は年間16例にも上りましたが、COVID-19の感染拡大年の2020年度は2例までさがりました。しかし、医学の発展のためにご献体いただきましたご意志に敬意と感謝の気持ちをこめて、すべての臨床医がなぜ助けられなかったのかの答えを勉強する機会としてCPCを設けています。2021年度は7月に3例、2022年度は7月と10月に計5例の症例の臨床経過と病理解剖の結果（顕微鏡的所見を含む）を突合して議論しました。臨床医の勉強としてなくてはならないCPCです。



研修医セミナー（1-2年次研修医全員が集合して学習）

心臓電気整理のプロフェッショナルによる心電図判読講座（木曜日）

奈良県西和医療センターは知る人ぞ知る不整脈のプロ集団。そのなかでもカテーテルアブレーションを専門とする若手医師による心電図の読み方講座。学生時代に知っておくべき心電図の復習から始まり、より判読に難しい心電図へ、レベルアップしながら、すべての研修医が（不整脈専門医レベルまではいかないまでも）総合内科専門医や循環器専門医レベルまで心電図を判読できるようにトレーニングを積むコースです。毎週、心電図を読むことで、背景の疾患を考えながら、より精密に心電図を読む習慣が身に付きます。



消化器疾患スキルアップセミナー（10回）

2016年4月より消化器内科が6名体制にグレードアップしました。現在では、研修医のためのセミナーを月に一回開催しています。消化器内科のプロが教える実践的な内容です。楽しんでいただきたいと思います。

講演タイトル

講演タイトル	
第1回	明日から使える腹部エコー実践術
第2回	あなたも明日から肝臓専門医
第3回	よく見る大腸疾患①
第4回	上部消化管出血の初期対処法
第5回	上部消化管内視鏡の依頼と所見の見方
第6回	消化器内科病棟処置（腹腔穿刺・ENBO管理）
第7回	ウイルス肝炎の現状と最新治療情報
第8回	よく見る大腸疾患②
第9回	閉塞性黄疸と急性胆管炎の対処法
第10回	膵疾患（急性膵炎）

放射線科読影講座（全15回）

単純X線像やCT・MRI画像の読影を深く理解するために、放射線科指導医が読影法の考え方を詳しく教えています。毎日毎晩たくさんの救急患者を受け入れているなかで、これは大切という画像から学習してください。きっと実力がつくと思います。



教育体制

	内 容
第1回	虫垂炎
第2回	胸部レントゲン・CTの読み方
第3回	CVポートについて
第4回	大動脈解離
第5回	消化管穿孔
第6回	画像検査依頼文の書き方
第7回	医療機器トラブル
第8回	単純CTを見直そう
第9回	腎外傷の画像診断
第10回	出血の画像診断
第11回	腸閉塞
第12回	血尿
第13回	異物誤嚥
第14回	気管支・肺区域
第15回	頭部CT



総合診療カンファレンス（金曜日）

研修医に大人気の中村塾。総合診療のプロフェッショナル、中村孝人先生によるプライマリケアのために必要な知識と考え方、推論の進め方など研修医が最も知りたいツボをすべて伝授するコース。

	内 容
第1回	RIME
第2回	肺炎と身体所見のとり方のコツ
第3回	ショック
第4回	Covid-19 case study
第5回	気胸、痛みのアセスメント
第6回	Case Conference
第7回	Case Conference
第8回	CPA
第9回	体重減少
第10回	Case presentaion
第11回	薬剤性肺炎・case study
第12回	Case Conference
第13回	Case Conference
第14回	Case Conference



	内 容
第15回	胸部XP読影
第16回	救急外来での対応
第17回	視診と問診
第18回	感染症診療の原則
第19回	血液ガスの読み方
第20回	血液ガスの読み方2
第21回	予備日

基本的臨床能力評価試験(年1回)

日本医療教育プログラム推進機構(JAMEP)が主催する研修医としての臨床能力を評価する試験です。全国 250 施設以上の医療機関で採用されている試験を1年次と2年次の2回受験してもらいます。自分自身の臨床能力を客観的な評価によって再認識し、その後の研修生活に生かしてもらえたいことを期待しています。



臨床検査技術カリキュラム(全3回)

臨床検査の中で特に診療に不可欠な技術として、血液像、細菌グラム染色、輸血関連(血液型、輸血適合試験)検査を臨床検査技師による研修を行い、実践に即した手技、形態観察術を伝授します。



研修内容

第1回	
第2回	グラム染色と検鏡のしかた
第3回	
第4回	
第5回	血液塗抹標本の作製・染色と見方
第6回	
第7回	
第8回	血液型と交差適合試験
第9回	

形成外科縫合実習

真柴 久実先生 (奈良県西和医療センター)



院外講師による特別講座

開催日	内容	講師
平成 29 年 2 月 22 日	職員全体勉強会	松本 謙太郎 先生 (大阪医療センター総合診療科)
平成 29 年 3 月 17 日	「認知症ってそういうことだったのか」 職員全体勉強会 「せん妄ってそういう事だったのか」	関口 健二 先生 (信州大学医学部附属病院総合診療科 特任教授)
平成 29 年 4 月 7 日	「呼吸器問診と鑑別診断」 「間質性肺炎の取り扱い」 職員全体勉強会「肺結核のお話」	長尾 大志 先生 (滋賀医科大学呼吸器内科講師)
平成 29 年 5 月 22 日	乳腺の診察の仕方：乳腺外科への招待	高島 勉 先生 (大阪市立大学大学院腫瘍外科講師)
平成 29 年 5 月 26 日	「高齢者の身体診察について」 職員全体勉強会「バイタルサインの重要性」	上田 剛士 先生(洛和会丸太町病院救急・総合診療科副部長)
平成 29 年 6 月 23 日	みるトレ感染症～感染症の Visual Diagnosis～ 職員全体勉強会 「抗菌薬！どんなときに使っていますか？～耐性菌を増やさないために私たちができること～」	忽那 賢志 先生 (国立国際医療研究センター国際感染症センター)
平成 29 年 9 月 7 日	「がん治療・緩和ケアにおけるこころのケアとは」	四宮 敏章 先生 (奈良県立医科大学附属病院緩和ケアセンター長)
平成 29 年 10 月 5 日	「意識障害のアプローチ」 職員全体勉強会「急変時対応について」	坂本 壮 先生 (順天堂大学医学部附属練馬病院救急・集中治療科)
平成 29 年 10 月 27 日	「EFAST とショックの超音波」	松本 敬 先生 (中頭病院集中治療科)
平成 29 年 11 月 9 日	職員全体勉強会 「非専門家のための HIV 感染症との関わり方」	塚田 訓久 先生 (国立国際医療研究センターエイズ治療・研究開発センター医療情報室長)
平成 30 年 1 月 22 日	乳がんの診断と治療の実際 乳がん専門医が語る乳がんとは？	高島 勉 先生 (大阪市立大学大学院腫瘍外科講師)
平成 30 年 2 月 21 日	「不定愁訴に強くなる」 職員全体勉強会「不定愁訴と言わないで！」	片岡 仁美 先生 (岡山大学病院総合内科)
平成 30 年 4 月 17 日	「全ての医療者のための ACP(Advance Care Planing)と臨床倫理について」	西村 正大 先生(奈良市立都祁診療所 管理者、市立奈良病院臨床研修センター 副センター長)

教育体制

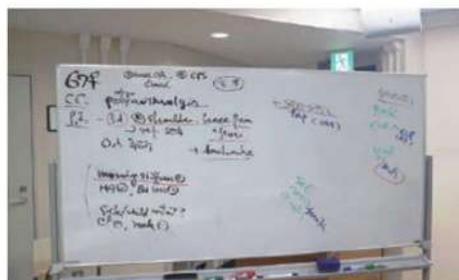
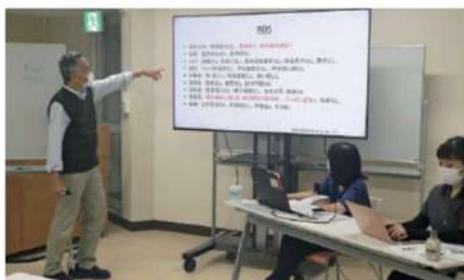
開催日	内容	講師
平成 30 年 5 月 10 日	「博士の愛した聴性打診～必要なものは聴診器だけ～」 全職員勉強会 「呼吸器の身体診察～聴診器を必要としない身体診察編～」	伊東 直哉 先生 (静岡がんセンター感染症内科)
平成 30 年 6 月 28 日	「身体診察小テスト」	川島 篤志 先生 (市立福知山市民病院総合内科)
平成 30 年 9 月 13 日	「ロジックで進めるリウマチ・膠原病診療」	萩野 昇 先生 (帝京大学ちば総合医療センター第三内科学講座(血液・リウマチ)講師)
平成 30 年 10 月 17 日	ジュニアレジデント勉強会「周挿管期の心構え」 医師・看護師向け勉強会「挿管後のトラブルシューティング」	松本 敬 先生 (中頭病院集中治療科)
平成 30 年 10 月 18 日	ジュニア・シニアレジデント勉強会「不明熱を不明にしないための講義」 職員全体勉強会「インフルエンザの診断と治療」	山本 舜悟 先生(京都大学医学部附属病院総合臨床教育・研修センター 臨床研究・研修部 特定助教)
平成 30 年 11 月 14 日	楽しく学ぶ集中治療ワークショップ	笹野 幹雄 先生(中頭病院集中治療科)
平成 30 年 11 月 29 日	ジュニア・シニアレジデント勉強会 「こども苦手を克服！こどものみかたの基本原則」 職員全体勉強会 「小児科外来における経口抗菌薬適正使用～未来のこどもたちに抗菌薬を残す～」	笠井 正志 先生 (兵庫県立こども病院感染症科部長)
平成 31 年 2 月 20 日	①「STD のプライマリケア」②「発熱・皮疹／紫斑」	大場 雄一郎 先生 (大阪急性期・総合医療センター 総合内科)
平成 31 年 4 月 11 日	「フィジカルの実技とベッドサイド回診」 職員全体勉強会 「地域医療が楽しくてたまらない！」	平島 修 先生(名瀬徳洲会病院)
令和元年 5 月 14 日	職員全体勉強会「感染症診療の原則」	青木 眞 先生(感染症コンサルタント)
令和元年 8 月 29 日	「輸液について～輸液の基本的な理解の仕方と実際の症例の考え方～」 職員全体勉強会 「SpPin な身体所見」	須藤 博 先生(大船中央病院院長)
令和元年 9 月 27 日	ベッドサイド回診 「フィジカル診断ケースシリーズ」 職員全体勉強会 「バイタルサインでここまでわかる」	徳田 安春 先生 (群星沖縄臨床研修センター長)

教育体制

令和元年 10 月 3 日	「診断エラー」 職員全体勉強会 「ポリファーマシー」	矢吹 拓 先生(栃木医療センター)	
令和 2 年 1 月 30 日	「多職種連携って必要？」 職員全体勉強会 「雲南市での経験とエビデンスを通して考える多職種連携」	太田 龍一 先生 (雲南市立病院地域ケア科部長)	
開催日	内容	講師	
令和 3 年度	コロナ感染症流行により中断		
令和 4 年 4 月 22 日	総合診療カンファレンス		酒見
令和 4 年 10 月 20 日	病歴と身体所見の重要性について	徳田 安春 先生 (群星沖縄臨床研修センター)	
令和 4 年 12 月 16 日	総合診療カンファレンス	酒見 英太 先生(音羽病院)	
令和 5 年 2 月 15 日	ER 診療と不確実性 ～ ER を楽しむ方法～	宮前 伸啓 先生(音羽病院)	
令和 5 年 2 月 24 日	医師の働き方とキャリア選択について	杉村 和宣 先生(仙台厚生病院)	
令和 5 年 1 月 26 日	総論:集中治療とは	中村 通孝 先生 (奈良県総合医療センター、 現 当センター集中治療科副部長)	
令和 5 年 2 月 16 日	集中治療:呼吸に関するデバイスと栄養管理について	中村 通孝 先生 (奈良県総合医療センター、 現 当センター集中治療科副部長)	
令和 5 年 6 月 9 日	若手医師のためのポイントオブケア超音波	瀬良 誠 先生(福井県立病院)	
令和 5 年 6 月 10 日	超音波診断を用いたハンズオンセミナー	瀬良 誠 先生(福井県立病院)	
令和 6 年 4 月 19 日	総合診療カンファレンス	酒見 英太 先生(音羽病院)	
令和 6 年 11 月 29 日	総合診療カンファレンス	酒見 英太 先生(音羽病院)	
令和 7 年 5 月 28 日	総合診療カンファレンス	酒見 英太 先生(音羽病院)	

酒見 英太 先生による総合診療ケースカンファレンス

実践的な総合診療の診断学。NHK の番組「総合診療医ドクターG」に出演された元祖ドクターG でもある洛和会京都医学教育センター長 酒見英太先生によるケースカンファレンス。当センターの実際の症例の中から診断に苦慮した症例について、診断に至る思考プロセスを詳しく解説。総合診療指導のプロフェッショナルによる他では経験できないカンファレンス。(年 4 回総合医療センターとの相互開催)



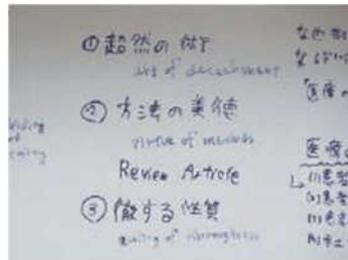
開催年度	内容
令和元年度	<ul style="list-style-type: none"> 発熱と口内炎で救急外来を受診した 76 歳女性 診断に苦慮した不明熱の一例
令和 2 年度	<ul style="list-style-type: none"> 右季肋部痛を主訴に受診した女性 繰り返す発熱と咳嗽を主訴に紹介された一例
令和 2 年度	<ul style="list-style-type: none"> コロナにより延期
令和 3 年度	<ul style="list-style-type: none"> バンザイが辛い 67 歳女性
令和 4 年度	<ul style="list-style-type: none"> 不明熱 肉芽腫性乳腺炎を併発している中年女性の 3 回目のコロナワクチン接種後に発症した両側急性性下腿結節性硬斑の一例
令和 5 年度	<ul style="list-style-type: none"> 何も味せえへん！元気がなくなってなんもできひん…が主訴の高齢男性 手足がうごかへん！食べ物も飲み込みづらいし…が主訴の若年男性
令和 6 年度	<ul style="list-style-type: none"> 発熱・皮膚掻痒感が主訴の 81 歳男性 大量の腹水と両足が重い・・・

総合診療医 徳田 安春 先生の臨床推論&身体所見スペシャル

数々のテレビ番組で皆さんもご存じの通り、総合診療領域の教育では全国的に有名な徳田安春先生によるケースカンファレンスおよび身体所見教育の病棟回診を実施しました。

当院の研修医からの2例のケースプレゼンテーションと徳田先生流の臨床推論についてのディスカッションおよびポイントでの身体所見のとり方など、豊富な経験を踏まえて教えていただきました。続いて実際に病棟で身体所見を徳田安春先生が研修医に伝授。最後には、医師としてなにをすべきか? 「医学」というタイトルでご講演をいただきました。

研修医にとって、身体所見は深いのだということが理解できたことでしょう。また、研修医には臨床推論における考え方の筋道をしっかり身につけてほしいと思います。



徳田安春先生@西和医療センター勉強会を開催します!!

講師：徳田安春先生 (JCHO本部顧問)
場所：奈良県西和医療センター (JR王寺駅から徒歩10分)
とき：2016年10月21日(金)
14時～ ベッドサイド教育回診
15時半～ 研修医レクチャー
17～18時 ご講演「医学」
対象：医師・コメディカルスタッフ・医学生
17時からのご講演は登録不要
参加費：無料



中央が徳田安春先生

松本 謙太郎 先生 (マツケン先生) の総合診療カンファレンス

国立病院機構大阪医療センター総合診療科のマツケン先生こと松本謙太郎先生による総合診療カンファレンス。深い臨床推論と身体所見の重要性についてカンファレンスを通じて解説していただきました。研修医達も刺激を受けたようです。



高島 勉 先生（大阪市立大学附属病院外科講師 乳腺専門医 現 当センター乳腺外科部長）
の乳腺の診かた:乳腺外科への招待

乳腺の診かた、触診の仕方を知っていますか？乳房のシミュレーターを用いて、乳がんを疑う腫瘍の見つけ方や乳がんの診断法を解説していただきました。この講座は2回シリーズで、後編は、乳がんの治療の実際についてです。特に、外科的な技術よりも化学療法や放射線療法など集学的な治療が主流になりつつある領域で、現場ではどのように考えて治療しているのかを詳しく解説していただきました。



片岡 裕貴 先生（兵庫県立尼崎総合医療センター）の「EBMの検索法を極める」セミナー

EBM 教育で有名な兵庫県立尼崎総合医療センターの片岡裕貴先生に来ていただき、EBM の基本から活用法、さらに検索の極意を伝授していただきました。院内 LAN でいつでも閲覧可能な Up To Date のうまい使い方たくさん教えていただきました。

教育体制

長尾 大志 先生（滋賀医科大学呼吸器内科）の間質性肺炎と肺結核の勉強会

研修医のためだけに「間質性肺炎の診かた・考え方」を解説していただきました。総論から始まり、画像の特徴など詳細に教えていただきました。その後に、研修医を含む医師とメディカルスタッフ全体に「結核のはなし」というテーマで結核診療の考え方を解説していただきました。研修医にとって呼吸器内科診療の醍醐味が理解できた勉強会であったと思います。



上田 剛士 先生（洛和会丸太町病院 救急・総合診療科）の総合診療カンファレンス

HK ドクターG でおなじみの上田剛士先生による総合診療カンファレンス。今回は、身体診察のなかでも高齢者で特に気を付けたいポイントに関して、研修医とカンファレンスをしていただきました。2時間にわたるカンファレンスで、身体所見の正しい取り方、考え方を研修医に叩き込んでいただきました。その後に「バイタルサインの重要性」というテーマで、ご講演をいただきました。研修医にとっては、いつもテレビで見っていた先生からの直接のカンファレンスが新鮮でした。

四宮 敏章 先生（奈良県立医科大学附属病院緩和ケアセンター）による緩和ケア講習会

「がん治療・緩和ケアにおけるこころのケアとは？」というテーマで四宮敏章先生にお話しいただきました。奈良県西和医療センターの研修プログラムではホスピス研修も選択可能ですが、選択しない研修医にとっても、緩和ケアは重要な研修項目です。研修医は外部の緩和ケア講習に出席（義務）していますが、今回は四宮先生から直接、緩和ケアにおけるこころのケアの実際を教えてくださいました。



坂本 壮 先生 (順天堂大学医学部附属練馬病院 救急・集中治療科) の救急外来カンファレンス

坂本 壮先生は、救急の最前線で活躍されている先生です。今回は、意識障害のアプローチというテーマで、研修医に対してトレーニングしていただきました。意識障害と言っても様々な背景があり、論理的にアプローチすることで、真の病態が浮かび上がってきます。研修医にとっては、有意義な 2 時間のカンファレンスでした。そしてカンファレンス後に「急変時にどう対応する？」というテーマでご講演をいただきました。



忽那 賢志 先生 (国立国際医療研究センター国際感染症センター) の臨床推論カンファレンス

病歴と身体所見を重視した初診時の臨床推論のカンファレンス。密度のあるカンファレンスでした。感染症患者の身体所見の数々は、研修中に見ることがまれでも、重要なものが含まれています。専攻医たちも勉強になったカンファレンスでした。そして、その後に抗菌薬の使い方について、プロの目からみたエッセンスを教えてくださいました。

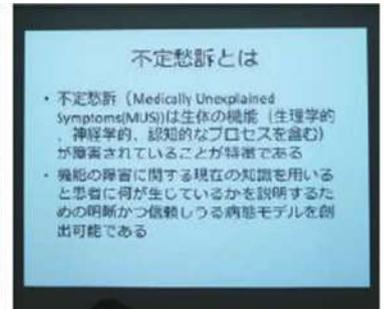


塚田 訓久 先生 (国立国際医療研究センター病院エイズ治療・研究開発センター医療情報室長) のHIV診療カンファレンス

奈良県は東京都よりはるかにHIV感染症患者さんとの接触は少ない環境にありますが、それでも知っておかなければならないHIVに関する研修医のためのカンファレンスです。【症例】研修医。2 週間前から徐々に増強する息切れと倦怠感を自覚していた。本日当直中に息苦しさが増強し、職場の救急外来を受診した。胸部X線で両側に非常に淡いすりガラス陰影. という症例から始まり、HIV感染の可能性をどのように想起すべきかについて教えていただきました。その後、今回は「非専門家のためのHIV感染症との関わり方」というテーマで現在のHIV感染症がほぼコントロールできる疾患になっていること、専門施設ではどのように治療しているのか、そして世間にはどれだけひどい偏見があるのか、それに対してどのように患者さんのケアをしているのかなど、日本国民全員に聞かせてほしい貴重なお話しをしていただきました。このような最前線の仕事の内容を聞かせていただくことができ、ただ、勉強になったというより、将来感染症領域のプロを目指す研修医がでてくるのではないかと胸が熱くなりました。

片岡 仁美 先生 (岡山大学病院総合内科) の不定愁訴講習会

片岡仁美先生は、NHKのドクターGでおなじみの先生です。番組がきっかけで、奈良県西和医療センターの研修医教育にも協力いただいています。不定愁訴と思っても、見逃してはならない疾患が隠れていることがあるということ、教えていただきました。



西村 正大 先生 (奈良市立都祁診療所管理者・市立奈良病院臨床研修センター副センター長) の勉強会『全ての医療者のためのACP (Advance Care Planing) と臨床倫理について』

人生の最終段階における医療に関して、患者さんと医療者がこの先どのような医療を受けたいか、どのように残された時間を過ごしたいかを、時間をとってしっかり話し合っであらかじめ決めておくことをACPといいます。西村先生はプライマリケア医としてその第1線での経験と考え方を、西和の研修医のために教えてくれました。



伊東 直哉 先生（静岡がんセンター感染症内科）による身体診察勉強会

プライマリケアにおいて、病歴のとり方と身体所見のとり方は、最も重要です。今回は静岡がんセンターの伊東先生に身体診察の極意を教えていただきました。



川島 篤志 先生（市立福知山市民病院総合内科）の研修医・専攻医勉強会「身体診察小テスト」

総合内科の教育に情熱を熱く持っていらっしゃる川島先生による身体診察の極意。



教育体制

孫 大輔 先生（東京大学大学院医学系研究科医学教育国際研究センター）の 研修医・専攻医勉強会「地域を見る「眼」を持つ！：地域診断からCBPRまで」 全体勉強会「医療における対話（ダイアログ）の可能性」

対話（ダイアログ）を医療現場で活用するためにはどうすれば良いか、ワークショップ形式で、皆で経験しました。



萩野 昇 先生（帝京大学ちば総合医療センター第三内科（血液・リウマチ）講師）の 研修医・専攻医勉強会「ロジックを進めるリウマチ・膠原病診療」

研修医のための本を出版されていることでも有名な萩野先生による、リウマチ膠原病の診断についての解説。関節を触ることの大切さを教えていただきました。内科と整形外科の間で解決できない患者さんの苦痛にアプローチできるヒントを沢山いただきました。



松本 敬 先生 (中頭病院集中治療科) の研修医勉強会
 「周挿管期の心構え」 医師・看護師勉強会「挿管後のトラブルシューティング」

東京大学卒業後、米軍の病院や福井県立中央病院、
 亀田総合病院で救急・集中治療を経験され、現在
 は沖縄県立中部病院と双璧をなす沖縄県中頭病院
 集中治療部で活躍されている松本先生。毎年西和
 の研修医のためにテーマを変えて教えていただ
 いています。



山本 俊悟 先生 (京都大学医学部附属病院総合臨床教育・研修センター 臨床研究・研修部 特
 定助教) の研修医・専攻医勉強会「不明熱を不明にしないための講義」 全体勉強会「インフ
 ルエンザの診断と治療」(感染防止研修会公開講座)



大場 雄一郎 先生 (大阪急性期・総合医療センター総合内科) の研修医・専攻医勉強会
 ①「STDのプライマリケア」 ②「発熱・皮疹／紫斑」

一般に STD について勉強する機会は少ないものです。でも、救急外来では、常に念頭に置かねばならないもの。発熱・皮疹・紫斑などのありふれた症候の鑑別診断のなかで STD をどのように位置づけ、考えているか？とても勉強になる研修でした。



百武 威 先生 (高槻会高井病院呼吸器内科) の研修医・専攻医勉強会
 「胸腔ドレーンハンズオンと四方山話」

胸腔ドレーンの入れ方は、研修医のシミュレーショントレーニング複合宿でも行いますが、今回は、ハンズオンで学習することができました。正しい挿入と管理を知らないと、大きな事故につながります。正統な挿入法を勉強しました。

平島 修 先生 (名瀬徳洲会病院) の研修医・専攻医勉強会
 「フィジカルの実技とベッドサイド回診」

身体所見の取り方、とても大切な技術です。プライマリケアに携わるなかで、フィジカルの重要性を学びました。

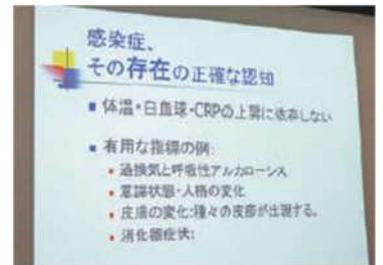


教育体制

青木 眞 先生 (感染症コンサルタント) の職員全体勉強会 「感染症診療の原則」(感染防止研修会公開講座)

言わずと知れた、超有名な感染症の大御所、青木眞先生が奈良県西和医療センターに！

感染症診療の基本的な考え方を、青木先生の人生すべてから学びました。留学したときの英語力の関する貴重なアドバイスもいただきました。次回は第 2 弾でもう一度お話を伺いたいと思います。



須藤 博 先生（大船中央病院院長）の研修医・専攻医勉強会
「輸液について～輸液の基本的な理解の仕方と実際の症例の考え方～」
職員全体勉強会「SpPinな身体所見」



徳田 安春 先生（群星沖縄臨床研修センター長）の研修医・専攻医勉強会
「ベッドサイド回診」「フィジカル診断ケースシリーズ」
職員全体勉強会「バイタルサインでここまでわかる」



教育体制

矢吹 拓 先生 (栃木医療センター) の研修医・専攻医勉強会 「診断エラー」 職員全体勉強会「ポリファーマシー」



太田 龍一 先生 (雲南市立病院地域ケア科部長) の研修医・専攻医勉強会「多職種連携って必要」 職員全体勉強会「雲南市での経験とエビデンスを通して考える多職種連携」



徳田 安春 先生 (群星沖縄臨床研修センター) の研修医・専攻医勉強会
「病歴と身体所見の重要性について」



宮前 伸啓 先生 (音羽病院) の「ER診療と不確実性 ～ERを楽しむ方法～」



杉村 和宣 先生 (仙台厚生病院) の「医師の働き方とキャリア選択について」



中村 通孝 先生 (奈良県総合医療センター、現 当センター集中治療科副部長) の研修医・専攻医勉強会「総論:集中治療とは」「集中治療:呼吸に関するデバイスと栄養管理」



瀬良 誠 先生 (福井県立病院) の研修医・専攻医勉強会
「若手医師のためのポイントオブケア超音波」「超音波診断を用いたハンズオンセミナー」

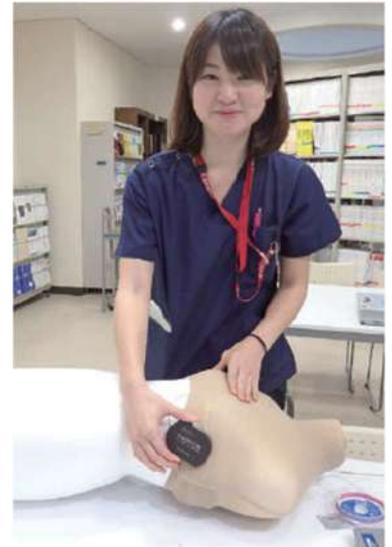


シミュレーショントレーニング

臨床研修医メディカルトレーニングルーム

研修医が身につけるべき基本的技術をシミュレートするためのトレーニングルームを整備しました。安全で繊細な臨床手技の技量を身につけることは臨床医にとって重要事項です。卓越したプロの手技をたくさん見て覚えることも重要なのですが、自分が手技の術者になる前にシミュレータで何度も繰り返してトレーニングを積んでください。

- 1 心肺蘇生(BLS)用シミュレータ
- 2 腹腔鏡手術トレーニングシミュレータ
- 3 末梢静脈からの中心静脈カテーテル留置シミュレータ
- 4 内頸静脈・鎖骨下静脈からのエコーガイド下穿刺シミュレータ
- 5 腰椎穿刺用シミュレータ
- 6 動脈穿刺用シミュレータ
- 7 末梢静脈採血および点滴シミュレータ
- 8 気管挿管用シミュレータ
- 9 尿道バルーンカテーテル挿入用シミュレータ
- 10 縫合キット
- 11 大腸内視鏡シミュレータ



教育体制

夏期シミュレーショントレーニング合宿 神奈川県のカリニカルシミュレーションセンター

毎年7月に、1年次および2年次の研修医全員と若手ナースを対象にしたシミュレーショントレーニング合宿(2泊3日)を開催しています。神奈川県小田原市にほど近い温泉町に、シミュレーション教育施設があります。ICUや一般病室、ナースステーション、手術室やカテ室を備えた巨大な模擬病院で、様々な臨床の場面を想定した、シナリオシミュレーショントレーニングや、高度なことまで可能なシミュレータを用いた手技のトレーニング、そして外科的気道確保などの特殊な手技に関しては、動物を用いての実習が可能です。ひとつひとつの課題に対して、ブリーフィング(学習の目的と学習環境の説明)⇒シナリオシミュレーション(手技実習を含む)⇒デブリーフィング(振り返り)の3つの時間帯があり、特にデブリーフィングでは学習した重要なことをディスカッションしてより深い理解につなげます。2021年度はバブル方式で開催、研修医にとって非常に有意義なトレーニングなのでこれからも毎年開催します。(2020年度のみ COVID-19 のため中止)



シナリオシミュレーション



腰椎穿刺



シナリオシミュレーション



超音波ガイド下穿刺



内頸静脈穿刺



シナリオシミュレーション

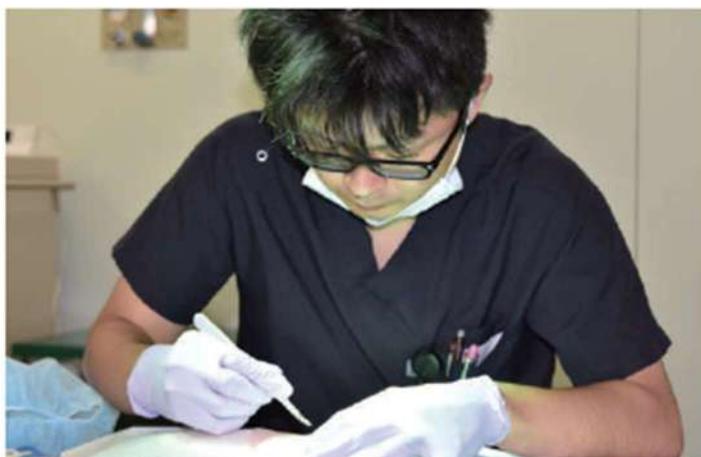


気管挿管



切れないっす (...お前、メス反対やんけ!)

夏期シミュレーショントレーニング合宿 2017



切開トレーニング



エコーガイド下CVカテーテル挿入



シナリオシミュレーション



シナリオの振り返り（デブリーフィング）



シナリオシミュレーション後の振り返りと解説



気管挿管



CVカテーテル挿入



医師・看護師チームによる気管挿管トレーニング



輪状甲状関節切開

夏期シミュレーショントレーニング合宿 2018



輪状甲状間膜切開法



腰椎穿刺



シナリオの振り返り



シナリオシミュレーション中



腰椎穿刺



シナリオの振り返り



胸腔ドレーン挿入



縫合トレーニング



エコーガイド下 CV カテーテル挿入



外科的気道確保



シナリオシミュレーション中



気管挿管



シナリオシミュレーション中

夏期シミュレーショントレーニング合宿 2019



総合トレーニング



総合トレーニング



総合トレーニング



気管挿管



気管挿管



腰椎穿刺



Aライン挿入



シナリオシミュレーション



シナリオの振り返り



Aライン挿入



外科的気道確保



外科的気道確保



温泉地で懇親会♪(楽しい〜〜〜♪♪)

教育体制

夏期シミュレーショントレーニング合宿 2020

COVID-19 のため中止

夏期シミュレーショントレーニング合宿 2021

バブル方式での再開

奈良県西和医療センター臨床研修の目玉合宿も COVID-19 には勝てず、2020 年は涙をのんで中止にしました。そのためこの年の1年目はICLSの実技や様々な手技トレーニングの機会を失い、秋になっても急変などの実臨床の現場で(どうしていいかわからず)体が動かないことがありました。臨床研修管理委員会や臨床研修カリキュラム委員会の委員の先生方が議論し、(密は避けなければならない時期でしたが)急遽、院内でのICLSトレーニングを行うことで補いました。

しかし、このことで、この夏合宿の効果が絶大であることと再認識したのです。2021 年は、研修医・指導医・指導者レベルの看護師の合宿チーム全員がワクチン接種を済ませ、バブル方式(行き帰りはバスをチャーター、宿舎とトレーニング会場以外に外出禁止、アルコール禁止)での合宿を再開しました。2021 年7月9日から 11 日の3日間、トレーニング会場に缶詰で、様々な手技のトレーニングとシナリオシミュレーショントレーニングを行いました。この合宿に参加した1年目研修医は「日本救急医学会認定ICLS受講証明書」、2年目の研修医はICLSの指導をしますので「ICLSアシスタントインストラクター参加証明書」を受けることができます。COVID-19 パンデミックから脱出し、再び、宿舎での楽しすぎる懇親会ができるようになれば、みんな本当に打ち解けて西和の仲間だという実感がわく機会になることでしょう。それで今年は、懇親会やアルコールなしで、一体感を醸成できたと思っています。以上、奈良県西和医療センターの目玉企画の夏合宿報告でした。



意外と難しいマスク換気



「離れてください！」ACLSの特訓



カテ室をバックにドヤ顔の齋藤氏



ピース！(気管挿管にて)



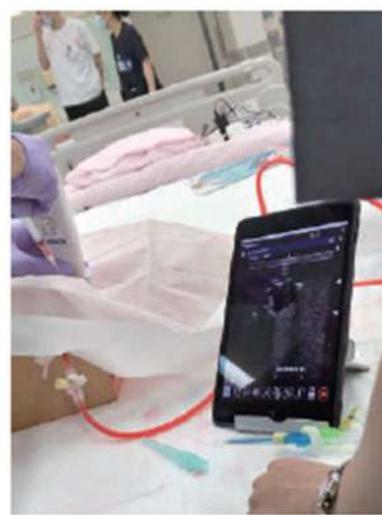
「痛い！」(本当は刺してないよ) 模型での動脈穿刺



模型で気管挿管の練習



ピース!!! (満面の笑顔)



夏期シミュレーショントレーニング合宿 2022



夏期シミュレーショントレーニング合宿 2023

2023 年も神奈川県模倣医療機関シミュレーション施設(テルモメディカルプラネックス)において、夏期シミュレーショントレーニング合宿を行いました。

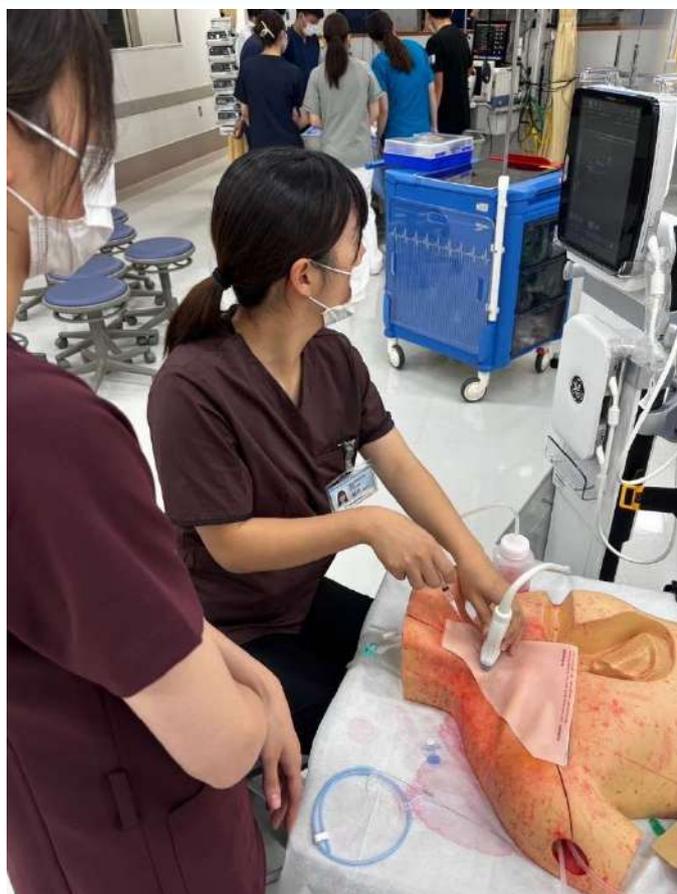
ICLSコースの資格取得のコース、ありとあらゆる手技のシミュレーショントレーニング、そして様々な模倣症例のシナリオを医師として体験するシナリオシミュレーショントレーニングが受講可能です。シナリオシミュレーションでは、受講する研修医は患者背景をブリーフィングされた後、今なにが起こっているか全く知らない状態で、シナリオが開始されます。血圧や脈拍、呼吸や心電図などの生体情報をコントロールできるシミュレータ(めっちゃめっちゃ高価な模倣患者の人形)を用いて、研修医がリーダーとフォロワーに分かれて、患者の急変に対応します。臨床推論(鑑別診断を頭に描き)ながら、必要な身体診察 → 必要なベッドサイドで可能な検査 → (場合によっては患者を移動させてでも行わなければならない検査) → 同時並行で、看護師や医療チームに治療につながる指示を的確に出しながら、患者を回復させるために手立てを講じていくスタイルの学習です。シナリオが終了したら、デブリーフィング(振り返り)をして、どう考えて行動すればよかったのかを覚えていきます。合宿ですので、指導医が院内から(現実の患者さんのことで)呼ばれて居なくなってしまうことがなく、3日間すべての時間、指導に集中できるところが素晴らしいのです。夜は、指導医・研修医・看護師などが一同に集まって懇親会です。この合宿はこのように楽しさ満載なのですが、医師としてのスキル・初期治療の考え方が格段に伸びる機会になっています。2024 年は7月に開催予定です。医学生の皆さん、2025 年は一緒に神奈川県に行ってトレーニングしましょう！



夏期シミュレーショントレーニング合宿 2024



夏期シミュレーショントレーニング合宿 2024



夏期シミュレーショントレーニング合宿 2024



夏期シミュレーショントレーニング合宿 2024



夏期シミュレーショントレーニング合宿 2025



夏期シミュレーショントレーニング合宿 2025



教育体制

夏期シミュレーショントレーニング合宿 2025



夏期シミュレーショントレーニング合宿 2025



教育体制

日本内科学会認証 救急・ICLS講習会 (JMECC)

心肺停止の蘇生術と同様、心肺停止になる寸前の重症の内科救急患者に対する適切な対応を実践的に学ぶコースです。様々な救急患者のシナリオシミュレーションを用いて、適切な患者の評価と迅速な対応をするためのスキルアップを目的としています。内科専門医を目指す医師だけでなく、すべての研修医にとって重要なコースです。奈良県内のJMECC開催の中心を担っている JMECC ディレクター岡山悟志部長(リハビリテーション科)が中心になって当院でのコースを開催しています。内科専門医を目指す研修医が全員 JMECC をすでに受講しており、インストラクターの資格取得を目指すスタッフが複数在籍しているため、今後も継続的に奈良県西和医療センターで JMECC を開催します。当院の研修医は、救急外来での救急疾患対応の経験が豊富ですが、初期対応の基礎を学ぶため、JMECC を受講する方針にしています。



JMECC開催日	JMECC開催日	JMECC開催日
2016年12月4日(日)	2019年12月15日(日)	2022年12月25日(日)
2017年10月22日(日)	2020年10月18日(日)	2023年9月10日(日)
2018年12月9日(日)	2021年3月21日(日)	
2019年11月17日(日)	2021年11月21日(日)	

JMECC 2022



JMECC 2023



JMECC 2024



教育体制

新興感染症発生時のための訓練（研修医が First Touch したという設定） 新型コロナウイルス感染症の出現前からの訓練

2019 年からの COVID-19 パンデミックのずっと以前から新興感染症発生時のための感染防護訓練を臨床研修のプログラムに取り入れていました。この時代はまだ、SARS 相談室しかなかったのですが、必要な訓練であるという認識で、取り組んでくれています。現在は、大型の発熱外来クリニックや COVID-19 専用病棟で、いつでも新規の訓練が可能です。そして臨床での実践も研修医がしています。



中心静脈カテーテル挿入シミュレーショントレーニング

メディカルトレーニングルームでシミュレータを用いたエコーガイド下中心静脈カテーテル挿入の訓練をしています。循環器内科では血流がある特別なシミュレータを用いて、ペースメーカー等のデバイス植込み手術時に行う X 線透視下での鎖骨下静脈穿刺を学習しました。



院外研修

がん診療に携わる医師のための緩和ケア研修会

がん診療において、緩和医療は非常に重要な領域です。癌性疼痛の正しい評価法と治療のノウハウを事例検討で学習したり、ロールプレイによって実際に近い経験としてオピオイドの使用法を学びます。また、呼吸器症状・消化器症状の評価の仕方や対処法、精神症状の評価と対処法など、がん患者さんに主治医として寄り添えるための基本を学習する機会です。

毎年11月に開催されるこの研修会に研修医は全員参加しています。



院内取り組みについて



DMAT 活動

奈良県には赤十字病院が存在しないため、これまでも災害時や感染症のアウトブレイク時には県立病院がその代わりとなって活動してきました。皆さんの記憶に新しい東日本大震災時にも奈良日赤隊として、津波災害の当日に召集、翌朝に奈良を出発し、岩手県の野田村(右の写真)で奈良県西和医療センターのチームが活動しました。2016年の熊本地震においても、奈良 DMAT 奈良県西和医療センターの部隊を派遣しています。DMAT 隊員以外にも広く災害医療を理解してもらうために現地の活動の様子を報告する研修会には研修医全員が参加します。さらに、毎年 11 月には、病院職員全員参加型の災害訓練が開催され、研修医もトリアージに始まる災害時救急医療の考え方と具体的な実践法を学びます。



東日本大震災救護班
奈良県西和医療センターチーム (岩手県野田村)



2016年熊本地震に派遣された DMAT 隊 (奈良県西和医療センターチーム)

令和6年(2024年) 能登半島地震被災地域への支援活動

2024年の元旦に発生した能登半島地震では、西和医療センターDMAT隊は、発災当日に病院に集合、要請に基づき1月4日から活動を開始しました。金沢市の石川県立中央病院に搬送される救急患者さんの診療にあたる任務につきました。一方、日本赤十字社の奈良県支部の救護班活動においても、当院の救護班を輪島市に派遣。救護所の巡回診療を主なミッションとしつつ、自動ラップ式簡易トイレの組み立てや設置業務にも携わりました。また、全国自治体病院協議会・全国知事会の要請に応える形で、奥能登の珠洲市総合病院に感染管理認定看護師を含む主任クラスの看護師を2クール2名ずつ、市立輪島病院にも2クール2名ずつの主任看護師を派遣しました。トイレやシャワーもなく、寝る場所や食べ物にも不自由する環境でしたが、現地の医療スタッフと力を合わせ、被災者に寄り添う看護を提供してきました。研修医を派遣したわけではありませんが、病院として、積極的な被災地支援活動を私たちの使命と考えています。西和医療センターの災害訓練時には、研修医全員に参加してもらい、有事に備えるスキルを学んでもらいます。

院内 DMAT チームの被災地派遣（石川県立中央病院での活動）



院内取組について

院内日本赤十字チームの被災地派遣（石川県輪島市での活動）



院内看護師の被災地派遣（珠洲市総合病院・市立輪島病院）



院内災害訓練

毎年11月の土曜日は、救急外来以外の業務をストップして、病院のスタッフ全員参加の災害訓練を実施しています。訓練には医師、看護師を始め、中央放射線部、中央検査部、中央手術部、薬剤部、臨床工学技術部などすべての院内スタッフが役割を分担し、奈良県広域消防組合の協力を得て、救急車も本番さながらに走ります。近隣で大規模災害が起こったという想定で、次々に運び込まれる救急患者さんを病院玄関ホールでトリアージし、救急外来では、赤、黄、緑のチームに分かれて、それぞれの領域で救急患者の治療にあたります。研修医は、この訓練の中心であり、トリアージや各チームでの治療に携わります。事前の机上訓練で、トリアージの行い方や、災害時の本部（院内設置）との連絡、手術部や病棟との連絡をどのように行い、どのように外部医療機関と連絡をしているか等を学んだうえで、当日すべてのスタッフが各々の役割を果たすシミュレーションに自ら参加することで、災害時の行動力が養われます。



COVID-19 診療（研修医の関わり）

2019 年に始まった COVID-19 パンデミックですが、2020 年1月にダイヤモンドプリンセス号が横浜港に寄港する少し前に、実は奈良県で日本人の2次感染者がはじめて出ました。この症例は奈良県立医科大学附属病院に収容されましたが、2月5日には当院でも帰国者接触者外来を開始し、4 月には COVID-19 疑似症患者の収容、5月には COVID-19 疑い患者専用外来棟（発熱外来クリニック）の稼働、COVID-19 専用病棟の稼働が始まりました。

感染拡大の第1波（2020 年 3-5 月）、第2波（2020 年 7-8 月）では、研修医を感染症の最前線には立たせませんでした。しかし、全国的な感染拡大は止らず、特に第3波（2020 年 11 月-2021 年 1 月）においては、県内でも重症病床が逼迫し、当院は大規模な発熱外来を運営しながら、中等症入院の酸素や薬剤での治療に加えて、人工呼吸管理を要する重症患者の入院診療も請け負うことになり、研修医の力なしでは立ちゆかなくなりました。指導医の先生がたと研修医のみんなとも話し合い、

COVID-19 の入院診療の現場に入ってもらい、実際の診療をしてもらいました。もちろん現場に入るまでに感染防止の訓練を繰り返し、自信を持って現場（レッドゾーン）に入ってもらいました。第4波（2021 年 3 月-5 月）は関西では第3波を大きく上回るもので、当院では ECMO をはじめ人工呼吸管理などの重症管理が中心になりました。研修医もこの中に入って COVID-19 の診療を学んでくれたと思っています。

2023 年5月に COVID-19 は5類感染症となりましたが、現在も様々な感染症に対応できる体制を整えております。





研修医の日常

住みやすさ全国 No.1 の立地で豊かな研修生活を！

王寺駅から徒歩10分の場所にあり、大阪へのアクセスも良く、県内有数の好立地にあります。
地元の王寺町は住みこちランキング全国1位になったこともある便利さ、住みやすさを誇っています。

- 【JR大和路線】 法隆寺駅まで4分、JR奈良駅まで16分（直通）
天王寺まで18分、JR難波まで27分（直通）
- 【JR環状線】 大阪駅まで37分（直通）
- 【おおさか東線】 新大阪駅まで48分（久宝寺経由）



大阪駅



当センターはココ！



東大寺

奈良駅
王寺駅より16分



奈良公園



法隆寺



天王寺(あべのハルカス)

王寺駅は JR 大和路線・万葉まほろば線、近鉄生駒線・田原本線のすべてが乗り入れるハブ駅です！
3つのスーパーや様々な商店、銀行、ジム、飲食店が集まっているため、豊かな研修医生活が送れます！

【王寺駅周辺】



イオンいかるが店

大東建託の全国版
住みこちランキングで
王寺町が全国1位に！

住みこち(自治体)ランキング TOP10

順位	昨年	都道府県	自治体名	偏差値	評点	回答数
1位	12位	奈良県	北葛城郡 王寺町	73.4	1.05	91
2位	2位	東京都	中央区	73.4	1.05	832
3位	3位	大阪府	大阪市 天王寺区	73.1	1.05	337
4位	7位	愛知県	長久手市	72.2	1.02	217
5位	9位	東京都	文京区	72.2	1.02	1,148
6位	1位	福岡県	福岡市 中央区	71.8	1.01	806
7位	11位	大阪府	箕面市	71.6	1.01	416
8位	5位	愛知県	名古屋市 昭和区	71.5	1.00	438
9位	6位	福岡県	糟屋郡 新宮町	71.3	1.00	93
10位	17位	兵庫県	芦屋市	71.2	1.00	302

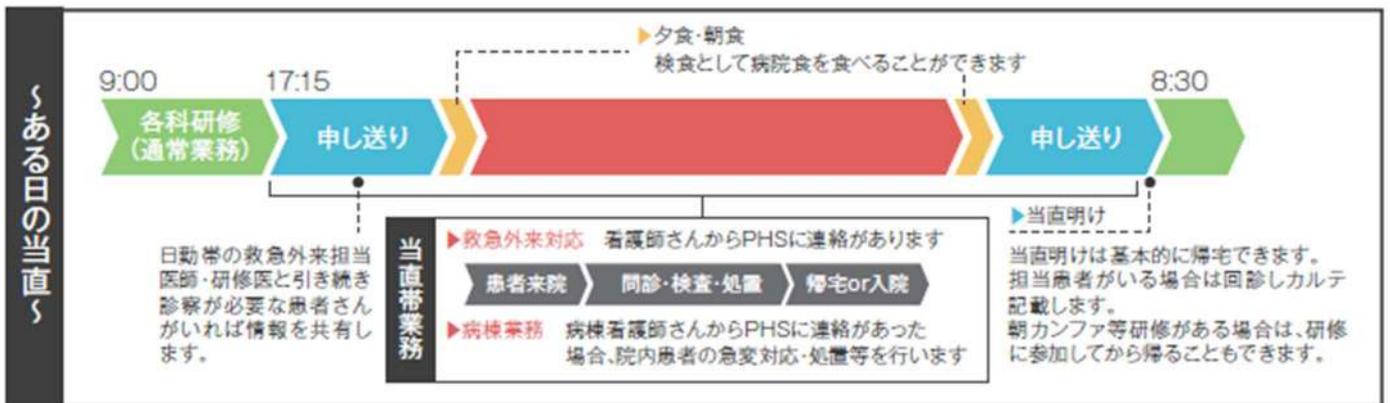
王寺駅周辺には、食品スーパーや薬局等の生活に欠かせないものから、居酒屋・飲食店の他、ジム等も充実しています！

出典：大東建託株式会社「いい部屋ネット住みこちランキング 2020 全国版」(一部抜粋)
https://www.kentaku.co.jp/mraken/market/pdf/research/sumicoco/release_sumicoco2020_all_20201125.pdf

日勤・夜勤当番（研修医はすべての診療科の業務に関わります）

研修医にとって当直業務は気になる場所だと思います。奈良県西和医療センターでは、働き方改革に積極的に取り組み、令和5年度より当直を廃止し、日勤・夜勤当番制へと制度を変えました。これにより、夜勤当番明けの翌朝は勤務から外れますので、朝の申し送りが終わり次第、帰宅できます。夜勤当番では、内科、外科、小児科、ICU・CCUに上級医や指導医の先生が入っていますが、研修医も2名体制で当番に当たります。研修医の当番業務は、病棟の入院患者さんの診療だけでなく、救急外来の診療も担当します。指導医・上級医が側にいる環境で、内科、外科に関わらずすべての診療科の救急患者さんの初期診療を研修医が行います。年間の救急車の搬送件数は4,000件以上にもなりますので、忙しいですがみんなで頑張っています。毎年の実績では、研修医一人あたりの救急患者診療件数は年間平均500件です。ウォークインの患者さんから重症の救急搬送患者さんまで広範囲の診療に数多く当たりますので、あらゆる領域の救急対応において貴重な経験を積むことができます。このように一人当たりの経験数が非常に多いことが良いところでもあります。その一方で忙しい毎日になることを覚えておいてください。

当直日誌



奈良県立病院機構忘年会

12月に開催される奈良県立病院機構(奈良県西和医療センター、奈良県総合医療センター、奈良県総合リハビリテーションセンター、奈良県立病院機構看護専門学校)の忘年会です。400人近いスタッフが集まって開催されます。スタッフオブザイヤーなどの表彰や互いの施設の情報交換もでき、楽しい忘年会です。(COVID-19以降、中止しています)



臨床研修修了祝賀会

毎年3月の第2金曜日の夜、大阪天王寺のマリオット都ホテルで、臨床研修修了祝賀会を開催しています。この日は、病院の医師全員が集まり、研修医の卒業をお祝しています。研修医も2年間に指導を受けたたくさんの先生方に感謝のこぼれを送っています。後輩の研修医が卒業してゆく研修医の2年間のスライドやビデオにまとめ、みんなで笑ったり泣いたり、締めくくりの祝賀会です。

2023 年度祝賀会 現地開催復活

2022 年度祝賀会 Web (オンライン) 開催

2021 年度祝賀会 Web (オンライン) 開催

2020 年度祝賀会 Web (オンライン) 開催

2019 年度祝賀会 Web (オンライン) 開催

2023 年度祝賀会・同窓会



2018 年度祝賀会



2017 年度祝賀会



2016 年度祝賀会



2015 年度祝賀会・同窓会



研修医の集い in 奈良

研修医の集い in 奈良では、奈良県下で研修をしている研修医が大集合して、いろいろなテーマでディスカッションします。2023 年は奈良県西和医療センターと奈良県総合医療センターの研修医が開催当番にあたり、聖マリアンナ医科大学 救命救急センター 准教授 北野夕佳先生を招聘して、キャリアプランについてのワークショップを行いました。県内の研修医から集めた様々なアンケートの集計も発表し、とても盛り上がりました。

医師臨床研修修了証授与式



過去の修了生の進路（選択した診療科）（単位：名）

2017 年度修了者（4名）

耳鼻咽喉科・頭頸部外科 1 /
麻酔科 1 / 循環器内科 1 / 形成外科 1

2018 年度修了者（8名）

泌尿器科 1 / 消化器外科 1 /
心臓血管外科 1 / 眼科 1 / 小児科 1 / 消化器内科 2 / 腎臓内科 1

2019 年度修了者（9名）

消化器内科 2 / 呼吸器内科 1 /
腎臓内科 2 / 形成外科 1 / 小児科 1 / 放射線科 1 / 医療行政等 1

2020 年度修了者（8名）

行政（名古屋市）1 / 小児科 1 / 産婦人科 1 / 消化器外科 1 / 脳神経外科 1 / 救急科 1 / 病理診断科 1 / 精神科 1

2021 年度修了者（7名）

皮膚科 2 / 耳鼻咽喉科 1 / 消化器内科 1 / 糖尿病・内分泌内科 1 / 総合診療科 1 / 美容外科 1

2022 年度修了者（8名）

泌尿器科 2 / 精神科 2 / 総合内科 1 / 小児科 1 / 放射線科 1 / 呼吸器内科 1

2023 年度修了者（10名）

整形外科 2 / 眼科 2 / 小児科 1 / 呼吸器内科 1 / 産婦人科 1 / 消化器内科 1 / 腎臓内科 1 / 精神科 1

先輩の声

2016 年度採用研修医 益田泰光(奈良県立医科大学卒)

こんにちは。私は 2016 年より奈良県西和医療センターで2年間初期研修をさせて頂き、2018 年より奈良県立医科大学形成外科に入局し形成外科医として働いています。

現在は奈良から遠く離れた岩手医科大学でステップアップの為に研修させて頂いております。今になって思うのは初期研修での2年間はその後の人生において、すごく影響があるなということです。

西和での2年間はとても濃いもので楽しいこと、しんどいことと、たくさんありましたが大きく成長できた期間であったと思います。お世話になった先生方、コメディカルの方々とは今でも定期的に集まり当時の思い出を話したりします。初期研修は医学生にとって初めて社会人になる場所でありそれだけにどこで研修するか、とても悩むと思います。病院選びの第一歩である病院見学で奈良県西和医療センターを見学し、社会人そして医師としてのスタートをぜひこの病院で始めてみませんか。



益田泰光

2017 年度採用研修医 羽根彩華(奈良県立医科大学卒)

奈良県西和医療センターは良かったと実感しています。病院全体が研修医教育に熱心であり、指導医・上級医の先生方だけでなく、スタッフの方もとても親切で、日々指導していただいています。当直時や救急外来研修では、先生の手厚い指導の下で研修医が主体的に考え、行動する機会が十分に与えられています。1年目の4月に初めて救急外来を対応した際は何もわからず不安だらけでしたが、数多く対応していくことで、今ではある程度自分で考えて行動することもできるようになってきました。もちろん、ただ数をこなすだけではなく、一つひとつの症例から学ぶことができるように先生から指導していただいたり、疑問に思ったことを研修医同士で考える機会も設けられています。研修医の人数は 15 人前後という多すぎず少なすぎずという人数で、切磋琢磨し助け合いながら日々楽しく過ごしています。私たち研修医は、少しでも多くの学生さんが当院を初期研修先として選んでくれることを願っています。



羽根彩華



研修医の日常

2017 年度採用研修医 大西将央(奈良県立医科大学卒)

初めまして、小児科後期研修の大西将央です。私は奈良県西和医療センターで2年間の初期研修プログラムを終え、3年目は小児科後期研修医として引き続き当院にて研修を行いました。

奈良県西和医療センターでの研修は良くも悪くも研修先病院では比較的小規模な地域中核病院であることだと思います。良い点としては、小規模であるため研修医の数も少なめで、各科の先生達の垣根も低く、研修科以外の先生にも様々なことを教えていただけること、圧倒的な Common disease の症例数であると思います。また、コメディカルの方も数が限られてくるので仲良くなれ、医師からは教われない多方面からのアドバイスなどもいただけます。悪い点としては、大学などと比べると重症例や専門的な治療が必要である症例、カンファレンスの数などアカデミックな点に置いては正直劣っている部分であるとは感じます。ただ、それを補う方法として、研修2年目で約6ヶ月まで奈良医大等の他病院での研修を選択することができます。私は、奈良県西和医療センターに無い科(精神科や3次救急)や3年目から専攻予定であった小児科を大学で研修しました。奈良県西和医療センターでありふれた症例をしっかりと学び、2年目で将来専攻する予定の科について大学病院などでさらに専門的な知識をつけることが可能です。

また、神奈川県の上野市にある上野市民病院での研修を選択することができ、訪問診療などを経験することもできます。日々忙しい中、違う環境で研修ができリフレッシュもできました。さらに、県職員対抗のソフトボール大会やみんなで斑鳩町のマラソン大会に出場するなど飲み会以外にもイベントが多く楽しく研修生活を過ごすことができました。

このパンフレットを見ている方は、奈良県西和医療センターでの研修を考えていていると思います。この紙面上では説明しきれないこともたくさんありますので、是非一度病院見学に来てくださればと思います。お待ちしております。



大西将央

2017 年度採用研修医 小田侑希(奈良県立医科大学卒)(現 奈良県西和医療センター泌尿器科勤務)

私は 2017 年4月から 2019 年3月まで奈良県西和医療センターで初期研修を行い、2019 年4月より奈良県立医科大学泌尿器科で後期研修医をしておりました。そして、2020 年の4月より奈良県西和医療センターの泌尿器科の医員として働くことになりました。この度当院での初期研修について紹介する機会をいただきましたので簡単ですが紹介させていただきます。当院での初期研修では、初期研修医に必要な知識や技術を2年間で十分学ぶことができます。また、研修のプログラムとして当院以外に奈良県立医科大学や奈良県総合医療センターへの研修も可能であり、2年間でいろいろな施設に研修できるため研修の自由度が高いと思います。私は、救急科を奈良県総合医療センターで、泌尿器科を奈良県立医科大学で研修し、複数の異なる環境を体験でき大変勉強になりました。地域医療研修では神奈川県の三浦市立病院に1ヵ月研修し、奈良県とは違う地域医療を体験できることも魅力の一つです。当院の院内セミナーは年々充実し、現在では適度は数で良質な講義を受けようとなっております。研修医主体で開く勉強会なども多く、医師として必要な発表する能力などが自然と養われます。日々の診療で自学自習が難しくてもセミナーや勉強会に出ることでカバーできる体制が整っております。当院での初期研修で培ったことはその後の医師人生のバックボーンとなっていると実感しております。ぜひ当院での研修を検討してみてください。



小田侑希

2017 年度採用研修医 曾我真弘(奈良県立医科大学卒)

初めまして、2017 年度採用の外科の曾我と申します。

初期研修2年間は奈良県西和医療センターで研修し、その後奈良医大に入局しました。病院の特色として医師・看護師など病院にかかわる人が親しみやすく、アットホームで、すぐに溶け込むことができました。また外科と内科の垣根も高くなく、気軽に相談しあえる関係で仕事もスムーズに進みます。

当院での初期研修2年間はとても充実したものであったためこれから当院で研修する先生方は後の医者人生においてとても有意義であると思われます。教育熱心な各科の先生方に加えて外部講師を招いて行われるレクチャー、エコーなどの手技の実習も豊富です。必ず研修医の先生方の力になると思います。まず当院に見学に来てみて雰囲気を感じてください。当院で研修したくなること間違いなしです！



曾我真弘

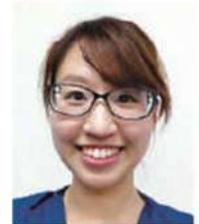
2018 年度採用研修医 田畑成美(関西医科大学卒)

初期研修の2年間は忙しくも楽しい、非常に充実した時間でした。私が感じた当院の魅力についてご紹介したいと思います。

まず何よりお伝えしたい当院の特徴は、アットホームな雰囲気です。各診療科の垣根が低く、コミディカルなスタッフの方々は大変親切です。一緒に働くスタッフの方々から日々多くのことを学ばせて頂きました。

さらに当院のプログラムの特徴として、他院でも研修できることが挙げられます。大学病院と比較すると市中病院は診療科数が少なく、研修できる診療科も限られてしまいます。しかし、当院では希望すれば研修2年次に他院で研修を行うことが可能です。複数の病院で研修できる市中病院は多くはありません。実際に私は当院にはない神経内科や精神科を他院で選択しました。普段とは異なる環境で働くことができたことも大変良い経験になりました。

医師としての最初の時間をぜひ当院で過ごしてみませんか。まずは一度見学に来て、当院の雰囲気を肌で感じて頂ければと思います。



田畑成美



研修医の日常

2018 年度採用研修医 田丸遙菜（奈良県立医科大学卒）

2018 年度採用の田丸です。私が当院での初期研修を選んだ理由としては、同期が多すぎずまとまりが良さそうなことや研修医の教育に情熱を持って病院全体で行っていること、研修医2 年目になるとそれぞれに合わせた研修プログラムを組めることでした。教育に力を入れたプログラムで、救急患者さんの対応や入院患者さんの管理はもちろん行いますが、心電図やエコー、感染症、画像の読影などについてレクチャーがあり、一人で学ぶよりも見て聞いて実践することでより多くの事を吸収することが出来ました。特にエコーは一人で学ぶには限界があるので、上級医の指導のもと研修医同士でエコーの練習をすることで手技が身に付けることができました。普段の業務の中でも疑問があるときは上級医の先生方が理解できるまで丁寧に教えてくださるので、日々多くのことを吸収することができました。毎日学ぶことが豊富にあり充実した研修医生活を送ることができ、医師としてスタートを切る病院として奈良県西和医療センターを選んで良かったなと思っています。興味を持たれた方はぜひ一度見学をして雰囲気をお確かめください。



田丸遙菜

2018 年度採用研修医 北村俊介（奈良県立医科大学卒）

初めまして。2018 年度採用の北村俊介です。

奈良県西和医療センターの2 年間の初期研修を終えて、自分が感じたことを述べさせていただきます。市中病院であり、common disease や手技の機会が豊富で、自分が研修していない他科の上級医とも話しやすく、なんでも学ぶことが出来る環境は整っていると思います。同期の数も 10 人程度で、とても仲良くなりやすい人数ではないでしょうか。医師としてのスキルが上げる機会が多いのはもちろんですが、中規模の病院であり、すべてのスタッフとの距離が近く、研修医も入ってチーム医療を行うことが出来、今後の自分自身の医師としての振る舞い方を考える事ができる、充実した2 年間の研修を送れると断言できます。学生での病院実習と医師として働きだしてからは、自分自身の医療に対する意識や責任が全く違い、戸惑うことも多いかと思います。当院であれば、そんな不安も全くなく、2 年間充実した研修が送れます。是非一緒に働きましょう。



北村俊介



2018 年度採用研修医 芝田洋輔(関西医科大学卒)(現奈良県西和医療センター腎臓内科勤務)

初めまして、内科専攻医の芝田です。私はたすき掛けプログラムのため、研修1年目を大学病院(奈良県立医科大学付属病院)で行い、2年目から奈良県西和医療センターで研修を行いました。今回は研修を通じて感じた大学病院と市中病院の違いについて紹介させていただきます。

まず病棟業務についてです。大学病院の入院患者は専門性が高く、専門的な知識を学ぶことができる反面、研修医が自分で考えて検査や処方をする機会は多くありませんでした。奈良県西和医療センターはもちろん専門性の高い患者もいますが、common disease の患者も多いため、報連相をしっかりとすれば大学病院よりも臨床に関われる幅が広いと思います。

次に当直業務についてです。大学病院の当直は診療科ごとの当直が多く、研修医1年目であったこともあり、ファーストタッチは上級医が行うことが多かったです。研修医は上級医の指示に従い、採血などのサポートを行っていました。奈良県西和医療センターの当直は研修医1年目から内科救急当直を行います。基本的にファーストタッチは上級医の指導のもとで研修医が行い、自分で考えて検査や治療をできる機会が多いです。もちろん、分からないことがあれば上級医が快く相談に乗って下さり、事前の情報で研修医のみでの対応が難しいと予想される場合は上級医も初療に加わって下さります。現在内科専攻医として当直業務を行うにあたり、研修医時代の経験が生きていることを実感しています。

また、大学病院は研修医の人数が多く、診療科ごとの講義はありますが全体に向けた講義はほとんどありませんでした。奈良県西和医療センターは研修医の人数に限られている分、講義が充実しています。専門の先生が分かりやすく教えて下さるため、心電図やエコーなどについて自学自習よりも深く理解できたと実感しております。

見学に来て頂ければ、より違いを実感できると思いますので、ぜひ1度当院にお越し下さい。



柴田洋輔

2019 年度採用研修医 宇野春日(奈良県立医科大学卒)

2019 年度採用の宇野と申します。私が研修医として勤務していた際、一番気に入っていたのは立地環境です。生活の質の向上には、施設設備や研修プログラム以上に病院や家の環境が重要です。奈良県西和医療センターのある王寺は街の住みこちランキングで全国1位に輝いた魅力あふれる街です。さらに西和の研修医用借り上げ住居は他病院の研修医から羨ましがられるほどでした。私生活でしっかりと休養できる分、仕事にも身が入り充実した研修医生活となりました。残念ながら詳細をご説明するには文字数が足りませんので、ぜひ見学時に質問してみてください。私は3年目以降の進路として公衆衛生医師を選び、今は名古屋市保健所中保健センターで勤務しています。入職後すぐ新型コロナウイルス感染症の「第4波」が到来し、最前線で感染症対策にあたりました。行政医でありながら臨床に従事する場面が多々ありましたが、西和で感染症関連業務や郡山保健所研修など経験していたおかげで円滑に業務にあたることができました。西和ほど研修プログラムを進路に沿うよう柔軟に調整いただける臨床研修病院は貴重だと思います。またどんな進路を選んででも応援し支えてくださる懐の深さに救われていました。改めてご指導いただいた先生方や職員の方々ならびにご尽力いただいた事務の皆様にご礼申し上げます。



宇野春日

研修医の日常

こんにちは。

当院で 2 年間の初期研修を修了し、3 年目も小児科医として引き続き当院に配属されていました久保と申します。

2 年間の研修に飽き足らず、3 年目を迎えた私がまず言っておきたいことは初期研修の病院として奈良県西和医療センターを選んでよかったと思っているということです。これは研修終了時に同期が口を揃えて言っていたので、お気に入りポイントは人により違えど、まあそういうことなんだろうと思います。数ある中のお気に入りポイントをいくつかご紹介します。

1 つ目は、研修医のために数多くのレクチャーや講義が組まれている点です。これらの講義では上級医の先生方が事前にポイントを絞り準備をしてくださり、わかりやすく、またフランクな形で進めてくれるため、前向きに参加しながら様々な知識や手技を身につけることができます。病院に用意してもらわなくても研修医向けの勉強会そのものはたくさん開催されていますが、自分で参加するものは興味のある分野だけに偏ってしまいがちです。興味を限定せず勉強する機会を得ることができるという点で良かったと思っています。さらにもう一つの利点として、自分が回った、回っている科以外の先生ともコミュニケーションを取る機会が常にあり、研修医にとって相談しやすい環境が自然と出来ていたことも良かった点です。

2 つ目は、先生方はもちろんコメディカルの方々も含めて研修医を育てようという雰囲気、体制がある点です。これは当院で研修するにあたっての最大の魅力であると思います。上級医はもちろん、コミュニケーションをとる機会の多い看護師さんや技師さんなど病院で働く全員が温かく接して下さるので 1 年目の右も左もわからない状態の時から安心感の中で研修を行うことができます。また、私の研修 2 年目は COVID-19 という新たな脅威に対して研修医も含めて病院全体で奮闘するという予想外の出来事が起こった年でした。そんな時でも研修医の外病院での研修や勉強会の参加の仕方など、できるだけ研修不良にならないようにと常に研修担当の先生方が困りごとはないかヒアリングしてくださり対応してもらったことで研修を無事終えることができましたと思っています。臨床面においても、内科救急当直ではファーストタッチを任せられ、問診、身体所見、鑑別、検査、治療を多岐にわたって考え、上級医の先生の指導の下でフィードバックもすぐにしてもらえるため、常に様々な疾患や考え方に触れることができ、日々成長を実感しながら勉強することができます。年間で 500 件程度の救急のファーストタッチを行います。数以上の知識、学びを引き出してもらえます。

まだまだありますが、少々長文となっているのでこのあたりで…。

ご縁があれば、一緒に働きましょう。



久保昂司



2019 年度採用研修医 坂元優太(奈良県立医科大学卒)

奈良県西和医療センターで初期研修を修了し、現在は奈良県立医科大学付属病院で勤めております、坂元優太と申します。奈良県西和医療センターの研修生活について微力ながらお伝え出来ればと思います。初期研修医の二年間は医師として、社会人として少しでも一人前になれるように日々の研修生活を送ることが重要ですが、同時に自分自身の今後の進路についても考えていかななくてはなりません。学生時代から自分の志望科が明確な方もいますが、大部分の方は初期研修医中に志望科を選択しています。奈良県西和医療センターは研修内容の自由度が高く、自分の進路が明確になりつつある初期研修医一年目の冬に初期研修医二年目のプログラムを決定することが出来ます。志望科として悩んでいる科を幅広く回ることも出来ますし、自分の志望科が明確な人は自分の科に関与しうる科を中心に研修することが出来るため初期研修医にとっては非常にメリットが大きいです。また病院全体として研修医を熱心に指導しようとする風潮があり、日々の病棟業務、当直業務、勉強会等の研修生活を送っていく中で少しずつ成長を実感することも出来ます。また他府県への交通の便が良いことも魅力の一つです。少しでも当院に興味を持たれた方は是非一度見学にいらしてください、お待ちしております。



坂元優太

2019 年度卒研修医 助川正泰(東北大学卒)

2019 年度採用の助川です。私は元々出身が関東で東北の大学を卒業しており、奈良県はおろか関西地方で生活したこともありませんでした。縁あって奈良県西和医療センターで研修することになりましたが、研修前は正直不安な気持ちが多かったと言えます。しかし実際に研修医として働き始めて今感じることは、この病院で研修することができて本当に良かったという事です。病院全体がアットホームな雰囲気の中で研修医を教育する意識が浸透しており、分からないことがあっても指導医の先生方やコメディカルの方々がとても親切に教えてくださいます。また、心電図やエコー、放射線読影などの日々の様々なレクチャーも充実しており、研修医は優先的に出席することができるというのも研修医の学ぶ環境として非常に優れた当院の特徴の一つであると思います。より多くの魅力を感じることが出来ると思います。お待ちしております。



助川正泰



研修医の日常

2019 年度採用研修医 三好智浩(奈良県立医科大学卒)

こんにちは。2019 年度採用の三好です。新しい環境に身を置くと、自分1人では解決できないことが必ずでてきます。そのときに頼れるのは先輩医師や、看護師をはじめとしたメディカルスタッフ、そして同期です。奈良県西和医療センターには、疑問が適切に解決され日々の成長に確実につながれる環境があります。そしてその成長は私自身も日々感じ取りながら仕事ができおり、充実しております。また同期は約 10 人と適度な人数なので、一人当たりの症例数が過不足なく、一つ一つの症例が消化不良にならずに、どうすれば次に活かせるかをしっかり吟味することができるのも良い点と言えます。日々の勉強会も充実しているのですが、学生のころと異なり、対話形式の講義が多く、記憶に残りやすいため、一人で学ぶよりも効率的であると思います。立地に関しても、王寺駅が最寄りなので大阪の市街地に比較的アクセスしやすく、仕事終わりや休日のリフレッシュもとりやすい環境です。当センターの魅力は写真や文章だけでは伝えきれません。ぜひ一度お越しいただき、当センターのあたたかい雰囲気や教育への想いを感じ取っていただければ幸いです。



三好智浩

2019 年度採用研修医 中川龍太郎(奈良県立医科大学卒)

2019 年度採用の中川です。奈良県西和医療センターの魅力をいくつかご紹介したいと思います。ひとつは研修医の人数です。当院の初期臨床研修医は、1 年目 2 年目ともに 8 名という人数ですが、これが多すぎず少なすぎず、絶妙な人数だと感じております。症例の取り合いなどは起こらず、全員に均等に機会がやってきますし、かといって負担になりすぎることありません。日々数多くの症例や手技を丁寧に指導いただけて、すぐ実践するチャンスがやってくるのは非常に大きいポイントだと思います。



中川龍太郎

つぎに挙げたいのは、柔軟な臨床研修プログラムです。2 年目からは各々自由に回る科を選択することができますし、病院も奈良県立医科大学附属病院や、奈良県総合医療センターなどで研修させていただくことも可能です。自らの関心のある診療科や当院では研修できない科を、他の病院で研修させていただけるのは、非常に優れたプログラムと考えます。

最後に挙げるのは、豊富な勉強会です。優しく教育熱心な先生方による勉強会は、明日からの臨床現場で生かされるものばかりで、毎回多くのことを吸収できます。

少しでも興味をもっていただけたら、ぜひ奈良県西和医療センターへ見学に来てください。研修医一同お待ちしております。



2019 年度採用研修医 伴理紗子(東北大学卒)

2019 年度採用の伴 理紗子です。この度は奈良県西和医療センターに興味を持っていただきありがとうございます。当院での研修は毎日が充実しております。研修医としての日々の業務に加えて、多くの勉強会が開催されており、毎回たくさんのことを学ばせていただいております。

当院の良いところの 1 つとして、病院全体がアットホームな雰囲気であることです。上級医の先生はもちろんのこと、看護師やコメディカルの方々、皆さんが親切で分からないことがあっても丁寧に教えてくださいます。また 1 年目の研修医数が 8 人と少数であることから、一人一人覚えてもらえて、何かと気にかけてくださいます。



伴理紗子



2019 年度研修医 前防克也(関西医科大学卒)

初めまして、前防克也と申します。私は 2021 年 3 月まで奈良県西和医療センターで初期研修をしていました。西和医療センターでは研修医のための様々な勉強会があり、実践的な知識を学ぶことができます。2020 年は中止になりましたが、医療器具メーカーの施設を借り、泊まりがけで心肺蘇生や様々な手技のトレーニングをするイベントも毎年開催されていました。宿泊施設では温泉を楽しむ、宴会も行われ、良い思い出になりました。研修医自身が様々なテーマ(頭痛、腹痛、発熱など)

についてまとめて発表する勉強会や、大和川メディカルアカデミーという院内学会もあり、指導医の先生方のアドバイスを受けながら、人前で発表する経験も積むことができました。

研修科については、最初に内科で基礎的な知識を学ぶことになっており、当直などにもある程度対応できるようしっかりと指導して下さいます。基本的にどの科でも担当症例数を調節し、各症例に関して考察する時間を多く設けてくださいます。そのため一つ一つの症例について深く理解することができ、考える力を養えます。手技についても経験する機会が多くあり、習得しやすい環境が整っています。2 年目はかなり自由に科を選択でき、奈良県立医科大学附属病院など他院で研修することも可能です。西和医療センターでは指導医の先生方はもちろん、スタッフの方々全員が研修医に対して丁寧に接して下さいます。コミュニケーションの取りやすい雰囲気、病院全体で研修医を受け入れ、育てようとしてくださっているのだと感じます。私は研修に関する悩みで指導医の先生に相談させていただいたことがありますが、真剣に話を聞いてくださり、とても気持ちが楽になりました。今でも感謝しています。



前防克也

研修医の日常

2020 年度採用研修医 衣川博貴(奈良県立医科大学卒)

こんにちは。2020 年度採用の衣川です。この度は当院に興味を持っていただきありがとうございます。奈良県西和医療センターでの研修は、私が思っていた以上に充実していて、非常に手厚い研修を受けさせていただいていると感じています。研修医として働いてみると分かるのですが、一年目の研修医なんて学生とほぼ変わらず(特に私の場合がそうなのかもしれませんが)、上級医やコメディカルの方々に迷惑をかけることばかりです。しかし、そんな私でも当院のすばらしい指導医の先生方、またスタッフの方々のご協力のおかげで、少しずつ医師としての一步を踏み出していていると感じております。

当院での研修の魅力の一つを挙げるなら、やはり救急外来での内科救急のファーストタッチを行えることがあるでしょう。当院は西和地域の二次救急までを請け負っていますが、内科的救急疾患の初期診察、必要な検査オーダーなどは研修医が行うことになっています。症候、身体所見に応じた鑑別を挙げ、必要な検査、治療を考える作業はその全てが難しくも非常に実になるもので、学ぶことが尽きません。もちろん、指導医の先生のもとで行うのでいつでも相談することができますし、フィードバックもしていただけます。

研修サポートという側面での魅力の一つを挙げるなら、当直の翌日は基本的にお休みを頂けることがあるでしょう。研修させて頂いている身ですがしっかりと休養を取らせていただけて(先生方も基本的に快く休養を勧めてくださいます)、次の日からまた全力で研修に励むことができます。

そのほかにも、研修医室にはパソコンが一人一台用意されていてカルテも開けること、多くのレクチャーがあること、立地がとても良いことなど、当院の魅力は挙げればキリがありません。ぜひ一度当院に足を運んでみてください。皆さんの見学を心よりお待ちしております。



衣川博貴



2020 年度採用研修医 中川穂香(奈良県立医科大学卒)

初めまして。2020 年度採用の中川です。

奈良県西和医療センターでの研修内容に興味を持っていただきありがとうございます。

研修を終えて改めて感じた奈良県西和医療センターの魅力について少しでもお伝えできたらと思います。当院での研修の一番の魅力は、教育熱心な先生方と親切に接して下さる医療従事者の方々だと思います。私は最初に内科を4ヵ月ローテートしたのですが、指導医の先生方が業務の合間を見つけて、研修医に手技を指導する時間をとってくださったり、症例の文献を検索し教授して下さったり、忙しい外来の合間にも外来患者さんを一人一人説明し指導して下さったりと、熱心に指導して下さり充実した日々を過ごすことができました。

また、研修を始めた当初はわからないことばかりで落ちこんでしまうことも多かったですが、共に働く看護師さんが「いずれはできるようになるから」と励まして下さったり、指導医の先生が「疲れてない？頑張ってるね」と声をかけて下さったり、温かい環境に励まされていました。

足を運んでいただけたらと思います。



中川穂香

2020 年度採用研修医 畠健悟(奈良県立医科大学卒)

初めまして、2020 年度採用の畠 健悟です。当院の研修は 1 年目は内科系など必修科を中心に回ります。そこで、カルテの書き方、処方の仕方など基本的なことから診断・治療に必要な知識など医師としての基本を学びます。研修医の数が少なく、症例・手技を取り合うことなく多くを経験させていただいております。最初は学ぶことが多く、簡単なことでも時間がかかり苦労も多かったのですが、どの科でも例外なく、指導医の先生方は熱心で忙しくも充実し成長を実感できる日々を過ごしています。看護師さんや薬剤師さんなど他の医療関係者との距離も近く、様々なことを気軽に相談させていただいたりして、多職種間での連携の重要性を学ぶこともできました。当直業務では救急患者さんの初期対応を上級医の指導のもと、研修医が自ら考えて鑑別を挙げ・検査をオーダーし、アセスメントして治療を行うことで、多様な疾患について学ぶことができます。研修医は学生時代とは違い、自分の判断や行動が患者に

できれば嬉しく思います。



畠健悟



研修医の日常

2020 年度採用研修医 松本直也(奈良県立医科大学卒)

2020 年度採用の松本です。奈良県西和医療センターの臨床研修は少人数制の研修であるため、症例を取り合うことはありません。研修医の人数が少ない分、指導医の先生方にも名前を覚えていただき丁寧な指導を受けることができます。また、当院では研修医のためのレクチャーが多く、日々様々な知識を身につけることができます。レクチャーには優先して出席できることもあり、研修医の学ぶ環境が整っています。

もし当院での研修に少しでも興味がおありでしたら、ぜひ一度見学にいらしてください。研修医一同お待ちしております。



松本直也

2020 年度採用研修医 山下真稔(奈良県立医科大学卒)

2020 年度採用の山下と申します。奈良県西和医療センターでの研修生活について紹介いたします。当院では病院全体が研修医の教育に熱心で、我々が多くの知識や経験を習得するのに恵まれた環境が整えられています。様々な研修医向けのレクチャーやカンファレンスがあり、非常に勉強になります。先生方も時間をかけて熱心に指導して下さるので多くのことを学ぶことができます。さらに、上級医の先生方やコメディカルの方々がとても親切で、我々は毎日のように助けてもらいながら温かい雰囲気の中で安心して研修生活を送っています。

また、救急外来において多くの症例を経験することができるのも魅力的であると思います。当院では、研修医が上級医の指導下で初期対応として問診や身体診察、検査を行います。そして、自分自身で考えた後に、上級医と相談して治療を行います。救急外来対応時も丁寧に指導いただけるので大変勉強になります。

以上のように奈良県西和医療センターにはたくさんの魅力があり、私自身も充実した日々を過ごしています。当院での研修に少しでも興味を持たれた方は是非見学にいらしてください。お待ちしております。



山下真稔



2020 年度採用研修医 横山友亮(奈良県立医科大学卒)

こんにちは。2020 年度採用の横山友亮です。当院に興味を持っていただきありがとうございます。研修プログラムの魅力をいくつかお伝えしたいと思います。

当院では研修医のために様々なレクチャーや手技実習が行われていて、心電図、エコー、画像診断などを学ぶ機会が多く得られます。また研修医のためのモーニングカンファレンスでは、研修医同士で発表し合い、勉強した内容を共有することができます。日々の業務では上級医の先生方のみならず、コメディカルの皆さんもとても親切で仕事のことを何でも教えていただけます。救急当直では上級医の指導の下でファーストタッチを行うことができ、診察終了後にはフィードバックを受けることができるため症例を担当するごとに成長に繋がります。研修医の人数も適度であるため指導がしっかり全員に行き届き、症例の取り合いになることはありません。当直明けは業務を免除していただいたり、iPad を支給していただいたりと仕事の環境も良いので集中して研修に取り組むことができます。日常生活においては、利便性のよいJR王寺駅の近くにある広くてきれいな医師住宅を格安で利用することができます。出張や買い物の際などとても便利で奈良県とは思えないほど暮らしやすいです。見学に来ていただければより詳細に当院の雰囲気を知ることができると思いますので、ぜひ一度お越しください。



横山友亮

2020 年度採用研修医 渡邊正士(奈良県立医科大学卒)

初めまして、2020 年度採用の渡邊正士と申します。奈良県西和医療センターの臨床研修の良いところは、人数が多すぎず、少なすぎず丁度良く、また指導医の先生をはじめいろんなスタッフの方々と接することができて丁寧に指導して下さり、医師として人間としても成長できる環境と教育体制が整っているところにあります。また、当直や救急外来では、患者さんに対してファーストタッチで対応させていただくことが多く、自らで考えて行動し、その後指導医の先生方が丁寧に指導して下さります。自分で考えて行動したことに対して教えていただけるので自分で机に向かって勉強する以上の成果を得られていると実感しています。このように自主的に学べる機会が多い点もおすすめできるところです。また、レクチャーやエコーの実習、臨床英語の講義なども定期的に行われ充実しており、自分で勉強するのが苦手な人にもペースメーカーとして勉強する機会を与えてくれます。病院全体で研修医を育てようという雰囲気がにじみ出ています。



渡邊正士

現在研修医は 20 人程で研修医ルームが与えられており、1年目、2年目ともに距離が近く非常に仲が良く、毎日和気あいあいとしながら楽しくかつ切磋琢磨しながら臨床研修を行っています。最後に奈良県西和医療センターのおすすめポイントとして、自分で本を読んでガツガツ勉強するというタイプよりは指導医の先生や先輩に教えてもらいながら研修していきたい人、忙しすぎず適度に自分の時間を大切にしながら研修生活を送りたい人、この二つのどちらかに当てはまる人は是非奈良県西和医療センターに来ていただければ充実した研修生活を送れることを約束します。是非一度奈良県西和医療センターに見学に来ていただければ、さらに当院の魅力を伝えることができると思います。研修医一同お待ちしております。

研修医の日常

2020 年度採用研修医 山田光陽(奈良県立医科大学卒)

こんにちは。2020 年度採用の山田です。みなさんはどんなことを重視して研修病院を選ぼうと考えていますか？教育体制、ローテートの選択の自由度、病院の規模、雰囲気、救急受け入れの件数、研修医の人数、待遇、立地、設備の新しさ、3年日以降の専攻医プログラムなどなど、様々な視点で研修病院を探していることと思います。すでに志望の診断科が固まっており、それに合わせて研修病院を探している人もいます。

さて、ここでは 2 年間の研修全体の話をするよりも、「どのように研修を始めるか」を考えてみてほしいと思います。研修初日を想像してみてください。カルテの書き方、処方出し方、物品の配置、診察、手技などなど、少し考えるだけでわからないこと、できないことの多さに不安を覚えるのではないのでしょうか。この不安な気持ちはみんな一緒です。私も不安でいっぱいでした。そんな不安な気持ちを思い出しながら、奈良県西和医療センターのことをお伝えしたいと思います。

奈良県西和医療センターの研修は必ず内科から始まります。私は腎臓内科から研修をスタートしました。腎臓内科では4人の先生が研修医を指導して下さいます。研修初日から、入職したばかりでなにもできない自分に、小さなことから自分のレベルに合わせて課題を示してもらいました。できそうなことは任せてもらえ、難しそうなことは一緒にやり方を教えてもらえることで、充実した研修を送ることができています。課題をもらって終わりではなく、常に研修医のことを気にかけてもらえます。「なんでこの薬が入ってるかわかる？」「どうしてこのアセスメントになるかわかる？」など、先生の方からもまめに声をかけてもらえ、小さなことでも気軽に質問ができる環境が整えられています。

腎臓内科で研修をしているからといって腎臓疾患や透析患者さんだけを診るわけでは決してありません。最初の一週間だけでも誤嚥性肺炎、脳梗塞、関節リウマチなど、診療科にとらわれず様々な症例を経験させていただきました。研修で回る診療科にとらわれず、幅広く common diseases を経験することができるのも当院の大きな魅力です。

現在は1年目、2年目とも 10 人で研修しています。多すぎるほどでもなく、指導医の先生や看護師さんに顔を覚えてもらえ、かといって少なすぎて寂しくなることもなく、お互い助け合える、ちょうどいい人数です。1年目と2年目が必ずペアで当直に入ることができるというメリットもあります。広々とした研修医室もあり、電子カルテは一人一台配布され、かなり過ごしやすい環境が整っています。

他にも、日々の勉強会のことや救急外来のことなど、お伝えしたい魅力はまだまだまだたくさんあります。ぜひ見学にお越しください。お待ちしております！



山田光陽



2021 年度採用研修医 市居大季(奈良県立医科大学卒)

初めまして、2021 年度採用の市居です。奈良県西和医療センターの魅力についていくつか話したいと思います。

1つは研修医の人数です。当院の研修医は、1学年で10人、2学年合わせても20人と、多すぎず少なすぎず、ちょうどいい絶妙な人数だと思います。症例の取り扱いなどは起こらず、全員に均等に機会が回ってくるので、経験を積むことができます。1つ1つの症例や手技について丁寧に指導していただき、しっかりと学ぶ機会、手技を実践する機会を得ることができます。

当直では、救急外来にきた患者さんにファーストタッチで対応させていただけます。自分で問診をし、検査をオーダーし、自分で考えて患者さんを診ることができます。また、実際に行ったことについて、指導医の先生からフィードバックして指導をしていただけます。自分で考えて、自分で行動し、また、そのことについて教えていただけるので、机で勉強する以上の成果が得られると思います。また、レクチャーが多いのも魅力の1つです。様々なレクチャーがあり、その1つ1つが、実践的な内容で、研修をするうえで非常にためになります。特に、毎週金曜日にある中村孝人先生のレクチャーでは、実際に経験した症例をもとに振り返りを行い、疾患だけでなく、診察についても学ぶことができます。もし、奈良県西和医療センターに興味がおありでしたら、ぜひ見学にいらしてください。研修医一同お待ちしております。



市居大季

2021 年度採用研修医 川島遼太郎(奈良県立医科大学卒)

初めまして、2021 年度採用の川島です。

私は最初に内科 4 か月をローテートさせていただきましたが、どの診療科の先生方も熱心に指導していただき、雰囲気の良い中で研修することができました。また、コメディカルの方も丁寧に教えてくださる方ばかりで、分からないことがあっても誰にでも聞きやすい環境になっています。研修医は 1、2 年目合わせて 18 人と多すぎず少なすぎずのちょうど良い人数です。様々な志望科を持った色々な考え方をを持った研修医が周りにいることで、毎日いい刺激をもらっています。何より当院は救急当直の初期対応は基本的に研修医のみで行っていて、2 年目の先輩方には救急対応や患者の病態について教えていただき、1 年目の同期とは支え合いながら様々な救急症例を経験することができています。ローテートで特に印象に残っているのは呼吸器内科で、基本的な検査や内科処置の手技を自分の技量に合わせて段階的に教授して下さったうえ、深く病棟管理に携わらせていただき初期対応から終末期のお看取りまで患者さんと向き合える時間を多く持つことで自信と責任を持って患者さんと接するようになったと思います。

この病院で勤務していて感じたのは、上級医や先輩の研修医の方々、コメディカルの皆さんが 1 年目の研修医をしっかり見てくださっているということです。できていないことや間違っていることがあれば見逃さず指導して下さいますし、成長した部分に関してはしっかり評価していただき先の段階を見据えてより進んだ教育をして下さいます。この点が当院で研修する上で最も魅力的であると考えています。是非一緒に研修医生活を送ってみませんか。お待ちしております。



川島遼太郎

研修医の日常

2021 年度採用研修医 河村健矢(奈良県立医科大学卒)

初めまして、2021 年度採用の河村健矢です。

僕が研修を終えて、実感した奈良県西和医療センターでの研修の良さについてお話しさせていただきます。当院は病院全体としてとても教育に熱心です。

様々なレクチャーやカンファレンスがあり、非常に勉強になります。さらには当直以外でも内科ローテーション中、救急対応の機会があり、多くの救急症例を経験することが出来ます。

救急対応やカンファレンスの準備、病棟業務などどれも大変なことばかりですが、その分日々学びがあります。そして上級医、コメディカルの方々、皆さんとても親切に指導していただき日々楽しく研修生活を過ごさせていただいています。

少しでも奈良県西和医療センターでの研修に興味を持たれたらぜひ見学にいらしてください。お待ちしております。



河村健矢

2021 年度採用研修医 高橋広太(神戸大学卒)

2021 年度採用の高橋です。これから奈良県西和医療センターと奈良県の魅力を伝えさせていただきたいと思います。僕はもともと兵庫出身で奈良にゆかりは全くありませんでした。兵庫での就職を大体決めていたので、単なる興味で近隣地域の病院を探していました。その中で西和は倍率も程々で立地と教育も悪くないと思い興味を持ちました。早速 Zoom での説明会に参加してみました。参加してみたら驚くことに学生 2 人に対して先生方が何十人も参加しておられました。そのときの熱意に感動し、実際にこの目で見てみたいと心から思いました。見学に行き、西和の人の優しさ、奈良の自然と古来の文化の心地よさに触れ、魅力に取り憑かれてしまいました。気づいたら第 5 志望探しから見つけた病院を第 1 志望に上げていました。

研修医は最初知らないことだらけでストレスいっぱいですが、病院に関わる多くの人に支えてもらっているからこそ健全に研修生活が送れているのだなと感じます。特に優しい先輩、面白い同期には感謝しかありません。

奈良県に来たのも正解で日々落ち着いた雰囲気には癒されています。まだまだ奈良県に関しては素人なのでこれからどう堪能していこうか画策しております。



高橋広太



2021 年度採用研修医 棚瀬万葉(大分大学卒)

初めまして、2021 年度採用の棚瀬万葉と申します。この度は奈良県西和医療センターのパンフレットを手にとって頂きありがとうございます。当院の魅力を少しでも皆様にお伝えできれば幸いです。当院の魅力は大きく3つあると思います。

1つ目の魅力は、上級医の先生方や全ての医療従事者が親身になって研修医を指導して下さることです。入院患者さんや救急受診した患者さんが診察・治療を受けて自宅や施設に帰るまで様々な職種の方と連携をとりながら医療を施します。上級医の先生から診察方法や鑑別疾患の考え方等を学ぶだけでなく、薬剤師さんから薬の副作用や容量、薬物動態などを学んだり、理学療法士さんと退院に向けてのリハビリ調整をしたり、社会福祉士さんに施設へ帰る段取りをして頂いたりと多職種の方と多方面で関わり医療の仕組みを学ぶことができます。

2つ目はレクチャーが豊富なことです。1つの診療科を1か月ないし2か月ごとにローテートしますが、私は当直や救急外来で患者さんを診察する際に自分が今研修している診療科の思考に偏ってしまいます。放射線読影講義やエコーの練習、心電図の読み方など様々な分野のレクチャーがあるおかげで思考が偏ることなく広い視野で患者さんを診察することができると思います。

最後は何と言っても、優しく教えて下さる先輩方・互いに高めあえる同期の研修医の存在です。どの病院でも体力的・精神的にしんどいことはあると思います。その時に助け合い一緒に成長できる仲間がいることは一生の財産になります。私も幾度となく助けられてきました。

一度奈良県西和医療センターへ見学に来て、病院の雰囲気を感じていただけたら嬉しく思います。心よりお待ちしております。



棚瀬万葉

2021 年度採用研修医 辻絢斗(佐賀大学卒)

こんにちは。2021 年度採用の辻絢斗です。当院に興味を持っていただきありがとうございます。当院の魅力を少しでもお伝えできればと思います。

当院の一番の魅力としては、指導医の先生方との距離感が良く、何でも質問しやすい環境であることが挙げられます。当直で様々な先生方と接する機会があるのですが、どの先生方も熱心に指導して下さい、とても勉強になります。

また、エコーや心電図、放射線読影など様々な勉強会が企画されており、幅広い知識を身につける事ができると思います。そして、救急外来では患者さんに研修医がファーストタッチで対応させていただく場合が多いので、勉強会で学んだ知識を実践する機会も多く、知識の定着も早いと感じています。当院の研修医は私を含め他大出身者も多く、多様性に富んでおりとても楽しいです。奈良医大出身の先生方との壁もないので、他大学の方も気後れせずに来ていただければ嬉しいです。先輩の先生方との仲も良く、困った際はすぐに助けてくださり非常に心強いです。

当院の雰囲気の良いは実際に見学に来ていただければすぐに伝わるとお思いますので、ぜひ病院見学にお越しください。お待ちしております。



辻絢斗

研修医の日常

2021 年度採用研修医 辻本虹歩(香川大学卒)

この度は、奈良県西和医療センターでの初期研修に興味を持ってくださりありがとうございます。今この文章を読んでいるあなたがもしもまだ見学に来たことがないのなら、今すぐに見学の申し込みをすることをおすすめします。というのも、パンフレットやホームページではその病院の雰囲気などを本当に意味で知ることは難しいからです。私は奈良県西和医療センターがどんな病院なのかあまり知らずに見学に来たのですが、ここで働く医師やコメディカルの方々の雰囲気に魅力を感じ、その日のうちにこの病院が第一志望になりました。実際に働き始めて、同期や先輩の研修医の先生だけでなく指導医の先生方やコメディカルの方々に毎日のように助けられて過ごしています。この環境でなければここまで一生懸命研修に取り組むことはできていないと思います。初期研修の2年間は精神的にも体力的にも辛い場面がたくさんあると思います。この病院だったら2年間で自分らしくしっかりと頑張ることができそう、と思える病院をぜひ見つけてください。あなたにとってその病院が奈良県西和医療センターであることを願っています。



辻本虹歩

2021 年度採用研修医 中西祥子(徳島大学卒)

こんにちは。2021 年度採用の中西です。

研修を通して実感した奈良県西和医療センターの良さを少しでもお伝え出来ればと思います。奈良県西和医療センターにはスキルアップのための豊富な勉強会、研修医が自分で設定できる柔軟な研修プログラム、病院と駅の両方に近い利便性の高い下宿先、医局と独立した研修医ルームなどたくさんの魅力があります。そして何よりも医師間、多職種間の仲の良さが1番だと思います。初めての当直で不安な中、看護師の方が「大丈夫だった？」と声をかけて下さり、翌朝上級医や先輩研修医が「分からなかったところがないか見直そうか」と一緒に復習して下さい、心強いサポートで乗り切ることが出来ました。今も病棟や救急の現場で熱心で親切な指導医や先輩研修医、頼れる看護師の方々に支えられ励まされて学ぶ日々です。

ぜひ一度見学に来てください。皆さんと一緒に働ける日を楽しみにしています。



中西祥子



2021 年度採用研修医 西崎友哉(奈良県立医科大学卒)

初めまして、2021 年度採用の西崎です。

奈良県西和医療センターでの研修に興味を持っていただきありがとうございます。

当院での研修は、まず内科系を 2 ヶ月ローテートしカルテの書き方や処方の仕方など基本的な業務を学ぶことから始まります。最初は簡単な事でも時間がかかり苦勞もありますが、少しずつ着実に力をつけていくことができます。私の場合は呼吸器内科を選択したのですが、薬剤師さんや理学療法士さんなどコメディカルの方々との連携や在宅酸素療法の導入など、内科病棟業務の基本を学ぶことが出来ました。また、動脈採血など基本的な手技の習得はもちろんのこと、5 月には胸腔穿刺も経験することができ、技術面においても大きく成長することが出来ました。

そして、その後 1 年目は必修科目を中心にローテートし、診断や治療に必要な基本的知識・技術を身につけていきます。この文章を書いている今は麻酔科をローテートしていますが、かなりの数の気管挿管を経験することができ、A ライン確保や腰椎穿刺などについても十分な数をこなすことが出来ます。教育熱心な先生方と親切に接して下さるコメディカルスタッフの方々に支えられ、日々成長を実感しながら充実した研修生活を送ることができます。

ます。



西崎友哉

2021 年度採用研修医 齊藤正一郎(奈良県立医科大学卒)

こんにちは、2021 年度タスキの齊藤と申します。

奈良県西和医療センターでの初期研修の最大の特徴はなんと言ってもそのフレキシブルさにあります。病床数は 300 床と大病院とは言えませんが、その分先生同士の距離が近く、やる気さえ示せばなんでもやらせてもらえ、経験することができます。

太平洋戦争時の折、連合艦隊司令長官であった山本五十六の有名な言葉に「やってみせ、言って聞かせて、させてみせ、ほめてやらねば、人は動かじ」というものがあります。西和の先生方やコメディカルの方々

は皆さん大変優しく、この言葉通りの教育を僕は西和の研修で日頃から感じることができています。

2 年目になると奈良県立医科大学などの関連病院での研修も行うことができ、血液内科や脳神経内科など奈良県西和医療センターにはない診療科の研鑽の補填はしっかりされることになります。

このように小規模病院の良さを生かしつつ、デメリットも埋めるシステムが整っているのが奈良県西和医療センターという病院ですが、逆に言うと自分で研修システムを良い方向に変えていこうというマインドが全くない人や、そもそもあまりやる気がない人には向いていないかもしれません。フレキシブルさや先生方の優しさが仇となりいわゆるハイポ病院での研修に近いものになってしまいます。

奈良県西和医療センターは日々の研修に対して改善点を見つけていけるようなマインドのある研修医、「それ、やらせてください」と言える研修医を求めていますし、僕もそのような後輩と研修を一緒にできたらいいなと思っています(まあこれを読んでくださる後輩の先生方が西和で働き始める時僕はもういませんけど笑)



齊藤正一郎

研修医の日常

2021 年度採用研修医 藤中加奈(奈良県立医科大学卒)

初めまして、2021 年度採用の藤中と申します。奈良県立医科大学付属病院 B(通称たすき)プログラムで初期研修の2年のうちの1年目の研修を奈良県西和医療センターで行いました。当院での研修が決定してから研修がスタートするまで病院や職員の皆様に馴染むことができるだろうかと不安もありましたが、杞憂でした。春からの研修生活で実感している当院の魅力は指導医だけでなく病院全体のスタッフの方々の心遣いの細やかさです。当院の初期研修医は救急外来でのファーストタッチ、病棟業務、種々の手技などを最前線で行います。そのような恵まれた日々は病院全体が私たちの主体性を重んじ、かつ近くから指導・サポートして下さる環境により成り立っています。2年目研修医の先生も1年目研修医にその時々様々なアドバイスをしてくださり、とても良好な関係を築けています。またレクチャーなどの多さも当院初期研修プログラムの魅力ではありますが、多様な業務を行いながら勉強会に出席することは容易いことではありません。それでも業務外での学びの機会を享受できるのはこれらの活動に対する参加を病院全体があと押ししてくださっている背景があるからだと感じています。この雰囲気は初期研修医一人一人のやる気へ繋がっており、私個人としてはとても感謝しております。

総じて、私たち研修医の声によく耳を傾けてくれる病院です。より良い研修の形を求めて指導医の先生のみならず、研修医も一丸となって取り組んでおります。ぜひ、当院の初期研修プログラムにご興味を持たれました方は、見学・Web 見学にいらしてください。初期研修医をはじめ病院全体で皆様をお待ちしております。



藤中加奈

2022 年度採用研修医 上野慎治(山口大学卒)

初めまして、2022 年度採用の上野慎治です。

私は最初に呼吸器内科を2ヶ月ローテートさせていただきましたが、その2ヶ月間で非常に充実した研修生活を送らせていただきました。自分で患者さんに直接会いに行き患者さんの状態を把握し、検査をオーダーしてその結果から患者さんに最善の治療を考えるといった本当に将来の役に立つ研修をさせてもらっています。自分一人で考えるのではなく、自分で考えたことを指導医の先生に相談して適切なアドバイスをしていただくという手厚い指導のもと研修しています。呼吸器内科にローテート中であっても他の科の先生に相談すれば親身に相談に乗っていただけます。奈良県西和医療センターは研修医にとって非常に有意義な2年間を送れる環境になっていると思います。

また、臨床業務以外に勉強会も非常に充実しています。例えば、中村先生の総合内科カンファレンスは身体診察の重要性や、救急外来に運ばれてきた患者さんの初期対応の基礎など研修医にとって非常にためになる勉強会となっています。

奈良県西和医療センターでの研修を通して、当センターは指導医の先生方はもちろん、先輩方やメディカルの皆さんが研修医をしっかりと見てくださる非常にアットホームな病院だと感じています。是非一度、病院見学に来て奈良県西和医療センターの雰囲気をぜひ感じ取ってください



上野慎治

2022 年度採用研修医 大久一樹(奈良県立医科大学卒)

初めまして、2022 年度採用の大久です。

僕が臨床研修を通して実感した当院の最大の魅力は、研修医教育への熱意がとても強いということです。上級医の先生方だけでなく、看護師さんや他のコメディカルの方々が、私たち研修医に対してとても親身になって指導して下さります。また、総合診療カンファレンスや放射線読影講義、超音波セミナーなど様々な勉強会が企画されており、研修医に必要な様々な知識・技術を身に付ける事ができます。そして何よりも、病院全体で臨床研修をより良くしていこうという雰囲気があることが私が当院での研修を選んで良かったと一番感じるところです。

ちしております。



大久一樹

2022 年度採用研修医 河本瑛仁(奈良県立医科大学卒)

初めまして、2022 年度採用の河本です。

奈良県西和医療センターでの研修に興味を持っていただきありがとうございます。

私が当院を選んだ理由は、熱心な教育が受けられることや、救急患者の First-touch の機会が豊富なこと、研修医の人数、雰囲気、などなど枚挙に暇がありません。実際に研修してみて、当院の魅力をあらためて実感しています。研修内容等に関する生の声は他の研修医の紹介文を参考にさせていただくとして、私がお伝えしたいアピールポイントは、病院スタッフの方々との距離感が近いことです。研修は自分次第とは言いますが、教育熱心な先生方は勿論、親切なコメディカルスタッフの方々、とても頼りになる先輩方、心技体を互いに切磋琢磨し合える同期の存在は医師として最初の 2 年間の成長における大きなアドバンテージになるはずです。

是非一度、見学にいらして下さい。当院の雰囲気を直接感じていただければと思います。奈良県西和医療センター職員一同、心よりお待ちしております。



河本瑛仁



研修医の日常

2022 年度採用研修医 中若菜(福岡大学卒)

初めまして、2022 年度採用中です。

奈良県西和医療センターは上級医の先生方だけでなく多職種の方々ともとても距離が近い病院です。研修医が困っているとみなさん助けてくださったり、指導もたくさんして下さります。日常の業務の中でだけでなく、心電図・エコー・画像読影など豊富なレクチャーでも知識を深めることができます。病院全体が研修医を育てようとしてくださっていることを強く実感し、1年目の最初で何もわからない状態であっても、毎日親切なスタッフの皆さんに助けられています。

また私は他県の大学出身で初めは緊張していましたが、奈良医大出身の先生方や同期とも壁を感じることなく楽しく働いています。ですから、もしも他県出身ということに気にされている方がいらっしゃったならそれは心配されなくて良いと思います。研修医は関西だけでなく各地方の大学から集まっています。人数も1 学年 10 人前後とちょうどいい人数で、互いに教えあったり助け合ったりと楽しく研修生活を送っています。

思います。



中若菜

2022 年度採用研修医 中川こころ(奈良県立医科大学卒)

はじめまして、2022 年度採用の中川こころです。

当院の研修環境の魅力についていくつか述べたいと思います。

1つ目は上級医の先生方だけでなく、コメディカルの方々も我々研修医をととても丁寧に指導して下さることです。先生方はお忙しい診療の合間を縫ってレクチャーやレポート添削をしていただいたり、看護師の皆様からも手技のコツを教えていただいたり、日々温かくご指導していただいています。2つ目は豊富な勉強会があることです。臨床研修と合わせて総合診療カンファ、読影セミナー、腹部エコーセミナーなど、非常に為になる勉強会を多数経験しています。仕事ですぐに役立つ内容が多く、日々の診療の中で勉強会の復習が出来ていると感じています。

3つ目は研修医へのサポートがとても手厚いことです。例えば、2022 年度から研修医に対して電子カルテ端末が1人1台支給されました。これによりカルテチェック、退院サマリやレポートの作成などが格段に便利になりました。

他にも細かい点を挙げればキリがないほど良い研修環境だと感じています。是非一度見学にいらっしやってください。



中川こころ



2022 年度採用研修医 堀木翔太(愛媛大学卒)

初めまして、2022 年度採用の堀木です。臨床研修を通して感じた奈良県西和医療センターの魅力をお伝えしたいと思います。

1つ目の魅力は、上級医の先生方との距離が近いことにあります。研修を始めたばかりの頃は、やる事なすこと全てが初めてで、わからないことが多くあります。しかし、その都度上級医の先生方に丁寧に、親身になって教えて頂けます。日々の問診、診察、処方、些細な事であってもしっかりと聞ける環境というものとはとてもありがたく、安心できる部分でもありますし、また成長できる機会でもあります。2つ目は豊富なレクチャーです。定期的にレクチャーがあることで、自分がその時ローテーションしている科以外の知識や考え方を知る事ができますので、特に幅広い知識が必要となる救急対応に役立つことを多く学べます。

3つ目は研修医の数です。1 学年 10 人程度と少なすぎず多すぎず、症例を取り合うようなこともあります。なので、色々な経験を積ませていただけますし、また研修医同士の横のつながりも深く、お互いに高めあう事ができます。

ただき、より多くの魅力を知ってもらいたいと思います。



堀木翔太

2022 年度採用研修医 三好真緒(奈良県立医科大学卒)

こんにちは、2022 年度採用の三好真緒です。

私は病院見学で奈良県西和医療センターを訪れた際、先生方はもちろん、コメディカルのみなさんのあたたかい雰囲気、人柄の良さ、そして医療に対する真摯な姿勢を目の当たりにし、見学その日に当院が第一希望の病院になりました。そして豊富な勉強会に柔軟な研修プログラムの用意されているこの病院なら、初期研修の2年間、心身ともに成長できると直感的に感じました。そしてその直感は今、限りなく確信に近づいています。

臨床研修が始まり、指導医の先生方、そして研修医の先輩方から熱心にご指導頂き、看護師さんはもちろんコメディカルの皆様方に大いに助けて頂きながら、日々成長を感じつつ楽しく充実した研修生活を送っています。これを書きながら振り返ってみれば、今は、そしてこれからも、当院で初期研修がでることに心から感謝しています。

みにしています。



三好真緒



研修医の日常

2022 年度採用研修医 元木碧人(奈良県立医科大学卒)

はじめまして、2022 年度採用の元木です。奈良県西和医療センターで臨床研修をおこない、その中で感じた奈良県西和医療センターの魅力についてお話をさせていただきたいと思います。

僕は当初、働き出すことに対して不安がたくさんありました。皆さんもそうだと思います。しかし、奈良県西和医療センターには病院全体で研修医を育てようとしてくださる教育体制が整っており、丁寧に一から教えてもらうことができるため、研修医としてスタートするのに最適な環境だと思います。先生方はもちろん、コメディカルの方々がとても親切で、様々な職種の方と関わることで多角的な目線で教わることが出来ます。

ローテーションをとっても自由に決めることができる点も魅力だと思います。柔軟にローテーションを組め、奈良県西和医療センターにない科は奈良県総合医療センターや奈良県立医科大学などに行くこともできます。また地域実習では神奈川県三浦に行くこともできるのも良い点ではないでしょうか。レクチャーの件数も適切であり、必要なレクチャーを受けることが出来ます。多すぎて消化しきれないということもなく、また自身の回っている科の業務の支障をきたすこともありません。また、研修医の人数も1 年目 2 年目合わせて、約 20 人であり、少人数でレクチャーを受けることが出来ます。

ダラダラと話してしまいましたが、もし奈良県西和医療センターに興味を持っていただければ幸いです。少しでも興味を持っていただいたら一度見学に来てみてください。1日だけでも奈良県西和医療センターの魅力を感じられると思います。お会い出来る日を楽しみにしています。



元木碧人

2022 年度採用研修医 安田由利子(奈良県立医科大学卒)

こんにちは、2022 年度採用の安田と申します。この度は奈良県西和医療センターに興味をもってくださりありがとうございます。私が初期研修病院を探すにあたり重視していたのは、勉強会などの座学的な学びと実践的な学びがどちらも充実していることでしたが、この点において西和は理想的な病院だと思います。

勉強会といっても実践的なものが多く、放射線読影講義やエコーのレクチャー、心電図の読み方など明日から使える知識を学ぶことができます。救急外来でのファーストタッチ、病棟業務、様々な手技を行う機会があればどんどんやらせていただけるため、勉強会で得た学びをすぐに生かすことができます。指導熱心な指導医の先生方や2年目の先生方、心強い看護師の方々がこまめに指導・サポートして下さるので、学びという点において申し分ない環境です。

また、西和で働く方々の人柄は大きな魅力だと思います。惜しみなく時間を割いてレクチャーしてくださったり、業務に慣れない身でつらくなっていないか気にかけてくださったり、たくさんの方々に支えられながら日々の研修生活を送っています。こういった優しさは勿論個々人のものですが、病院全体の雰囲気としてもあるように感じます。

紙面だけでは西和の魅力は全く伝えきれませんので、ぜひ一度見学にいらしてください。皆さんとお会いできるのを心待ちにしています。



安田由理子

2022 年度採用研修医 横山仁美(奈良県立医科大学卒)

初めまして、2022 年度採用の横山仁美です。この度は奈良県西和医療センターでの初期研修に興味を持っていただきありがとうございます。

当院の魅力は、勉強会が豊富な点、研修プログラムがフレキシブルな点、救急の初期対応をさせていただける点など多岐に渡りますが、なによりも医師やコメディカルの方々の雰囲気の良いところが最大の魅力だと思います。先輩の研修医や上級医の先生方だけでなく、看護師や薬剤師など様々な職種の方々が丁寧に指導して下さいます。

私はローテートの最初に総合内科を選択したのですが、「まずは慣れることが大事」と、カルテの書き方など基本的なことから優しく教えていただきました。そして先生方およびコメディカルの方々のサポートの元、手技や診察、病棟管理について多くのことを学びました。患者さんの診察を行い、鑑別を挙げ、必要な検査や治療を考え、上級医にフィードバックをいただくことで、着実に実力をつけることができます。「分からないことがあればいつでも何でも質問してくれると嬉しい」と仰っていただき、心理的安全性が非常に高い環境であると感じました。

少しでも当院での研修に興味を持たれたら、ぜひ一度見学にいらしてください。皆さんと一緒に働ける日を楽しみにしています。



横山仁美

2022 年度採用研修医 川西修平(奈良県立医科大学卒)

初めまして。2022 年度採用の川西修平と申します。奈良県立医科大学附属病院B(通称:たすき)プログラムで初期研修の1年目を奈良県西和医療センターで行っています。

当院の魅力は、研修医の指導が手厚いことが挙げられます。指導医のみならず、看護師、臨床検査技師、臨床工学技士、他にも様々な職種の方が研修医に教えて下さります。

研修医が一つ医療手技を行うにしても、まず指導医が手技の経験を研修医に勧めて下さります。そして、実際指導医に横で見てもらいながら研修医が手技を行います。その後、行った手技の評価や補足情報を教えて下さります。手技がうまく出来なかった場合でも、優しく改善点を指摘していただけます。仕事上での指導以外にも、研修医主体で行うモーニングセミナーや、放射線科による画像診断講座、超音波エコーセミナーなど、実臨床で必要となる手技を学ぶ事が出来ます。

自分自身の成長を実感できる環境が当院にはあると感じています。私は、この病院に就職できて良かったと実感しており、とても感謝しております。



川西修平



研修医の日常

2022 年度採用研修医 北風真子(奈良県立医科大学卒)

こんにちは。2022 年度採用の北風です。短い紹介文ではありますが、少しでも当院の雰囲気や魅力をお伝えできればと思います。

奈良県西和医療センターは病院全体が研修医の教育に対して高い意識を持っていると感じています。様々な勉強会、エコーや画像読影のセミナー、カンファレンスなどが企画されており、外部から講師が来てくださることも多く幅広い学びを得ることができます。働き始める前は勉強会が多いと負担にならないか心配でしたが、いまのところ負担には感じていません。むしろ働いていると自分の知識不足、経験不足を痛感する毎日なので、勉強する機会があることはとてもありがたく思っています。また、スタッフの皆さんも研修にとっても協力的で、不慣れな手技でもたついたりした時もあたたかく見守りアドバイスをくださる方ばかりです。

研修医全体の雰囲気もとてもよく、研修医ルームではみんなで採血の練習をしたり、分からないことを一緒に調べたり教え合ったりと楽しく過ごしています。先輩研修医の先生方も親切に色々教えてくださいと心強いです。周りの真面目さ優秀さに感化され、不出来な私も何とか頑張っています。一緒に頑張る仲間、尊敬できる先輩がいなければもっと怠けていたと思います…。

ここまで色々書いてきましたが、百聞は一見にしかず！実際に病院に見学に来て、雰囲気を感じ取っていただくのが 1 番だと思います。ぜひ見学にいらしてください。皆さんとお話できるのを楽しみにお待ちしております。



北風真子

2022 年度採用研修医 水野雄貴(奈良県立医科大学卒)

初めまして、2022 年度採用の水野雄貴と申します。この度は奈良県西和医療センターに興味を持っていただきありがとうございます。奈良県西和医療センターでは非常に充実した研修生活を送っております。奈良県西和医療センターの魅力に、指導医の先生方を始め、スタッフの方々が非常に教育熱心なところがあります。正直なところ研修当初は分からないことばかりで、小さいこと一つするにも苦勞していました。しかし、当院のスタッフの方々はいつでも親切にそして丁寧に教えてくださるので、日々少しずつ成長を感じることができます。特に救急当直では上級医の先生の下で、問診、身体診察、鑑別、検査、治療方針などを自分で考え、すぐにフィードバックしていただけるので、一つ一つの症例から多くのことを学ぶことができます。他にも豊富な勉強会を設けていただいたり、一人一台電子カルテのパソコンが用意されており、いつでもカルテを確認できるようにしていただいたりなど、よりよい研修ができるように先生方が研修医の意見を聞いてくださいます。

す。



水野雄貴



2023 年度採用研修医 井原弘貴(三重大学卒)

初めまして、2023 年度採用の井原弘貴です。この度は、当院のパフレットに目を通していただき誠にありがとうございます。奈良県西和医療センターの良いところは、アットホームな雰囲気があり、とても研修を行いやすい環境であるところだと思っております。ですので当院に少しでも興味がありましたら、是非一度見学に来ていただければと思います。当院は規模が大きすぎない分、どの職種の方とも顔が見える関係になります。そのため上級医の先生方は研修医を手厚く指導して下さり、また私たちも些細なことでも相談できるような関係になることができます。手技に関しても、できないことは一から教えてください、できることは私たちに任せて下さるので、確かな知識と手技を身につけることができます。その他にも他職種の方と関わる機会も多く、いつも皆さんから多くのことをご指導いただいております、そこも当院の魅力の一つだと感じております。

皆さんが見学に来てくれることを研修医一同楽しみに待っております。



井原弘貴

2023 年度採用研修医 宇和田佳太(福岡大学卒)

始めまして、2023 年度採用の宇和田です。この度は奈良県西和医療センターの研修に興味を持っていただきありがとうございます。

西和医療センターでの研修では、スキルアップのための様々な勉強会や合宿、研修医一人一人が自由に設定できる自由な研修プログラム、王寺駅近郊という県内外のアクセスのよい環境での生活、
そ

して医療スタッフの皆さんの温かさの中での業務と、挙げればきりが無いぐらい魅力的な研修環境が整っていることが自慢です。

私が臨床研修医として働き始めてから半年以上が経ちましたが、この間にルートキープから CV 挿入、動脈採血、胸腔刺、腹腔刺など様々な手技を経験することができ、さらに身に付けることができました。また、担当患者を通じて身体診察はもちろんのこと、輸液管理や抗菌薬の選択と調整、病棟管理等、様々な知識を学ぶことができましたし、各科の先生方の講義等を通じて、医学生時代よりさらに医学知識を広げ、また深めることもできています。

西和医療センターでの研修はまだまだまだたくさん魅力的なことがあります、ここでの文章では伝えきれないあたたかい雰囲気や、研修医の仲の良さ等まだまだたくさんあります。

ぜひ興味を持っていただけたら随時見学を受け付けておりますので、その際は我々研修医が西和医療センターの良さを直接十二分にお伝えします。西和医療センターが好きになること間違いありません。それではいつの日か直接会ってお話しできることを楽しみにしています。



宇和田佳太



研修医の日常

2023 年度採用研修医 北野涼太(奈良県立医科大学卒)

初めまして、2023 年度採用の北野涼太と申します。僣越ながら奈良県西和医療センターで研修して実際に感じたことやアピールしたいことをお伝えできればと思います。

まずは充実した研修環境です。研修医に向けた豊富な勉強会、自分の興味や志望に合わせて柔軟に変更できる研修プログラムなどいろいろ挙げられますが、何より職員の方々の温かな雰囲気が当院の一番の魅力だと感じています。私自身、働きはじめのころは右も左もわからない状態でしたが、指導医の先生方、そしてコメディカルの方々に助けられながら日々の業務のなかで成長を感じることができています。

また、自分にとって大きな転換点となった夏合宿も奈良県西和医療センター臨床研修の目玉の一つだと思います。夏合宿では初期研修のうちに習得すべきさまざまな手技のトレーニングに加え、CPA 患者に対するシナリオシミュレーショントレーニングを行います。2泊3日の期間で集中して手技に取り組むことで、実際に病棟や救急外来で手技を行う際や、CPA 患者さんへの初動が明確に変わったように感じています。

奈良県西和医療センターは充実した研修環境や夏合宿の実施など、病院全体としてより良い研修生活を送れるよう努力してくださっているんだなと実感しています。教育熱心であたたかな奈良県西和医療センターでの研修に少しでも興味を持たれた方は、ぜひ一度見学に来ていただければと思います。



北野涼太

2023 年度採用研修医 長宗輝都(奈良県立医科大学卒)

初めまして、2023 年度採用の長宗輝都です。西和医療センターで 1 年間勤務し、私が感じた当院の魅力についてご紹介したいと思います。

最大の特徴としては、診療科同士の垣根が低く、ローテしていない科でもいつでも相談しやすい雰囲気があることです。例えば、病棟業務で専門科について聞きたいことがある時は、垣根が低いことで相談しやすく、広い視野で判断ができる環境だと感じました。

また当直では、患者やご家族に話を聞いて自分で鑑別をあげたり手技を行ったりしながら、上級医と共に診察していきます。始めは不安でいっぱいでしたが、実践を通しながら、上級医に親切丁寧に指導していただいたおかげで、不安を感じることなく知識をつけることができました。

上級医だけではなく、他の医療関係者の方々もとても優しく接していただけます。例えば、薬についてよく分からないことがあった際には薬剤師に相談させていただくなど他職種の方々に相談できる環境も整っております。

さらには、研修ローテに自由期間が多く、将来の科が決まった方や決まっていない方も調整しやすいローテとなっています。奈良医大にも研修に行くことができ、将来考えている科の医局の雰囲気を実際に働くことでイメージすることができます。

しいと思います。みなさんがお越しになることを楽しみにしております。



長宗輝都

2023 年度採用研修医 西田瑞希(愛媛大学卒)

こんにちは、2023 年度採用の西田瑞希です。私が初期研修先として当院を選んだ理由は病院の雰囲気の良いさに魅力を感じたからです。

上級医からだけでなく、看護師や理学療法士などコメディカルの方々からも多くのことを学ぶことができ、非常に丁寧に教えてくださいます。学習環境も充実しており、業務時間内での勉強会や手技合宿など、研修病院として実践的な修練を積むこともできます。

めにも、人柄の良いこの病院で、そして切磋琢磨し合える仲間たちと共に研修をしてみませんか。



西田瑞希

2023 年度採用研修医 平野信慈(奈良県立医科大学卒)

医学生の皆さん、こんにちは。西和医療センター初期臨床研修 2023 年度採用の平野です。私が思う当院の研修の魅力は教育体制です。様々な勉強会があり、病院全体で研修医を育てようという熱意が伝わってきます。上級医から指導を受けることはもちろんのこと、検査技師さんからエコーの当て方を教わったり、看護師さんからルート確保のコツを教わったりと、他の医療スタッフからの指導もあります。このような機会から多職種との関係を築くことができます。また、モーニングカンファレンスでは研修医が研修医に対して講義を行います。講義の内容も勉強になりますが、スライド作りや、プレゼンテーション能力は今後教育者の立場になるうえでも大切な力なので、良い経験になります。少しでも興味を持った方は一度見学に来てください。皆さんにお会いできることを楽しみにしています。



平野信慈

2023 年度採用研修医 松本智基(兵庫医科大学卒)

初めまして、2023 年度採用の松本智基です。私は内科 6 ヶ月と救急科をローテートしました。内科では病棟管理に携わり、研修に必要な手技を身につけることができました。救急科では、初期対応から入院まで一つ一つの症例に深く関わるので非常に勉強になりました。私は、学生時代に見学に来たときに、スタッフだけでなく患者さんとも話しやすいアットホームな雰囲気に魅力を感じました。実際に1 年間の研修を終えてそれを改めて強く感じています。指導医の先生方は熱心で、研修医の数も多く気軽に相談できます。指導医を始めその他のスタッフも優しく、研修体制は非常に充実していると強く感じています。少しでもこの病院に興味を持っていただければ、ぜひ見学にいらして下さい。心からお待ちしております。



松本智基



研修医の日常

2023 年度採用研修医 山口隆也(高知大学卒)

2023 年度採用研修医の山口です。奈良県西和医療センターの初期研修について少しでも興味を持ってもらえればと思い、紹介させていただきます。

この病院で一番の魅力は雰囲気の良いことだと思います。指導医の先生はローテートしている科にかかわらず教えてくださったり、ご飯に連れていただいたりと公私共に仲良くしていただいています。また看護師の方や事務の方などの他職種の方からもわからないことはなんでも教えていただけるのでいつも良い環境で研修生活を送ることができています。

その他にも勉強会やレクチャーが数多く用意されており幅広く知識を得ることができます。当直では初期対応の機会が多くあり毎回きちんと指導医の先生が相談に乗ってくださるので安心して手技や診療の経験を積むことができます。また電子カルテも研修医それぞれに用意されているのでいつでもカルテを参照したりレポートを作成したりできます。このように研修医のことを考えて手厚くサポートしてくださるので非常に有意義な2年間を過ごすことができます。

初期研修を行う上で何を重視するかは人によって様々だと思います。ここでは全ては述べられませんがこの病院ならどんな人でも気に入る点が多く見つかると思います。何より雰囲気は実際に見てみないとわからないと思うのでぜひ見学にお越しください。研修医一同、楽しみにお待ちしております。



山口隆也

2023 年度採用研修医 小野寺翔子(奈良県立医科大学卒)

初めまして。2023 年度採用の小野寺翔子と申します。当院に興味を持っていただきありがとうございます。私は奈良県立医科大学付属病院の B プログラム(通称タスキ)で採用され、1 年目に当院で勤務しました。西和の 2 年間のプログラムで採用された人と同様のローテや研修指導を経験することができました。1年目に臨床の土台を築くことができるので非常に良かったです。当院をおすすめする点を下3つ紹介します。

当院は初めの 2 ヶ月は内科ローテから始まります。内科を最初に回ることによって病棟管理やカルテの書き方など初歩的なことにまずは慣れることができたのは大きかったです。また、個人的にはその2ヶ月は、1年目の2、3人と同時に同じ診療科を回ることができたので不安でいっぱいな時期に同期と一緒に学ぶことができ安心できました。同じ診療科を回るといっても指導医の先生は複数人いるので、物足りなさを感じることなく、なんなら初日から充実しすぎているぐらいの日々を過ごせました。また、当院では研修医の学びの場は非常に多いです。座学も実臨床も充実しています。座学では勉強会が豊富です。放射線読影講座では研修医レベルで知っておきたい読影の秘訣などを教えていただけるので、救急など自分で読影する場では大いに役立ちます。心電図講義ではまず根本的な心電図の話から、判断が難しい心電図の読み方などを学ぶことができ、自分が遭遇した読影が難しい心電図の相談など臨床の現場では役立つことをたくさん習得することができました。勉強会は業務時間内に行われるので負担に感じることなく、毎回楽しみにしていました。また、実臨床では自分主体で動くことができます。普段のローテでは、担当患者さんを割り振っていただくので疾患を通じて病態を把握でき、頭に残りやすいです。処置は、内科でも外科でもたくさん経験させてもらえます。救急では、患



小野寺翔子

者さんの問診や身体診察、そこから必要な血液検査や画像検査、検査結果が揃ってからの鑑別や診断を自分で行います。基本的な治療方針や患者さんへの説明までさせていただくので臨床の力は確実につくと思います。もちろん上級医の指導の下で行うので相談しながらにはなりますが、基本的には自分主体で臨床医学を行うことができるのは大きいと思います。

最後に、とにかくみんな仲がいいです。病院全体の人数もちょうどよくコメディカルの方々や上級医の方々から顔と名前が一致する関係性を築き上げることができます。休みの時には研修医同士で牡蠣小屋に行ったり、上級医の方と研修医で登山に行ったり、看護師さんにご飯に行ったりと書ききれないぐらいの思い出をたくさん作ることができました。普段から仲がいいからこそ相談しやすく、お互いを頼り合う関係性を築きあげることができます。本当にいい環境で研修医生活を過ごすことができ、感謝の気持ちでいっぱいです。

ぜひ一度見学にきてみて当院を知ってください。お会いできるのを楽しみにしています。

2023 年度採用研修医 坪田孝樹(奈良県立医科大学卒)

初めまして、2023 年度採用の坪田孝樹と申します。西和医療センターで臨床研修を行い、その中で感じた西和医療センターの魅力についてお話させていただきます。

まず初期研修を行う上での環境としては非常に良かったと思います。先生方には非常に質問しやすく、様々な手技も手厚い指導の中、実際に行うことができます。研修医として気になる部分である救急・当直についてもさまざまな症例を経験することができます。実際に自分でファーストタッチを多数行うことができ、指導医にサポートしてもらえます。また、忙しすぎるだけでなく、自由な時間も確保することができ、自分で学べる時間もあります。また、レクチャーなども多く、実際に必要な場面を想定して学習することができます。そのほかにも、中規模の病院であり、コメディカルの方々とも良好な関係を築くことができます。

このように西和医療センターの魅力は様々ありますので、ぜひ一度見学に来てください。皆さんと一緒に働ける日を楽しみにしています。



坪田孝樹

2023 年度採用研修医 中川裕貴(和歌山県立医科大学卒)

奈良県西和医療センター2023 年度採用の中川と申します。奈良県西和医療センターの良いところは、それほど大きな規模の病院ではない分、選考医の先生や他職種の方々とも顔馴染みとなり、密な関係を築けることです。分からないことがあっても、周りに聞きやすく成長しやすい職場だと思います。また、研修医同士で学ぶモーニングカンファレンスや、各科の先生方の講義など、学びの素材も揃っている病院だと思います。よろしければ見学にお越しください。



中川裕貴



私が奈良県西和医療センターを選んだ理由

私が志望した奈良県西和医療センターの魅力

2024 年採用研修医 井阪佳奈(金沢大学卒)

こんにちは、2024 年度採用の井阪佳奈です。奈良県西和医療センターの魅力についてお伝えできればと思います。奈良県西和医療センターは、病院全体が私たち研修医の教育に非常に積極的であると感じています。職種間の垣根が低く、病棟や救急外来で、先生方や看護師さんなど様々なコ

メ

ディカルの方々に、日々指導していただいています。手技が上手くできない時もありますが、その度にアドバイスをいただきいつも励まされています。また、勉強会やセミナーなども豊富に準備されており、ローテート中の診療科以外についても幅広く学ぶことができます。研修医の数が 10 人なのも、多すぎず少なすぎないちょうど良い人数だと思います。研修医ルームで採血やルート確保などの手技の練習を一緒にやったり、わからないことがあれば相談して協力しあったりしています。頼りになる2年目の先生方と賑やかな同期のおかげで、充実した研修ができています。奈良県西和医療センターに少しでも興味を持っていただけたら嬉しいです。ぜひ一度見学に来てください。

私が奈良県西和医療センターを志した理由

2024 年採用研修医 岡本怜奈(奈良県立医科大学卒)

私が奈良県西和医療センターを志した理由は大きく分けて 3 つあります。まず1つ目は切磋琢磨できる同期が多いことです。奈良県西和医療センターは全国津々浦々の大学から研修医を採用しています。同期は学んできた環境や方言も違いますが、向上心や患者さんに対する思いは一丸となっています。お互いに励まし助け合い、教え合いながらみんなでステップアップしていくことができます。

この多すぎず少なすぎずといった人数は私にとってちょうど良いと感じています。そして2つ目は診察や手技をたくさん経験させてもらえるところです。入職して2週目から当直業務が始まり、研修医は患者さんにファーストタッチを行います。もちろん初めはどうしていいのかわからないので2年目の先輩や上級医の先生と一緒に診察を行い、手技の練習を十分に経て実践に移ります。他の病院の研修医に比べても遙かに経験値は高いと私は思います。病院見学に来た際はぜひ、研修医がどのように働いているか見て欲しいです。最後に3つ目は病院の職員がみんな優しいところです。奈良県西和医療センターでは、コメディカルみんなで研修医を育てる、といった雰囲気があります。上級医が指導するのはもちろん、看護師さんも手技を行う際に横について見守ってフィードバックをくださります。技師さん、薬剤師さん、理学療法士さんなど、コメディカルの方から勉強させていただくことも多いです。みなさんの雰囲気が温かいので気兼ねなく質問もできて毎日たくさんの学びを得て、のびのびと研修が行えます。この雰囲気の良さを、実際に当センターに来て感じてもらえたらと思います！奈良県西和医療センターは大阪からのアクセスも良いので、気軽に病院見学に来てもらえたらうれしいです。ぜひお待ちしております。



井阪佳奈



岡本怜奈

奈良県西和医療センターを初期研修先に志望した理由

2024 年度採用研修医 甲斐友卓(九州大学卒)

私は福岡生まれで、大学卒業まで福岡で育ちましたが、初期研修は福岡にこだわらず本当に自分が働きたいと思える病院で研修をしたいと思い、日本全国 10 力所ほど病院見学に行きました。その中で、私が奈良県西和医療センターでの研修を志望した理由をいくつか書きたいと思います。私は奈良県には縁もゆかりもないのですが、レジナビ福岡で奈良県西和医療センターのことを知りました。まず魅力を感じたのは、説明して下さった研修医の方々の仲の良さです。和気あいあいとした雰囲気の中で協力しながら奈良県西和医療センターの良いところを伝えてくださり、本当に西和のことが好きなん

だなと感じました。それがきっかけで実際に病院見学に行きましたが、研修医の方々はもちろん、院長や研修プログラム責任者の先生も気さくに優しく接して下さり、研修プログラムについても丁寧に教えて下さいました。当院は一学年あたりの人数が 10 人程度と多くはなく、出身地や大学にこだわらず北海道から九州まで日本全国から様々なバックグラウンドを持った研修医が集まっており、研修医室はいつもいろいろな話題で溢れています。病院の規模も 300 床と大規模ではないので、医師だけでなくコメディカルや事務の方々に至るまで全員が研修医を見守り、育てようと尽力して下さっていると感じています。その心地良い雰囲気が、分からないことは分からないと素直に聞けることや、初めて挑戦する手技に緊張しすぎず挑めることにつながっていると思います。

西和の研修プログラムは、一言で表すと「柔軟」です。必修である内科をどの科にするか、ローテートする順番、関連病院の選択などにとっても柔軟に対応していただけますし、研修していく中で仮に志望科が変わったとしても、必要に応じて決定後の変更も可能です。将来の自分の為になる研修を自分でオーダーメイドすることができます。input と output のバランスがいいことも魅力の一つです。エコーや放射線読影などのセミナーが適度にあり、そこで得た知識を病棟や救急対応で活かすチャンスがたくさんあります。他の病院での研修後に赴任された専攻医の先生方も当院のセミナーを研修医の頃に受けたかったと羨ましがっておられました。

を感じることで当院の魅力がより伝わると思います。研修医一同お待ちしております。



甲斐友卓

私が奈良県西和医療センターを研修病院に選んだ理由

2024 年採用研修医 小巻美月(旭川医科大学卒)

奈良県西和医療センターを研修病院として考えて下さったことを嬉しく思います。

私は出身大学が旭川医科大学であり、北海道から初期臨床研修を受けるため奈良県西和医療センターに来ました。当院をレジナビという冊子で知り、5年生の頃に初めて奈良県西和医療センターを見学させていただきました。病院の温かな雰囲気、先生方やコメディカルの方々、研修医の方々の人柄や雰囲気の良さを実際に肌で感じ、その点をとても魅力的に感じました。奈良県にある他の病院も見学させていただきましたが、奈良県西和医療センターで研修を受けたいと心に決めたのはこの点が一番大きいと感じています。また、整った研修環境、教育熱心な先生方や率先して働いておられる研修医の方々の姿を間近で見させていただき、当院で研修を受ければ研修医として身につけるべき能力や手技・心構えを会得する事ができると確信しました。そして、働き始めて益々当院の良さを



小巻美月

研修医の日常

日々実感しています。共に学ぶ賑やかな研修医同期や、頼りになる優しい研修医2年目の先生方にも恵まれ、当院を選んだ自分の選択は間違いではなかったと確信しています。

当院は約 300 床を有する中規模病院です。そのため、診療科ごとの垣根も低く、指導医の先生方との距離も近いので、何か疑問に感じたことや分からないことがあればすぐに質問や相談がしやすい環境が整っています。また、研修医1人に1台ずつ電子カルテ端末が与えられており、さらに手技の練習を行うことができるトレーニングルームもあるなど研修環境として申し分ないと思っています。

研修医は全国から集まっています。奈良県の学生が優先採用されて奈良県以外の学生が不利になるということはありません。自分自身が行ったことのない全国の各地域から奈良にやって来た研修医同士で、地元の話をしあうのは新たな発見もありとても楽しいひと時です。

少しでも奈良県西和医療センターに興味を持って下さったのであればぜひ見学に来てください。そして当院の良さを実際に見て感じていただきたいです。皆さんにお会いでき、研修を通して共に成長していけることを楽しみにしています。



研修設備

- ・研修医室あり(医局と独立)
- ・研修医一人一人に机、電子カルテ端末
- ・研修医専用当直室及びシャワー室
- ・各種臨床手技トレーニング器材(トレーニングルーム)
- ・電子書籍(UpToDate, Medical Online)の利用が可能



待遇

- ・給与 (1年目)月額274,100 円(基本給)
(2年目)月額288,100 円(基本給)
※別途諸手当あり(超過勤務手当、通勤手当、住居手当等)
- ・年間給与支給額 (令和5年度実績平均)
(1年目)5,827,987 円
(2年目)6,420,635 円
- ・勤務時間 8:30~17:15
- ・休日 土曜日、日曜日、祝日、年末年始(12/29 ~ 1/3)、
夏季休暇(3日)
その他、慶弔休暇、代休制度あり
- ・保険 地方職員共済組合(保険、年金)、雇用保険、公務災害補償
- ・医師賠償責任保険 病院において加入(個人加入については任意)
- ・宿舎等 なし(住宅手当の支給あり)
- ・健康管理 定期健康診断(年2回)
- ・施設 コンビニ(ファミリーマート)



募集要項

【プログラム名】

奈良県西和医療センター臨床研修プログラム

【応募資格】

第 121 回(2027 年)医師国家試験を受験する者 または、医師免許を持つ者

【募集定員】

10 名

選考の方法

【 応募期間】

6 月 1 日から 6 月 30 日 ※詳細はホームページ上にて公開

【試験内容】

- ・面接
 - ・小論文(テーマは試験当日に配布)
- ※希望者には web 上での試験を実施

【試験日時】

7 月頃～ 9 月頃を予定

※具体的な日程はホームページ上で公開

<https://seiwa-mc.jp/residents/clinical-training/application/>

【試験会場】

奈良県西和医療センター 事務棟 大会議室
(生駒郡三郷町三室 1-14-16 王寺駅又は
新王寺駅下車徒歩 15 分)

【採用方式】

マッチング方式(医師臨床研修マッチング協議会準拠)

【応募必要書類】

- ・臨床研修医選考試験願書及び採用申請書
- ・卒業見込証明書
- ・5年次までの成績証明書
- ・健康診断書(大学健康診断時のものでも可)
- ・受験用返信封筒
(出願者本人の住所・氏名を記載した受験票返信用封筒)

【応募連絡先】

奈良県西和医療センター 臨床研修医支援室(総務課)

電話 0745-32-0505(内線 2212)

メールアドレス seiwa@nara-pho.jp



病院見学のご案内

【目的】

医学生を対象とし、当院で実施している急性期医療、救急医療などの高度な医療を含めて実際の医療現場を見学し、人としての医療人のこころと急性期病院での医療に対する認識を深めていただきます。

【受付期間】

随時受付(土日祝日及び年末年始 12 / 29 ~ 1 / 3を除く)希望に応じて夜間の見学も可能ですのでお申し出ください。

【担当】

希望診療科の指導医及び臨床研修医支援室の医師が担当します。

【設備】

更衣室あり、院内にコンビニ・自動販売機あり

【見学可能診療科】

標榜診療科すべて見学可能です。

※診療科の状況により、見学が適わない場合がございます。予めご了承ください。

※各診療科の見学可能曜日は以下の通りです。

- 呼吸器内科: 木曜日
- 循環器内科: 火・木
- 腎臓内科: 金曜日以外見学可
- 総合内科: 第1・第3 火曜日のみ見学可
- 消化器外科: 月・水
- 脳神経外科: 火・金
- 小児科: 月・水・金
- リハビリテーション科: 火・水
- 産婦人科: 月・水・木
- その他診療科: 指定無し

見学当日は、学生証、白衣、スクラブ、名札(大学のもの)をご持参ください。

【病院見学申込方法】

臨床研修ホームページの申込フォーム(下記URLまたはQRコード)よりお申込みください。

<https://seiwa-mc.website/clinical-training/tours/form-tours/>





2016年度研修医



2017年度研修医



2018年度研修医



2019年度研修医



2020年度研修医



2021年度研修医



2022年度研修医



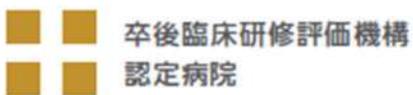
2023年度研修医



2024年度研修医



2025年度研修医



Japan Council for Evaluation of Postgraduate
Clinical Training

JCEP



地方独立行政法人 奈良県立病院機構
奈良県西和医療センター
NARA PREFECTURE SEIWA MEDICAL CENTER